

下河原崎谷中台遺跡 下河原崎高山古墳群

上河原崎・中西特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 4

平成 20 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第292集

しも か わら ぎき や なか だい
下河原崎谷中台遺跡
しも か わら ぎき たか やま
下河原崎高山古墳群

上河原崎・中西特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 4

平成 20 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



下河原崎谷中台遺跡遠景（西から）



第55号住居跡 炭化材出土状況

序

茨城県は、世界的な科学技術研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。平成6年7月に茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業を進めています。この事業の一環として平成17年8月に開通した「つくばエクスプレス」は、つくば市と東京圏を直結させ、人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力となっています。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財発掘調査について委託を受け、上河原崎・中西特定土地区画整理事業に伴い、平成13年度に鳥名ツバタ遺跡、平成16年度に元宮本前山遺跡・鳥名ツバタ遺跡、平成17年度に下河原崎谷中台遺跡・鳥名ツバタ遺跡の発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既に当財団の文化財調査報告第203・265・282集として刊行しています。

本書は、平成18年度に調査を行った下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群の調査成果を取録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人見 實 徳

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字下河原崎字谷中臺697番地に所在する下河原崎谷中台遺跡、同市下河原崎字三夜下449番地の1ほかしもかわらざきやなかのだいに所在する下河原崎高山古墳群しもかわらざきたかねこの発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査	平成18年10月1日～平成19年3月31日
整 理	平成19年10月1日～平成20年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群	
首席調査員兼班長	川村 満博
主任調査員	飯泉 達司
主任調査員	齋藤 真弥
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、主任調査員齋藤真弥が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、当遺跡で確認された炭化物の分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、考察は付章として掲載した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅳ系座標を原点とし、下河原崎谷中台遺跡については、X軸=+7,400 m、Y軸=+18,400mの交点、下河原崎高山古墳群は、X軸=+7,160m、Y軸=+18,800mの交点を基準点(A 1a)とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SI-住居跡 SK-土坑 TP-陥し穴 SY-炭焼窯跡 TM-古墳 P-柱穴
遺物 P-土器 TP-拓本記録土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品・古銭
土層 K-攪乱


- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は500分の1(下河原崎谷中台遺跡)・200分の1(下河原崎高山古墳群)、遺構実測図は原則として60分の1とした。種類により異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩

 炉・火床面

 竈部材・粘土・黒色処理

 柱痕・柱のあたり・煤

● 土器・拓本記録土器

○ 土製品

□ 石器・石製品

△ 金属製品

--- 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、m、cm、gである。なお現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本記録土器、土製品、石器・石製品、金属製品・古銭ごとに通し番号とし、本文・挿図・写真図版に記した番号も同一である。

- 6 「主軸」は、竈を持つ住居跡についてはそれらを通る軸線とし、その他の遺構については長軸(径)を通る軸線を主軸とみなした。主軸方向は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

抄 録

ふりがな	しもかわらざきやなかだいせいき		しもかわらざきたかやまこふんけん						
書名	下河原崎谷中台遺跡		下河原崎高山古墳群						
副書名	上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次	4								
シリーズ名	茨城県教育財団法人 茨城県教育財団								
シリーズ番号	第292集								
著者名	齋藤 真弥								
編集機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL.029-225-6587								
発行年月日	2008(平成20)年3月24日								
ふりがな	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
下河原崎 谷中台遺跡	茨城県つくば市 大字下河原崎字 谷中臺697番地	08220 - 382	36度 03分 58秒	140度 02分 23秒	22.7 ~ 23.7m	20061001 ~ 20070331	6,848㎡	上河原崎・中西 特定土地地区画 整理事業に伴う事 前調査	
下河原崎 高山古墳群	茨城県つくば市 大字下河原崎字 三夜下449番地 の1ほか	08220 - 054	36度 03分 48秒	140度 02分 35秒	22.4 ~ 23.2m	20061001 ~ 20070331	2,025㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
下河原崎 谷中台遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 陥し穴 土坑		7軒 1基 1基		縄文土器(深鉢)		古墳時代の竪 穴住居跡から、 床に敷かれた 根太の炭化材 が出土した。
		古墳	竪穴住居跡 土坑		25軒 5基		土師器、須恵器、土製品(土玉・ 球状土錘・支脚・炉器台)、石 器(磨石・叢石・石皿・砥石)、 石製品(勾玉・白玉・紡錘車・ 石製模造品・双孔板)、炭化材 (根太)		
	その他	近世 不明	炭焼窯跡 土坑	1基 100基	陶器(常滑) 土師器				
下河原崎 高山古墳群	古墳群	古墳	前方後円墳		1基		土師器		
	その他	不明	土坑		21基		土師器		
要約	下河原崎谷中台遺跡は、平成17年度の調査区域を含めると、縄文時代と古墳時代の竪穴住居跡約80軒が確認されている集落跡である。今回報告の調査区域は、平成17年度の調査区域の北部で、古墳時代の竪穴住居跡からは、床に敷かれた根太の炭化材が確認された。 下河原崎高山古墳群の調査区域は、第5号墳の東部分である。今回報告の調査で、第5号墳が前方後円墳であることが確認された。								

目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 下河原崎谷中台遺跡	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	9
1 縄文時代の遺構と遺物	9
(1) 竪穴住居跡	9
(2) 陥し穴	19
(3) 土坑	20
2 古墳時代の遺構と遺物	21
(1) 竪穴住居跡	21
(2) 土坑	92
3 近世の遺構と遺物	99
炭焼窯跡	99
4 その他の遺構と遺物	101
(1) 土坑	101
(2) 遺構外出土遺物	114
第4節 まとめ	116
第4章 下河原崎高山古墳群	123
第1節 遺跡の概要	123
第2節 基本層序	123
第3節 遺構と遺物	126
1 古墳時代の遺構と遺物	126
古墳	126
2 その他の遺構	130
土坑	130
第4節 まとめ	134
付章	
写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、首都圏とつくば市を結ぶつくばエクスプレスを開通させるとともに、それに伴う沿線開発に取り組んでいる。

平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長に対して、上河原崎・中西特定土地区画整理事業における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成10年12月1日、平成11年3月9～11日、4月14・21・22日、6月9・10日に下河原崎谷中台遺跡、平成11年2月15～19日、23～26日及び3月4日に下河原崎高山古墳群の試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成12年3月24日に、茨城県教育委員会教育長は茨城県知事あてに、事業地内に下河原崎谷中台遺跡及び下河原崎高山古墳群が所在する旨回答した。

平成17年1月25日、企画部つくば・ひたちなか整備局新線沿線整備課長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3（現第94条）の規定に基づき、下河原崎谷中台遺跡に関する土木工事等のための発掘について通知した。平成17年2月2日、茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから企画部つくば・ひたちなか整備局新線沿線整備課長あてに、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、工事着手前に発掘調査を実施するように通知した。

平成18年1月25日、企画部つくば・ひたちなか整備局新線沿線整備課長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3（現第94条）の規定に基づき、下河原崎高山古墳群に関する土木工事等のための発掘について通知した。平成18年2月6日、茨城県教育委員会教育長は企画部つくば・ひたちなか整備局新線沿線整備課長あてに、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、工事着手前に発掘調査を実施するように通知した。

企画部つくば・ひたちなか整備局新線沿線整備課長は、茨城県教育委員会教育長と、上河原崎・中西特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は企画部つくば・ひたちなか整備局新線沿線整備課長あてに、下河原崎谷中台遺跡及び下河原崎高山古墳群について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、企画部つくば・ひたちなか整備局新線沿線整備課長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年10月1日から平成19年3月31日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群とも平成18年10月1日から平成19年3月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

下河原崎谷中台遺跡（平成18年10月1日～平成19年3月31日）

工程		期間		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		調査	準備							
調査表	土構	準備	確認	■			■			
遺構	調査			■						
遺注	写真	洗作	浄業		■					
補撤	足	調査	収						■	

下河原崎高山古墳群（平成18年10月1日～平成19年3月31日）

工程		期間		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		調査	準備							
調査表	土構	準備	確認	■			■			
遺構	調査			■						
遺注	写真	洗作	浄業		■					
補撤	足	調査	収						■	

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

下河原崎谷中台遺跡及び下河原崎高山古墳群は、それぞれ茨城県つくば市大字下河原崎字谷中臺697番地、つくば市大字下河原崎字三夜下449番地の1ほかに所在している。

つくば市は筑波山を北端に、その南西側に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。また、それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高5～10mの沖積地が発達している。さらに、両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており、これらによって台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

この筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層(0.3～5.0m)及び褐色の関東ローム層(0.5～2.0m)が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

下河原崎地区は、つくば市の南西部、旧谷田郡域に位置しており、西谷田川に面した標高23mほどの台地上に立地している。台地は主に畑地として耕作され、沖積低地は水田として利用されている。下河原崎谷中台遺跡は、西谷田川左岸の帯状に延びる台地の端部に位置し、沖積低地部から8mほど急激に立ち上がった台地上の緩斜面部に立地している。下河原崎高山古墳群は、下河原崎谷中台遺跡の南東約500mにあって、下河原崎谷中台遺跡の所在する同一台地の南端部に位置し、標高は22mほどである。今回の調査区域は、第5号墳の東部分である。

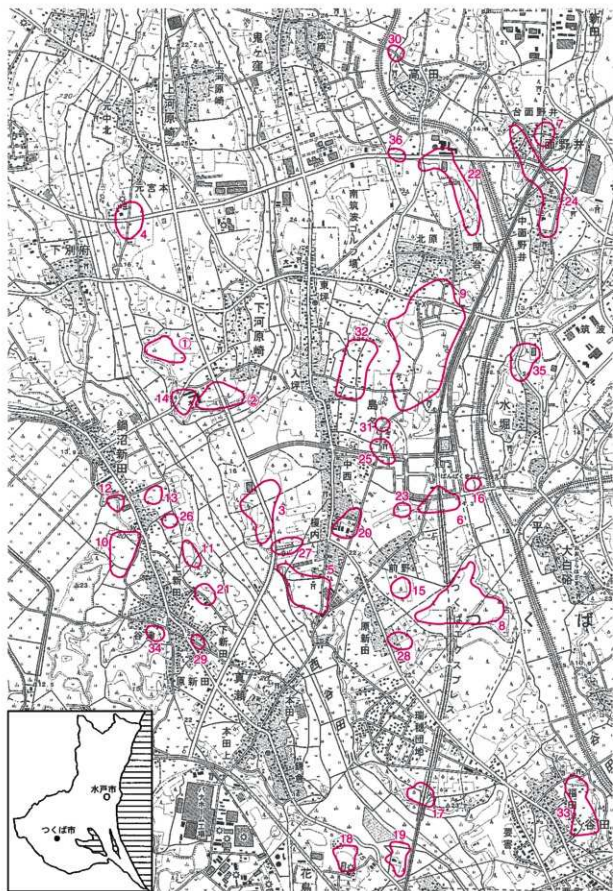
下河原崎谷中台遺跡及び下河原崎高山古墳群の調査前の現況は山林であった。

第2節 歴史的環境

周辺の小貝川や東谷田川、西谷田川、蓮沼川流域の台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。

旧石器時代では、西谷田川左岸台地上の下河原崎谷中台遺跡²⁾〈1〉や烏名ツバタ遺跡²⁾〈3〉、元宮本前山遺跡⁴⁾〈4〉、烏名榎内南遺跡⁴⁾〈5〉のほか、東谷田川右岸の烏名前野東遺跡⁵⁾〈6〉があり、ナイフ形石器、角錐状石器をはじめ石核や剥片などが出土している。下河原崎谷中台遺跡の平成17年度調査区では、石器集中地点2か所が確認され、ナイフ形石器、角錐状石器のほか石核や剥片が出土している。元宮本前山遺跡からは、石器集中地点1か所が確認され、ナイフ形石器や石核・台石などが出土している。また、面野井北ノ前遺跡⁶⁾〈7〉では荒屋型彫器などが出土している。

縄文時代の遺跡は、西谷田川左岸の台地縁辺部に立地する下河原崎谷中台遺跡で、早期の竈穴や後・晩期の集落跡が確認された。東谷田川右岸の烏名境松遺跡⁷⁾〈8〉では中期から後期の集落跡や土器焼成遺構と考えられる土坑が調査され、烏名熊の山遺跡⁸⁾〈9〉では、陥し穴が確認されている。小貝川左岸の台地上に立地する真瀬山田遺跡⁹⁾〈10〉は、中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土し、隣接する真瀬堀南遺跡¹⁰⁾〈11〉、真瀬山田北遺跡¹⁰⁾〈12〉、鍋沼新田長峰遺跡¹⁰⁾〈13〉からも縄文土器片が出土していることから、広範囲に



第1図 下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群周辺遺跡分布図 (国土地理院 1 : 25,000 「谷田部」)

表1 下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	古墳	奈・平	中世	近世
①	下河原崎谷中台遺跡	○	○	○				19	上萱丸古屋敷遺跡		○	○	○	○	
②	下河原崎高山古墳群			○				20	鳥名榎内古墳群			○			
3	鳥名ツバタ遺跡		○	○	○	○		21	真瀬新田古墳群			○			
4	元宮本前山遺跡	○	○	○				22	鳥名関ノ古墳群			○			
5	鳥名榎内南遺跡	○		○	○			23	鳥名前野古墳			○			
6	鳥名前野東遺跡		○	○	○	○	○	24	面野井古墳群			○			
7	面野井北ノ前遺跡			○	○	○	○	25	鳥名八幡前遺跡			○	○	○	
8	鳥名境松遺跡		○	○				26	真瀬堀附北遺跡			○			
9	鳥名熊の山遺跡		○	○	○	○	○	27	鳥名榎内遺跡			○			
10	真瀬山田遺跡		○					28	鳥名タカドロ遺跡		○				
11	真瀬堀附南遺跡			○				29	真瀬中畑遺跡		○	○			
12	真瀬山田北遺跡		○	○				30	高田和田台遺跡			○			
13	鍋沼新田長峰遺跡		○					31	鳥名薬師遺跡			○			
14	下河原崎高山遺跡			○	○			32	鳥名本田遺跡			○	○	○	
15	鳥名一町田遺跡		○					33	谷田部福田前遺跡		○	○	○		
16	鳥名前野遺跡			○	○			34	真瀬新田谷津遺跡		○				
17	谷田部漆遺跡		○					35	水堀下道遺跡			○			
18	真瀬三度山遺跡		○	○		○		36	鳥名関ノ台遺跡			○			

わたって集落が存在していたと想定される。さらに、元宮本前山遺跡では早期後葉の竈穴が確認され、中期以前に断続的に集落が営まれてきたことが理解される。

弥生時代の遺跡は少なく、谷田部地区では中期から後期の遺物が出土した鳥名境松遺跡^{鳥名境松遺跡}や下河原崎高山遺跡^{下河原崎高山遺跡}〈14〉、鳥名一町田遺跡^{鳥名一町田遺跡}〈15〉などが確認されただけである。

古墳時代になると、遺跡数の増加が顕著となる。前期では、鳥名熊の山遺跡^{鳥名熊の山遺跡}〈16〉、鳥名前野東遺跡などで集落跡が調査され、鳥名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基も確認されている。しかし、これらの集落はいずれも小規模で、東谷田川に沿って点在していた集落の一つと捉えることができる。

中期になると、集落は西谷田川沿いにまで広がりを見せ、前述した遺跡に加えて、谷田部漆遺跡^{谷田部漆遺跡}〈17〉や鳥名ツバタ遺跡、元宮本前山遺跡、真瀬三度山遺跡^{真瀬三度山遺跡}〈18〉、上萱丸古屋敷遺跡^{上萱丸古屋敷遺跡}〈19〉などでも集落跡が確認されている。特に元宮本前山遺跡では、集落内に滑石模造品製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡の平成17年度調査区では、県内初の琴柱形石製品が出土して注目されている。前・中期のこうした集落は、いずれも台地の縁辺部や低湿地地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、集落の立地や形成には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強いと想定されている。

後期になると、台地の内陸部にまで集落が及ぶようになる。谷田部地区では古墳群11か所、古墳約300基が確認されており¹⁰、急速に古墳が築造されていたことが分かる。周辺には、鳥名榎内古墳群^{鳥名榎内古墳群}〈20〉、真瀬新田古墳群^{真瀬新田古墳群}〈21〉、鳥名関ノ古墳群^{鳥名関ノ古墳群}〈22〉、鳥名前野古墳^{鳥名前野古墳}〈23〉、面野井古墳群^{面野井古墳群}〈24〉、などが確認されている。集落跡

の様相は、中期において東谷田川、西谷田川両河川台地縁辺部から低地にかけての広い範囲で小規模な集落が形成されてきたのに対し、後期になるとしだいに島名照の山道跡を中心に大集落が形成され、台地の内陸部まで集落が及ぶようになる。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 高野裕隆「下河原崎谷中台道跡・島名ツバタ道跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
- 3) 菅川 修「島名ツバタ道跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2007年3月
- 4) 高野裕隆「元宮本前山道跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 5) 寺門千穂・田原康司・梅澤貴司「島名前野東道跡・島名境松道跡・谷田部漆道跡 島名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 6) 鹿島直樹「島名関ノ台南B道跡・面野井北ノ前道跡 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第231集 2004年3月
- 7) 久野俊度「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告書 境松道跡」『茨城県教育財団調査報告』第41集 1987年3月
- 8) 田中幸夫・酒井雄一・桑村裕・田月淳一・松本直人「島名照の山道跡 島名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 2006年3月
- 9) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- 10) 稲田義弘「島名前野道跡 島名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 11) 注5) に同じ
- 12) 白田正子「三度山道跡 古屋敷道跡 (仮称) 壹丸地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 13) 注12) に同じ
- 14) 注9) に同じ

参考文献

- つくば市教育委員会『つくば市道跡地図』2001年7月
茨城県教育庁文化課『茨城県道跡地図』2001年3月

第3章 下河原崎谷中台遺跡

第1節 遺跡の概要

下河原崎谷中台遺跡は、つくば市西部を南流する西谷田川左岸の標高22~24mの台地端部に立地している。今回報告するのは、平成18年度に調査した2区(6,848㎡)であり、平成17年度に調査した1区(16,924㎡)の北側にあたる。縄文時代と古墳時代の複合遺跡である。

今回の調査で確認された遺構は、縄文時代の堅穴住居跡7軒、陥し穴1基、土坑1基、古墳時代の堅穴住居跡25軒、土坑5基、近世の炭焼窯跡1基、その他の土坑100基である。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に45箱出土しており、遺物の大半は古墳時代のものである。主な遺物は、縄文土器(深鉢)、土師器(坏・碗・埴・高坏・壺・甕・甗・ミニチュア土器・手捏土器)、須恵器(坏・甕・甗)、土製品(土玉・球状土錘・支脚・炉器台)、石器(鎌・磨石・敲石・石皿・砥石)、石製品(勾玉・白玉・紡錘車・双孔円板・石製模造品)、鉄製品(鉄滓)、古銭などである。

第2節 基本層序

調査区の東部(B5 e0区)にテストピットを設定し、第2図に示すような土層堆積の状況を確認した。土層は8層に細分され、観察結果は以下のとおりである。

第1層は、黒褐色の耕作土層で、ロームブロック・ローム粒子を微量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は13~30cmである。

第2層は、黒色粒子を微量含む褐色のソフトローム層で、層厚は17~28cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層で、層厚は22~30cmである。

第4層は、にぶい黄褐色のハードローム層で、層厚は20~32cmである。第I黒色帯に相当すると考えられる。

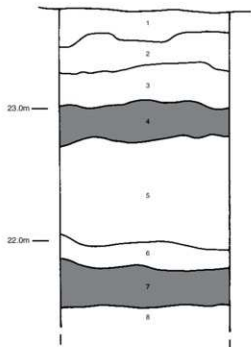
第5層は、褐色のハードローム層で、層厚は62~87cmである。

第6層は、褐色のハードローム層で、白色粒子・ガラス質粒子・赤色粒子を微量含み、層厚は12~21cmである。始良Tn火山灰(AT)を含む層に対比される。

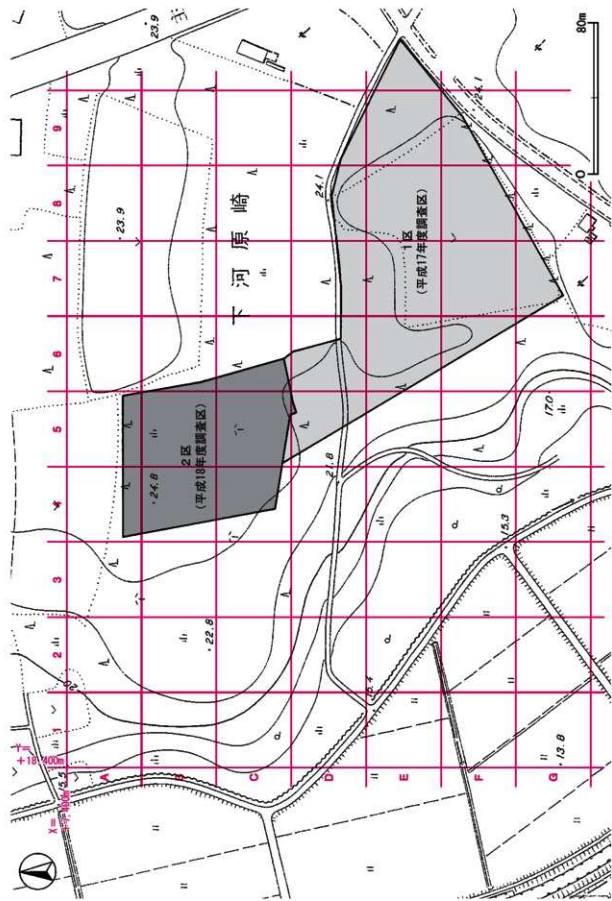
第7層は、暗褐色のハードローム層で、白色粒子・黒色粒子を極めて微量含み、層厚は25~38cmである。第II黒色帯に対比される。

第8層は、オリブ褐色のハードローム層で、明黄褐色の砂粒を少量含み、粘性・締まりとも特に強い。下部は未掘のため、本来の厚さは不明である。

なお、住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。



第2図 基本土層図



第3図 下河原崎谷中台遺跡調査区設定図

第3節 遺構と遺物

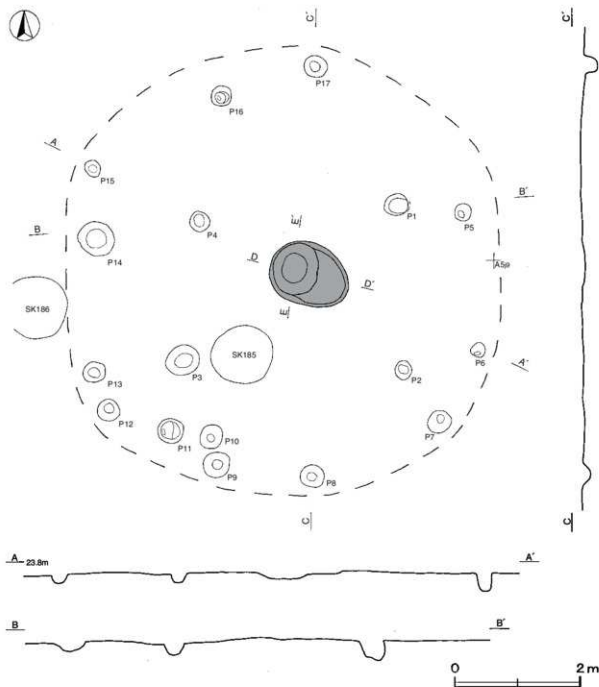
1 縄文時代の遺構と遺物

今回確認した当時代の遺構は、竪穴住居跡7軒、陥し穴1基、土坑1基である。

(1) 竪穴住居跡

第52号住居跡 (第4～6図)

位置 調査区北東部のA5j8区、標高23.7mの平坦な台地上に位置している。



第4図 第52号住居跡実測図(1)



第5図 第52号住居跡実測図(2)

確認状況 確認面で、炉とピットを検出した。

重複関係 第185・186号土坑と重複しているが、覆土がないため、新旧関係は不明である。

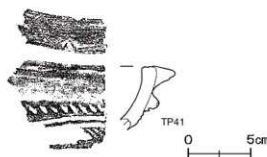
規模と形状 壁は残存していないが、炉や柱穴の配置から長径7.30m、短径6.90mほどの円形と推定される。

床 ほほ平坦であり、硬化面は認められない。

炉 ほほ中央部に位置し、長径120cm、短径98cmの楕円形で、深さ21cmである。床面を掘りくぼめた炉で、火床面は3～5層上面で火により赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量・炭化物微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |



第6図 第52号住居跡出土遺物実測図

ピット 17か所。P1～P4は深さ13～31cmで、配置から主柱穴と考えられる。P5～P17は壁際に設置され、深さ13～70cmで壁柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。TP41を含む土器はすべて細片で、確認面に散在する状況で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。

第52号住居跡出土遺物観察表(第6図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP41	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にがい橙	普通	口辺部隆帯上キザミ及び直下半軌竹管による平行沈積 単節縄文RLを地文	確認面	

第59号住居跡(第7図)

位置 調査区北東部のA5Ⅱ区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

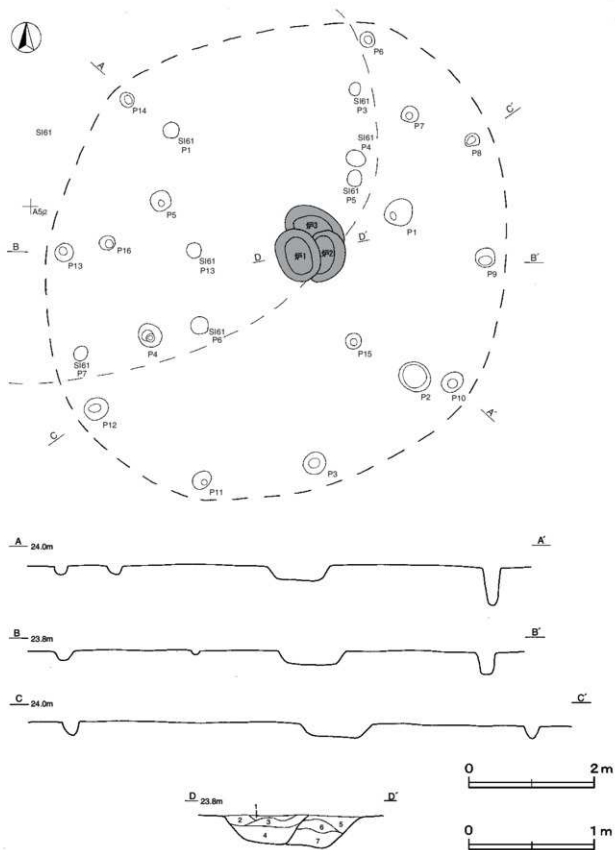
確認状況 確認面で、炉とピットを検出した。

重複関係 第61号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 壁は残存していないが、炉や柱穴の配置から長径7.95m、短径7.30mほどの円形と推定される。

床 ほほ平坦であり、硬化面は認められない。

炉 3か所。炉1はほほ中央部に、炉2は炉1の東側に、炉3は他の2つの炉の北側に位置している。炉1は長径86cm、短径68cmの楕円形で、深さ10cmである。炉2は西部を炉1に掘り込まれており、南北径80cm、東西径は50cmの楕円形と推定され、深さ15cmである。炉3は南部を他の2つの炉に掘り込まれ、南北径は46cm、東西径105cmの楕円形と推定される。いずれも床面を掘りくぼめた炉であり、火床面は火により赤変硬化してい



第7図 第59号住居跡実測図

る。重複状況から、炉3から炉2へ、そして炉1へ作り替えられたものと推定される。

伊土層解説

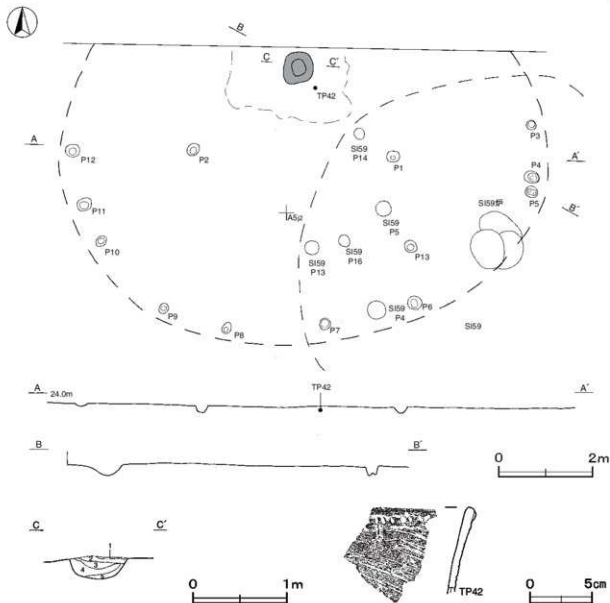
- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にいり赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量・炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | |

ピット 16か所。P1～P5は深さ7～32cmで、配置から主柱穴と考えられる。P6～P14は壁際に設置され、深さ11～62cmで壁柱穴と考えられる。P15・P16は、深さ23・19cmで補助的な柱穴と考えられる。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、住居の形態から縄文時代と考えられる。

第61号住居跡 (第8図)

位置 調査区北東部のA5il区、標高23.7mの平坦な台地上に位置している。



第8図 第61号住居跡・出土遺物実測図

確認状況 確認面で、炉とピットを検出した。

重複関係 第59号住居跡と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 壁は残存していない。また、炉より北側部分が調査区域外のため、南北径は6.28m、東西径10.33mのみが確認された。

床 ほぼ平坦で、炉の周辺が硬化している。

炉 中央部よりやや北側に位置している。長径75cm、短径70cmの円形で、深さは23cmである。床面を掘りくぼめた炉である。火床面は火により赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 13か所。P1・P2は深さ13cmで、配置から主柱穴と考えられる。P3～P12は壁際に設置され、深さ8～23cmで壁柱穴と考えられる。P13の性格は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP42は、炉近くの確認面で出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後葉と考えられる。

第61号住居跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にふい煙	普通	口唇部直下に粗線文 斜行沈線文	確認面	PL25

第66号住居跡（第9図）

位置 調査区北東部のB5d7区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

確認状況 確認面で、炉とピットを検出した。

重複関係 第55号住居に掘り込まれている。また、第71号住居跡と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 壁は残存していないが、南北軸は6.04m、東西軸9.44mのみが確認された。残存する炉や柱穴の配置から隅丸方形と考えられる。

床 ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

炉 ほぼ中央部に位置している。長径93cm、短径80cmの楕円形で、深さは25cmである。床面を掘りくぼめた炉である。火床面は火により赤変している。

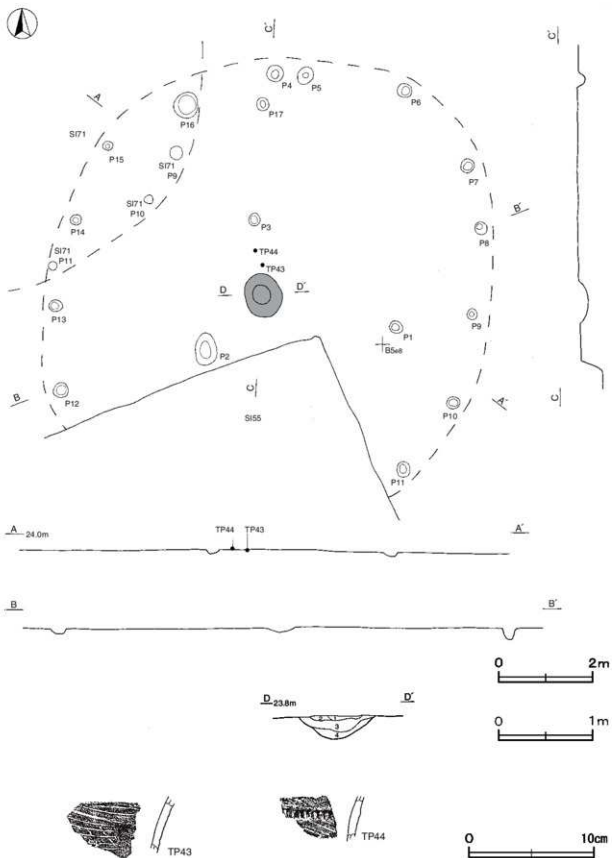
炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|---------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

ピット 17か所。P1～P3は深さ9～21cmで、配置から主柱穴と考えられる。P4～P17は壁際に設置され、深さ8～28cmで壁柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢）が出土している。すべて細片で、確認面に散在する状況で出土している。TP43・TP44はいずれも炉の北側の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後葉と考えられる。



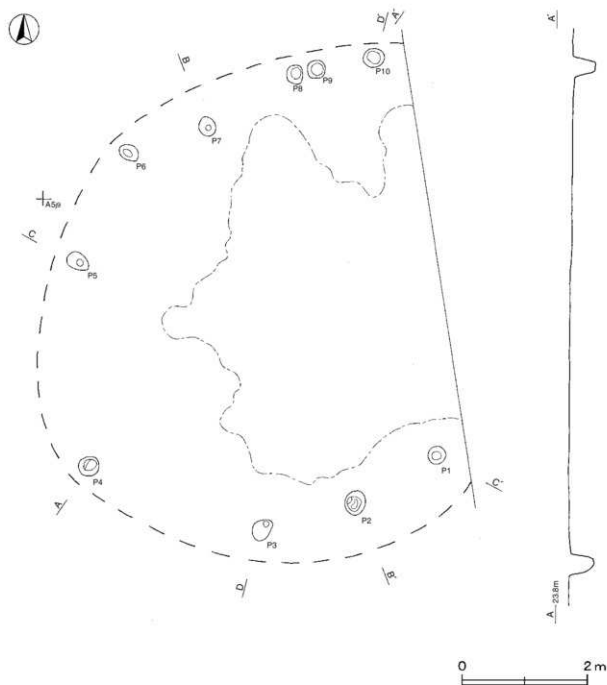
第9图 第66号住居跡・出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

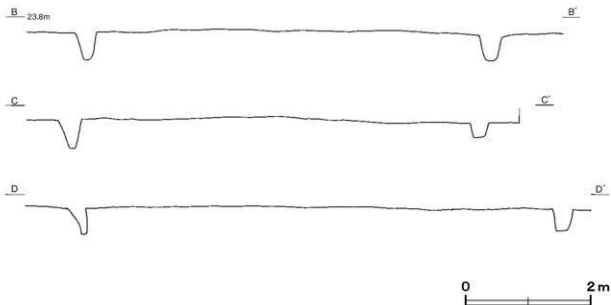
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP43	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にふい橙	普通	斜行沈線文	確認面	PL25
TP44	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にふい橙	普通	縦線文 斜行沈線文	確認面	PL25

第67号住居跡 (第10・11図)

位置 調査区北東部のA5j9区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。



第10図 第67号住居跡実測図 (1)



第11図 第67号住居跡実測図(2)

確認状況 東側が調査区域外に延びている。覆土がなく、ピットだけが確認された。

規模と形状 壁は残存していないが、残存する壁柱穴の配置から、南北径8.10m、東西径は6.48mほどの楕円形と推定される。

床 はほぼ平坦で、中央部が硬化している。

ピット 10か所。壁際に設置され、深さ11~47cmで、壁柱穴と考えられる。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確でないが、縄文時代と考えられる。

第68号住居跡 (第12図)

位置 調査区北東部のB 5 c3区、標高23.6mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 確認面で、炉とピットを検出した。

重複関係 第71号住居跡、第184・189号土坑と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 壁は削平されているが、残存する炉や柱穴の配置から、長径11.70m、短径9.30mほどの楕円形と推定される。

床 はほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

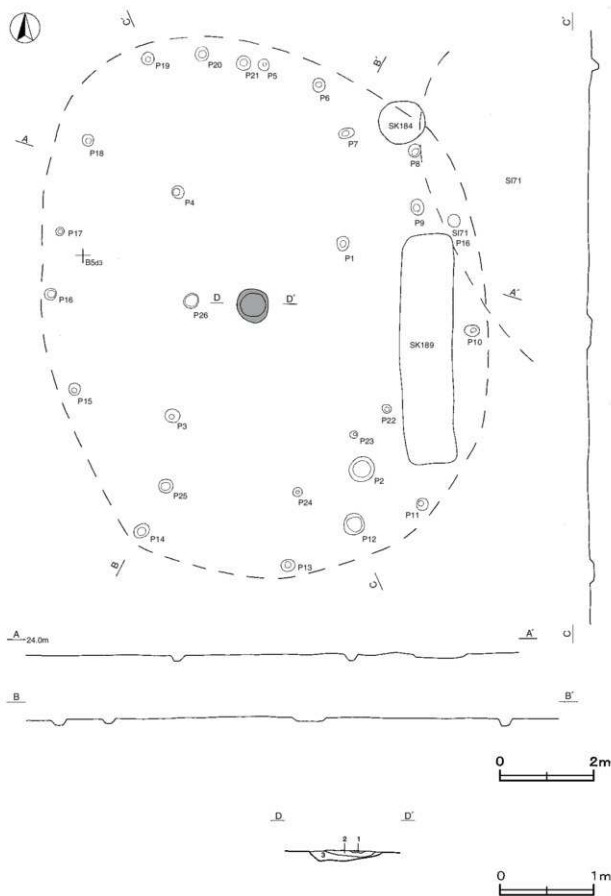
炉 はほぼ中央部に位置している。径72cmの円形で、深さは9cmである。床面を掘りくぼめた炉であり、火床面は火により赤変している。

伊土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | |

ピット 26か所。P 1~P 4は深さ11~14cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 5~P 21は壁際に設置され、深さ7~21cmで壁柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

所見 時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、住居の形態から縄文時代と考えられる。

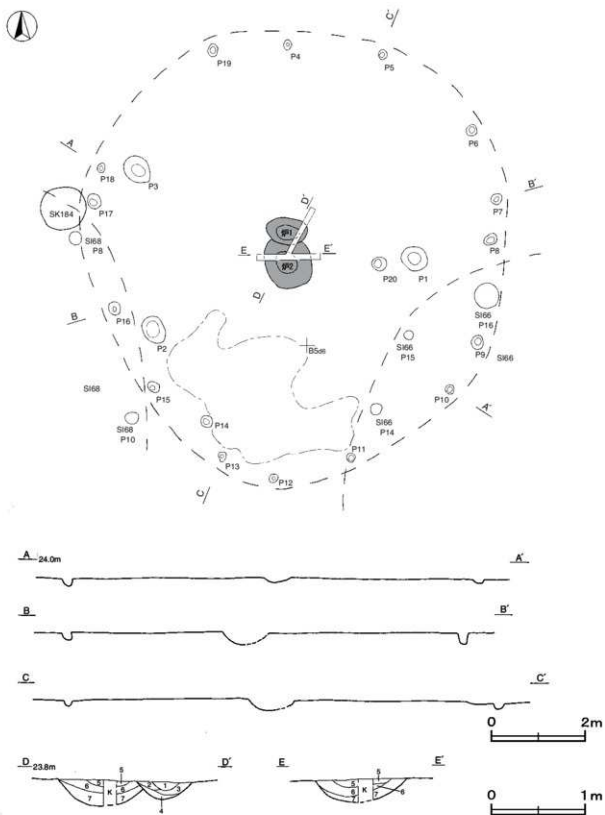


第12図 第68号住居跡実測図

第71号住居跡 (第13図)

位置 調査区北東部のB 5 c5区、標高23.6mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 確認面で、炉とピットを検出した。



第13図 第71号住居跡実測図

重複関係 第66・68号住居跡，第184号土坑と重複しているが，覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 壁は削平されているが，残存する炉や柱穴の配置から，長径9.80m，短径8.80mほどの楕円形と推定される。

床 ほぼ平坦で，炉の南部が硬化している。

炉 2か所。炉1はほぼ中央部に，炉2は炉1の南側に位置している。炉1は長径87cm，短径55cmの楕円形で，深さ19cmである。炉2は北部を炉1に掘り込まれており，南北径は92cm，東西径100cmの楕円形と推定され，深さ26cmである。いずれも床面を掘りくぼめた炉であり，火床面は火により赤変している。炉の重複状況から，炉2から炉1へ作り替えられたものと考えられる。

伊土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|-------|------------------|
| 1 濃い赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量 | 5 赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 3 鮮明赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

ピット 20か所。P1～P3は深さ24～30cmで，配置から主柱穴と考えられる。P4～P19は壁際に設置され，深さ6～25cmで壁柱穴と考えられる。P20の性格は不明である。

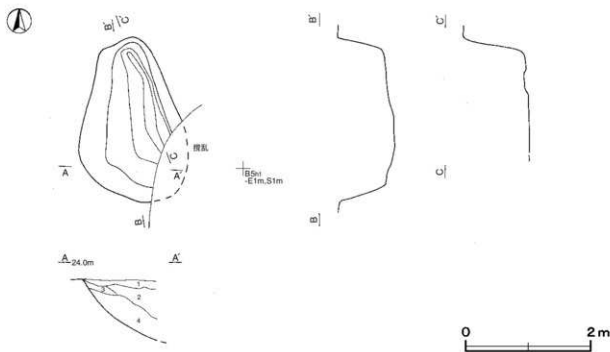
所見 時期は，遺物が出土していないため明確ではないが，住居の形態から縄文時代と考えられる。

(2) 陥し穴

第4号陥し穴 (SK192) (第14図)

位置 調査区北東部のB4h0区，標高23.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南東部は擾乱を受けており，長径2.64m，短径は1.60mの不整楕円形と推定される。長径方向はN-5°-Wである。深さは94cmで，床面はほぼ平坦である。壁は外傾から直立して立ち上がっている。



第14図 第4号陥し穴実測図

覆土 4層からなり、周囲からの流入による堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 9点(深鉢)が出土している。すべて細片で、覆土中から出土している。摩滅が激しく図示できない。

所見 時期は、出土遺物や遺構の規模や形状などから縄文時代と考えられる。

(3) 土坑

第185号土坑 (第15図)

位置 調査区北東部のB5a7区、標高23.7mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第52号住居跡と重複しているが、覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.02m、短径0.90mの楕円形で、深さは28cmである。長径方向はN-74°-Eで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

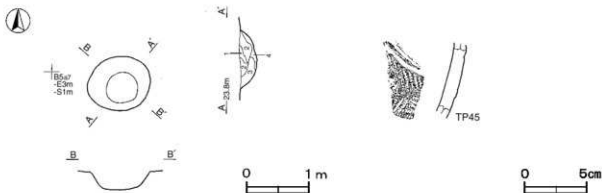
覆土 4層からなり、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 1点(深鉢)が出土している。TP45は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第15図 第185号土坑・出土遺物実測図

第185号土坑出土遺物観察表 (第15図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP45	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にがい赤黄	普通	平行沈線文 単胎縄文RLを地文	覆土中	PL25

表2 竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)	新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴					
52	A5β	—	[円形]	7.30×6.60	—	平坦	—	4	—	13	炉1	—	—	縄文土器片(深鉢)	中期後葉		
59	A5β	—	[円形]	7.95×7.30	—	平坦	—	5	—	11	炉3	—	—	—	縄文時代		
61	A5γ	—	—	—	—	平坦	—	2	—	11	炉1	—	—	縄文土器片(深鉢)	後期後葉		
66	B5d7	—	[南北方形]	8.40×6.04	—	平坦	—	3	—	14	炉1	—	—	縄文土器片(深鉢)	後期後葉	本跡→S155	
67	A5β	—	[楕円形]	8.10×6.48	—	平坦	—	—	—	10	—	—	—	—	縄文時代		
68	B5c3	—	[楕円形]	11.70×9.30	—	平坦	—	4	—	22	炉1	—	—	—	縄文時代		
71	B5c5	—	[楕円形]	8.80×6.80	—	平坦	—	3	—	17	炉2	—	—	—	縄文時代		

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡25軒、土坑5基が確認された。

(1) 竪穴住居跡

第35号住居跡 (第16・17区)

位置 調査区南部のC5β8区、標高23.1mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第198号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.68m、短軸6.62mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は25~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部および南部が踏み固められている。壁下には、幅15~20cm、深さ10~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北部と東部の床面を中心に炭化材や焼土塊を検出した。

炉 2か所。炉1は中央部北側、炉2は炉1の南側に位置している。炉1は長径68cm、短径53cm、炉2は長径38cm、短径28cmのいずれも楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は炉1が2層上面、炉2が5層上面であり、いずれも皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

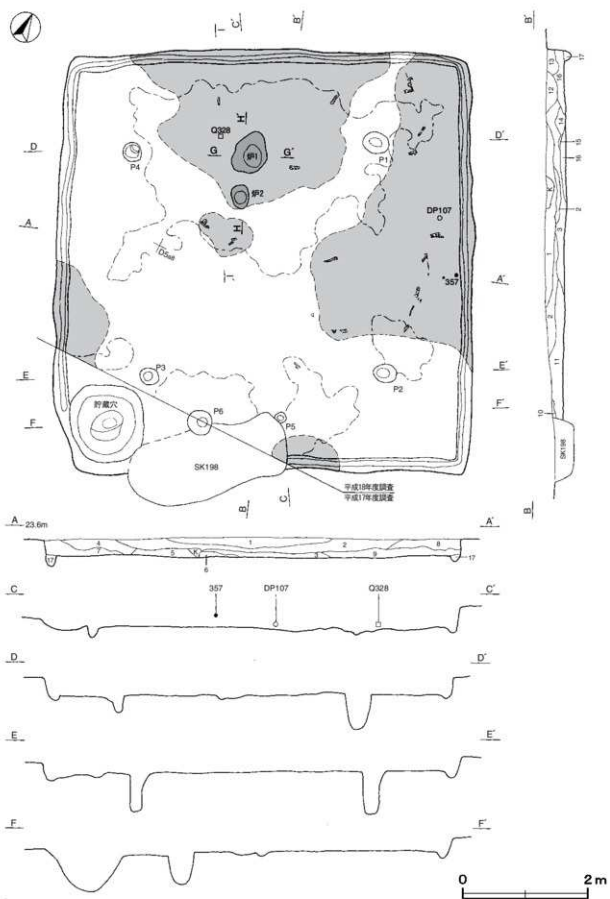
1 赤褐色	焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量	4 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
2 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量	5 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、粘土ブロック微量		

ピット 6か所。P1~P4は深さ27~69cmで、主柱穴である。P5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ50cmで、性格は不明である。

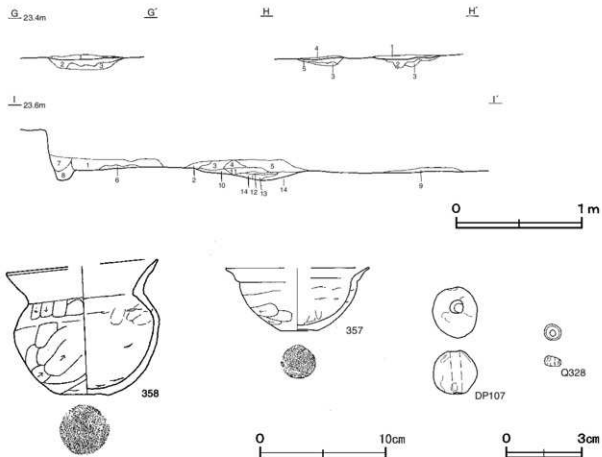
覆土 17層に分けられる。第1・2層は、周囲からの流入による自然堆積層で、第3層以下は不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	12 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	14 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
6 濃い暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	15 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	16 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	17 極暗褐色	ロームブロック少量
9 極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量		



第16図 第35号住居跡実測図



第17図 第35号住居跡・出土遺物実測図

焼土壌土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|---------|------------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化材中量, ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 11 暗赤灰色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 明褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片468点(坏80, 碗10, 増17, 高坏33, 甕類328), 土製品1点(土玉), 石製品1点(白玉)が出土している。また, 混入した縄文土器片3点も出土している。358は覆土中, 357は東部壁際の覆土中層から出土している。DP107は東部, Q328は炉1の西側のそれぞれ覆土下層から出土している。いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊の出土状況から, 焼失家屋と考えられる。時期は, 出土土器から5世紀前葉と考えられる。

第35号住居跡出土遺物観察表(第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
357	土師器	碗	[11.4]	5.0	2.8	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面へラナテ 輪轆痕	覆土中層	40%
358	土師器	増	[12.2]	10.9	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面ハケ目後横ナテ 頸部外面へラ削り 内面指頭圧痕 体部外面へラ削り 輪轆痕	覆土中	80%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP107	土玉	1.8~ 2.0	1.7	0.4	5.2	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL25

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q328	白玉	0.46	0.24	0.16	0.06	滑石	円筒状 両面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	

第51号住居跡 (第18・19区)

位置 調査区北西部のA4区、標高23.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸6.40m、短軸6.31mの方形で、主軸方向はN-42°-Wである。壁高は20~32cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北西壁側に幅18~20cm、深さ8~10cmの間仕切り溝が1条確認され、断面形はU字状を呈している。P7の西側に高まりを確認した。また、南西部に焼土塊が存在し、炭化材が南西部と東部に散在していた。

炉 中央部北西側に位置している。長径97cm、短径51cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は5・6層上面であり、皿状を呈し、赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------|----------|----------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 4 赤 色 | 焼土粒子多量、ローム粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐 色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 赤 褐色 | 焼土粒子少量 |

ピット 10か所。P1~P4は深さ35~44cmで、拡張前からの主柱穴である。P5は深さ9cmで、拡張前の南東壁際のはほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6~P9は深さ12~66cmで、拡張後の主柱穴である。P10は深さ14cmで、拡張後の南東壁際のはほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

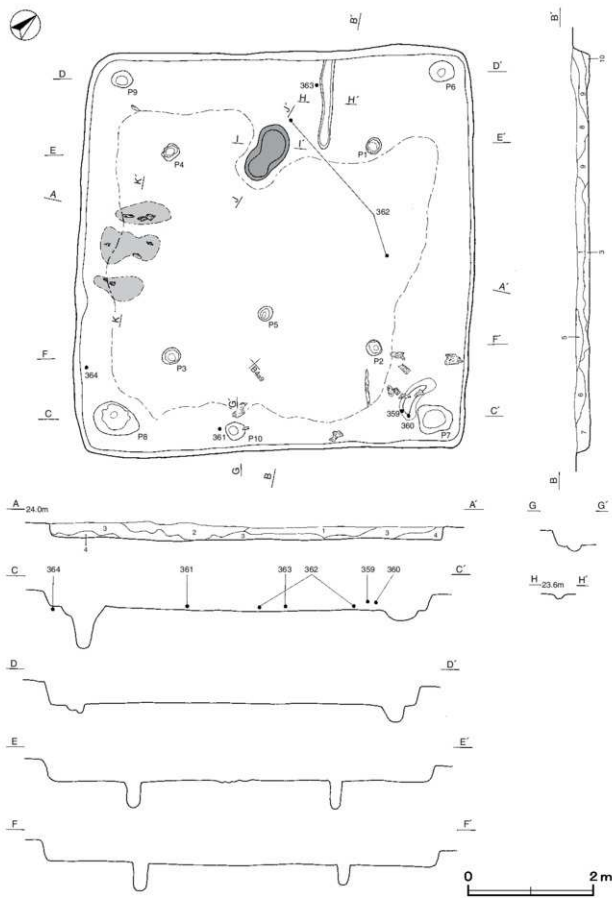
- | | | | |
|---------|-------------------------|-----------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 極 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量 | 9 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 10 褐 色 | ロームブロック少量 |

炭化材・焼土塊土層解説

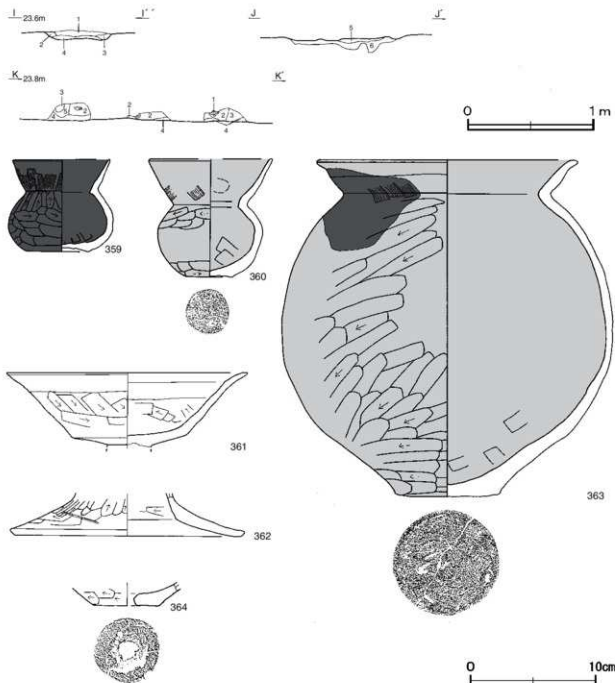
- | | | | |
|-----------|----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒 褐 色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1,186点(坏14, 埴51, 埴32, 高坏316, 甕類773)が出土している。また、混入した縄文土器片11点も出土している。359・360はP7の南西側の覆土下層、361はP10の南西側、362は炉北部と東部、363は北部、364は南部のそれぞれ床面から出土しており、住居の廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 拡張された住居で、床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。拡張後の時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第18图 第51号住居跡実測图



第19図 第51号住居跡・出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表(第19図)

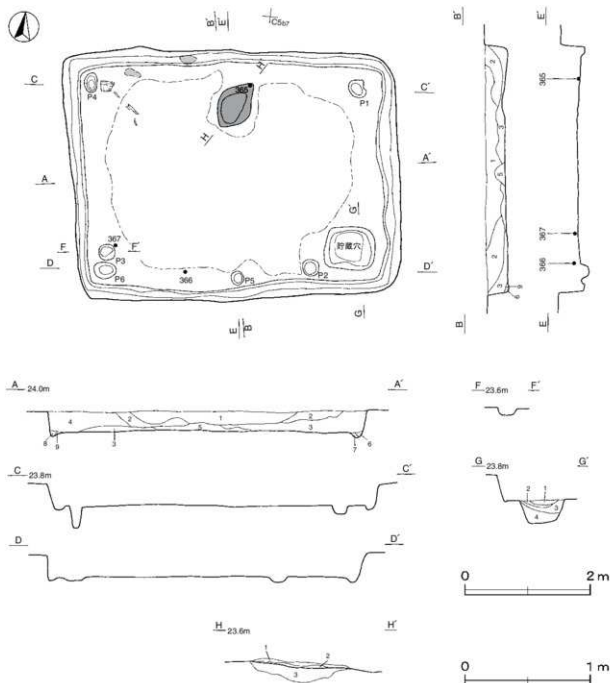
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
359	土師器	罎	7.5	7.4	4.8	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄世	普通	口辺部内・外面横ナダ 裏部外面ハケ目後横ナダ 体部外面ヘウ削り 内面ヘウナダ	覆土下層	95% PL19 内・外面縦付着
360	土師器	罎	[4.7]	9.5	3.4	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナダ 裏部外面ハケ目後横ナダ 内面指痕任意横 体部外面ヘウ削り 内面ヘウナダ	覆土下層	75% PL19
361	土師器	高坏	19.2	(5.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナダ 坏部内・外面ヘウ削り 後ナダ	床面	60%
362	土師器	高坏	-	(3.5)	17.8	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	脚部内面ヘウ削り 帮部内・外面ヘウ削り後横 ナダ 縦磨痕	床面	10%
363	土師器	甕	20.0	26.7	8.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナダ 体部外面ヘウ削り 内 面ヘウナダ 底部多方向のヘウ削り	床面	75% 外面縦付着
364	土師器	甕	-	(1.4)	5.0	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外面ヘウ削り	床面	

第53号住居跡 (第20・21図)

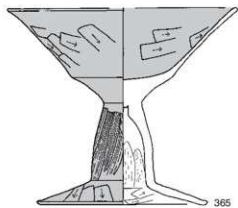
位置 調査区中央部のC5b6区、標高23.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.23m、短軸4.02mの長方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は34cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅11~20cm、深さ10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面北部から炭化材と焼土塊を検出した。



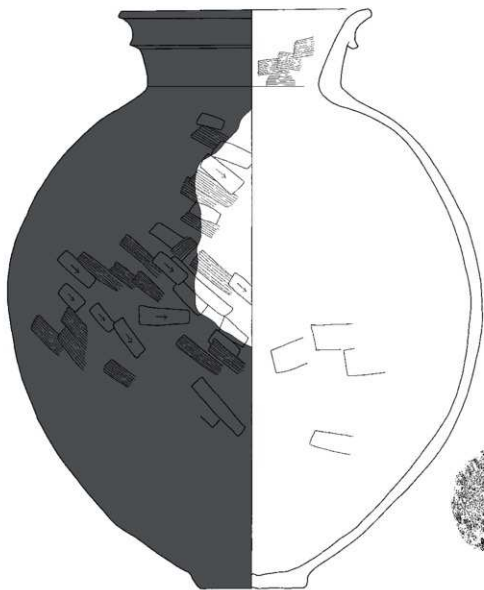
第20図 第53号住居跡実測図



365



366



367



第21図 第53号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部北壁寄りに位置している。長径85cm、短径56cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は3層上面であり、皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色 焼土粒子少量

ピット 6か所。P1～P4は深さ6～34cmで、主柱穴である。P5は深さ13cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ13cmで、P3の南脇に位置していることから、補助的に使用されたと考えられる。

覆土 9層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
5 暗褐色 ロームブロック微量
6 暗褐色 ロームブロック少量
7 暗褐色 ローム粒子微量
8 黄褐色 ローム粒子中量
9 褐色 ロームブロック中量

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し、長軸80cm、短軸66cmの長方形で、深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層に分けられ、周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
3 褐色 ロームブロック中量
4 明褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片288点（坏16、高坏62、甕類210）が出土している。366は南部、367は南西部の覆土下層、365は北西部の火床面からそれぞれ出土しており、住居の廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。

第53号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
365	土師器	高坏	[18.1]	15.7	13.1	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部内・外面ヘウ張り 裏面ヘウ張り 内面指張巻肌 坏部内・外面ヘウ張り	炉火床面	35% PL20
366	土師器	高坏	17.2	(6.2)	—	長石・石英・黄母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部内・外面ヘウ張り後ナデ	覆土下層	40% 外面煤付着
367	土師器	壺	19.6	46.2	9.0	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 裏部内面ハケ目 体部外面ハケ目後ヘウ張り 内面ヘウナデ	覆土下層	90% PL23 外面煤付着

第55号住居跡（第22～25図）

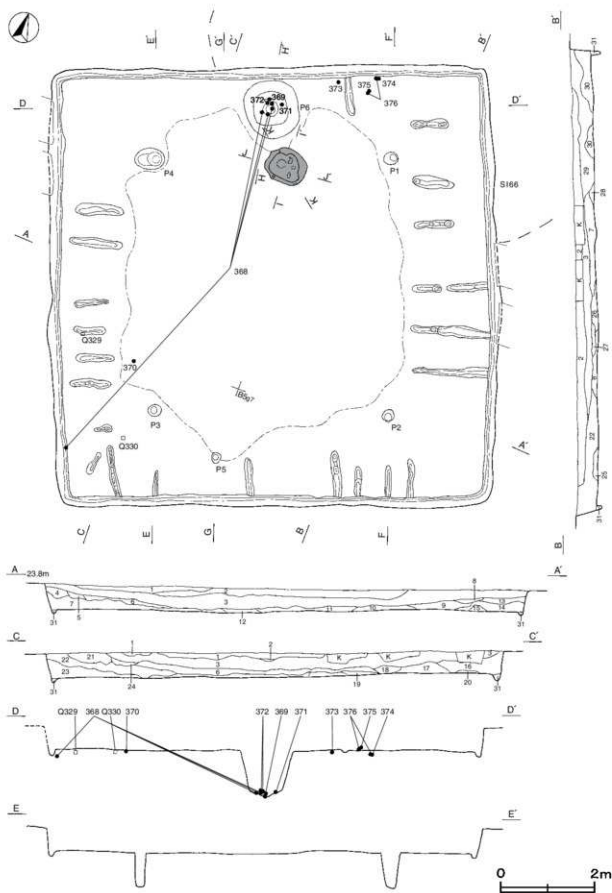
位置 調査区中央部のB5f6区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第66号住居跡を掘り込んでいる。

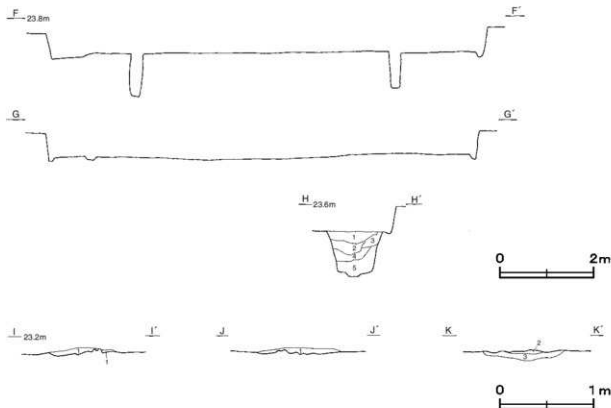
規模と形状 一辺9.46mの方形で、主軸方向はN-21'-Wである。壁高は52cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅11～18cm、深さ10～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、四方の壁から中央に向かって、ほぼ等間隔に幅10～26cm、長さ55～160cm、深さ6cmほどの溝を22条確認した。床面全体に炭化材と焼土塊が検出された。炭化材は、径8～17cmの丸材（「付章」参照）で、溝に据付けたように出土している。

炉 中央部北側に位置している。長径90cm、短径75cmの楕円形で、床面を掘りくぼめた炉である。火床面は2



第22图 第55号住居跡实测图(1)



第23図 第55号住居跡実測図(2)

層上面であり、皿状を呈し、赤変している。

伊土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子少量 | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ75～78cmで、主柱穴である。P5は深さ9cmで、南壁際のほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ97cmで、径が120cmほどである。炉と北壁の間に位置しているが性格については不明である。

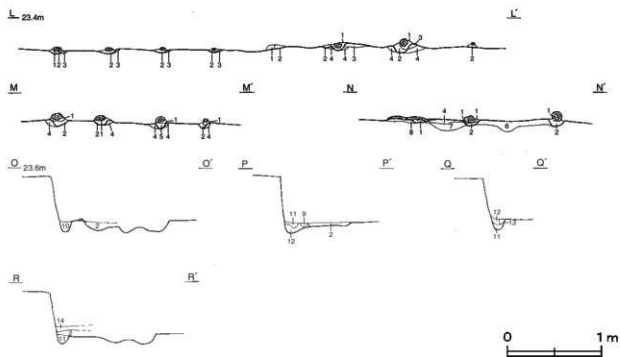
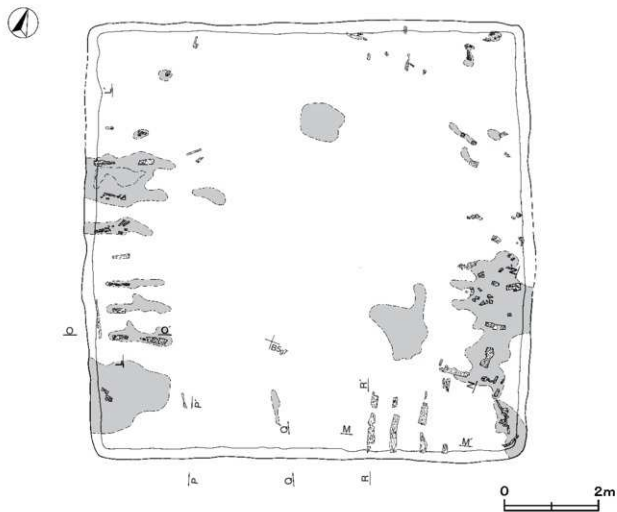
P6土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

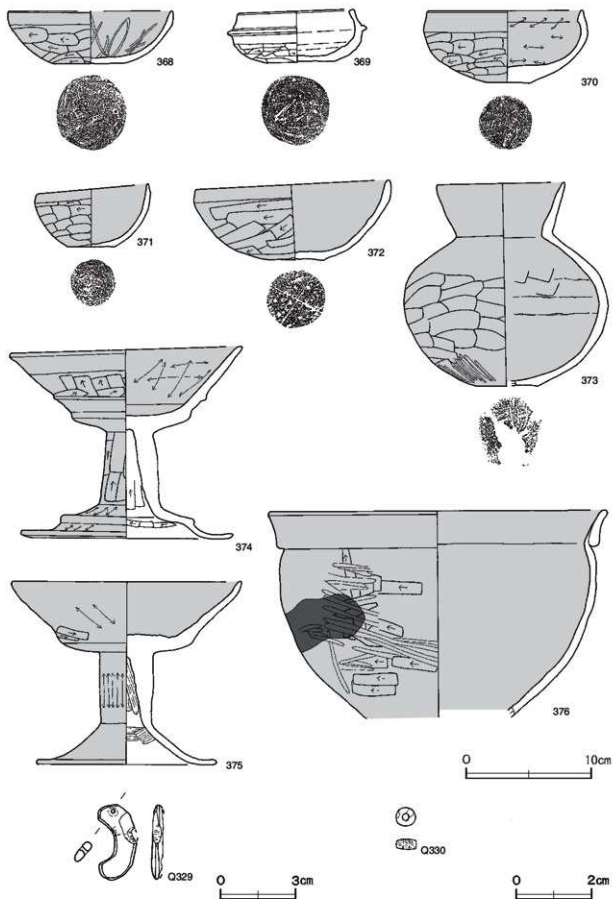
覆土 31層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、黒色粒子微量 | 15 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 黒色粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 16 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 黒色粒子多量、ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 17 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 18 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 19 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 極暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子微量 | 21 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量 | 22 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 9 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 23 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 10 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 24 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 11 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 | 25 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 12 暗褐色 ロームブロック少量、黒色粒子微量 | 26 褐色 ローム粒子多量 |
| 13 褐色 ローム粒子中量 | 27 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 14 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 28 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | 29 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 |
| | 30 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| | 31 暗褐色 ローム粒子少量 |



第24图 第55号住居跡实测图(3)



第25図 第55号住居跡出土遺物実測図

溝および壁溝土層解説

1	柿崎赤褐色	炭化物少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量	10	暗褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	灰色	焼土粒子多量
7	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片554点(塚53, 椀38, 埴9, 高坏76, 甕類378), 須恵器片3点(坏1, 甕類2), 石製品2点(勾玉, 白玉)が出土している。また、混入した縄文土器片28点も出土している。368は南西コーナー壁溝からの細片とP6の底面から出土した細片が接合したものである。369・371・372はP6の底面からいずれも正位で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。370・Q329・Q330は南西部, 373~376は北東部北壁際の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。炭化材が四方の壁から中央に向かって伸びる溝に据付けたような状態で出土していることから、丸材を溝内に寝かせて置き、その上に板を設置して床を構築し居住空間としていた可能性が高い。出土した炭化材を加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を実施した結果、暦年較正用年代1,568±33(AD419~563)という年代値が測定された。時期は、炭化材の分析結果や出土土器から5世紀中葉と考えられる。

第55号住居跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
368	土師器	坏	[13.0]	4.2	5.5	長石・石英・雲母	赤	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面へラテ後へラ磨き	P6底面壁溝	60% PL17・23
369	須恵器	坏	9.1	4.1	5.2	長石	青灰	良好	口口成形 体部外面へラ削り後ナテ 底部回転へラ切り後ナテ	P6底面	100% PL17・23
370	土師器	椀	12.2	5.8	3.5	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	床面	95% PL16・23
371	土師器	椀	8.8	5.0	3.6	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り後ナテ 内面ナテ	P6底面	100% PL16・23
372	土師器	椀	15.3	6.1	4.5	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子・小骨	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 底部に焼成前の十字状の圧痕	P6底面	90% PL16・23
373	土師器	埴	9.9	16.2	4.6	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部から胴部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り後ナテ 内面へラ削り 体部下唇底石転用痕	床面	85% PL19・23
374	土師器	高坏	18.2	15.3	16.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り後ナテ 内面へラ磨き 胴部内・外面へラ削り 胴部外面へラ磨き 内面へラ削り	床面	85% PL20・23
375	土師器	高坏	[18.0]	14.6	14.0	長石・石英・赤色粒子	赤橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り後ナテ磨き 胴部外面へラ磨き 内面磨擦痕 胴部内・外面横ナテ 内面上位キズミ痕	床面	40%
376	土師器	甕	26.6	16.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り後へラ磨き	床面	70% PL21・23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q329	勾玉	3.0	(1.5)	(0.5)	(2.08)	滑石	孔径0.15cm 裏面欠損 研磨痕	床面	PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q330	白玉	0.50	0.23	0.17	0.10	滑石	円筒状 両面研磨 一方からの穿孔	床面	

第56号住居跡 (第26～28図)

位置 調査区中央部のB 5 g5区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.52m、短軸3.46mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は32～38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部および南部が踏み固められている。床面中央部・西部から焼土塊を検出した。

炉 中央部北側に位置している。耕作による擾乱を受けており、南北径は20cm、東西径20cmだけが確認された。

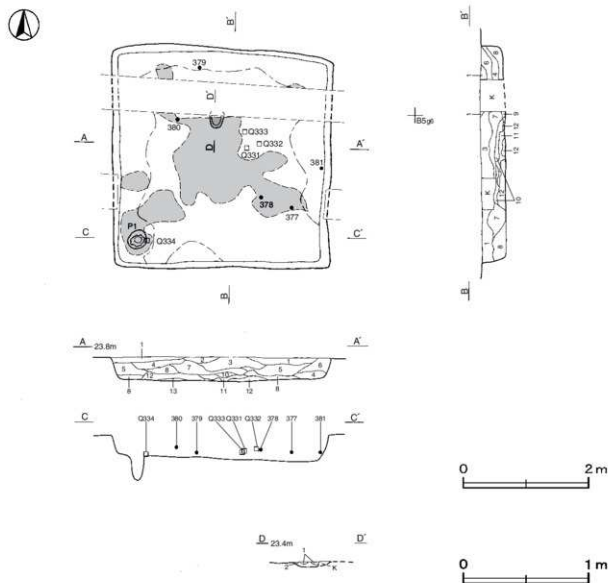
床面をわずかに掘りくぼめた炉であり、皿状を呈し、赤変している。

伊土層解説

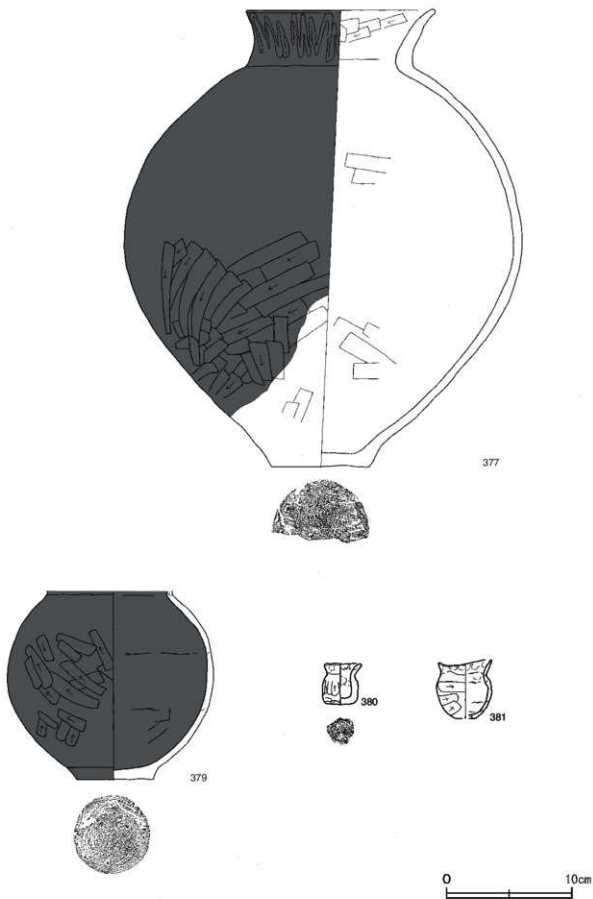
1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

2 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

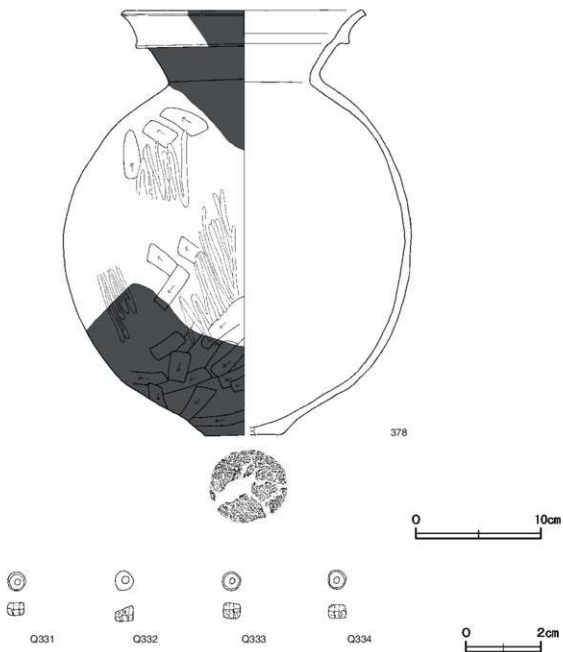
ピット 深さ44cmで、南西コーナー部に位置している。性格は不明であるが、棒状の工具を使って掘り込んだとみられる工具痕が壁部に確認された。



第26図 第56号住居跡実測図



第27图 第56号住居跡出土遺物実測図 (1)



第28図 第56号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 13層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にふい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物中量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 13 にふい褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片224点(高坏10, 甕類212, ミニチュア土器2), 石製品4点(白玉)が出土している。また, 混入した縄文土器片9点も出土している。377・378は南東部, 379は北部, 380は西側, 381は東壁際, Q331~Q333は中央部の覆土中層から, Q334は南西部の焼土塊上部からそれぞれ出土している。住居の焼灰後間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 床面で検出された焼土塊から、焼失家屋と考えられる。時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。

第56号住居跡出土遺物観察表(第27・28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
377	土師器	壺	15.0	36.5	7.7	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 外面ヘラ磨き 内面ヘラ削り 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	90% PL22 外面係付着
378	土師器	壺	17.8	34.0	[6.0]	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 後中位ヘラ磨き	覆土下層	60% PL22・23 外面係付着
379	土師器	壺	—	(15.0)	6.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	80% 内・外面係付着
380	土師器	ミニチュア	2.9	3.3	2.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口辺部内・外面ナデ 指頭圧痕 外面ヘラ削り後ナデ 輪積痕	覆土下層	100% PL18・23
381	土師器	ミニチュア	4.2	4.7	[1.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口辺部内・外面ナデ 指頭圧痕 外面ヘラ削り後ナデ 輪積痕	覆土下層	80% PL18

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q331	白玉	0.50	0.30	0.16	0.11	滑石	円筒状 両面研磨 一方からの穿孔	覆土下層	
Q332	白玉	0.50	0.32	0.20	0.13	滑石	円筒状 両面研磨 縦方向にヤスリ痕 一方からの穿孔	覆土下層	
Q333	白玉	0.51	0.38	0.13	0.18	滑石	円筒状 両面研磨 縦方向にヤスリ痕 一方からの穿孔	覆土下層	
Q334	白玉	0.52	0.35	0.12	0.17	滑石	円筒状 両面研磨 縦方向にヤスリ痕 一方からの穿孔	覆土下層	

第57号住居跡(第29～32図)

位置 調査区中央部のB5h3区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.23m、短軸3.00mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は14～24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部から北東側が踏み固められている。

炉 南側に位置している。長径77cm、短径62cmの楕円形で、床面を掘りくぼめた炉である。火床面は2・3層上面であり、皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|----------|---------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量 | | |

ピット 3か所。P1は深さ23cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は、炉の北側に並んで位置し、いずれも深さ8cmで比較的浅く、壺などを置くために使用されていた可能性がある。

覆土 10層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |

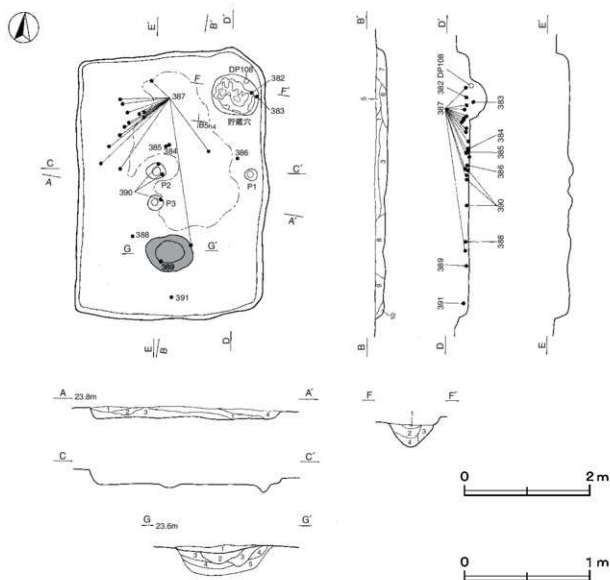
貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長径75cm、短径62cmの楕円形で、深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層に分けられ、周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。棒状の工具を使用して掘り込んだ工具痕を確認した。

貯蔵穴土層解説

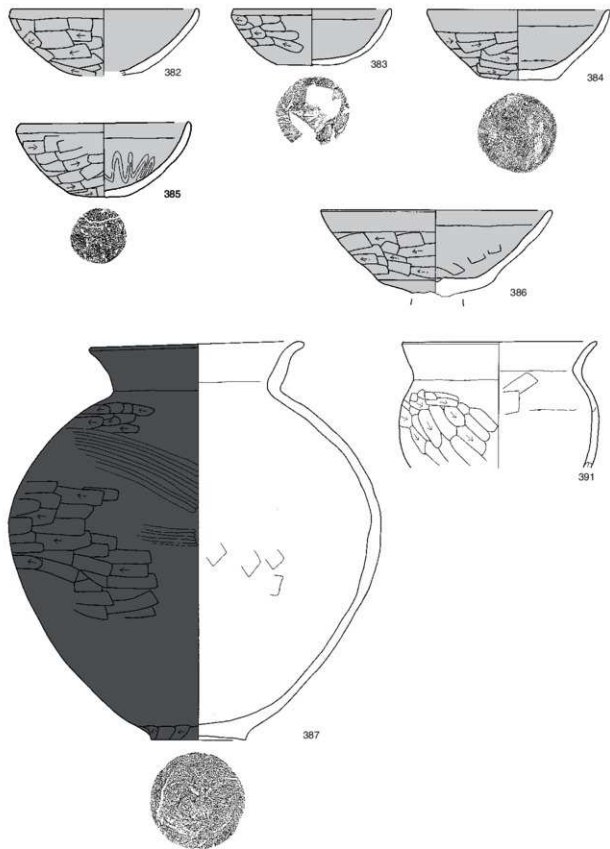
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1,493点(坏70, 椀85, 高坏74, 甕類1,264), 土製品1点(炉器台)が出土している。また、混入した縄文土器片6点も出土している。382・383・DP108は貯蔵穴内の覆土上層, 384・385は中央部, 386は東部, 387は中央部から北西部にかけての床面から出土した細片が接合したものである。細片が多く、いずれも住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。

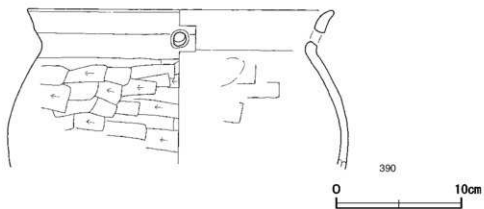
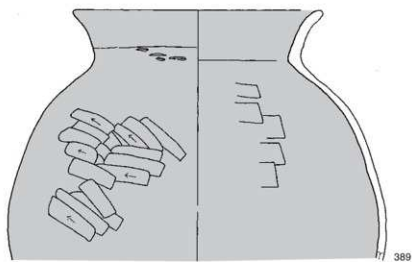
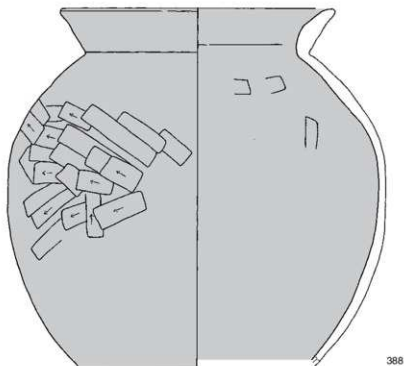
所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。出入り口施設に伴うピットが第55号住居跡が位置する東壁際にあることから、第55号住居跡と同時期に存在していたと考えられる。



第29図 第57号住居跡実測図



第30图 第57号住居跡出土遺物実測図(1)



第31図 第57号住居跡出土遺物実測図(2)



第32図 第57号住居跡出土遺物実測図 (3)

第57号住居跡出土遺物観察表 (第30~32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
382	土師器	坏	14.8	5.3	-	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘリ削り	貯蔵穴内	85% PL17
383	土師器	坏	12.4	4.5	5.4	長石・石英・雲母	赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘリ削り	貯蔵穴内	85% PL17
384	土師器	椀	14.3	5.6	6.0	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘリ削り 内面ナデ 輪横痕	床面	95% PL16
385	土師器	椀	13.4	5.9	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘリ削り 内面ヘリ磨き	床面	90% PL16
386	土師器	高坏	18.2	(6.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ヘリ削り 内面ヘラナデ	床面	40%
387	土師器	甕	16.7	31.7	7.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘリ削り後ヘリ磨き 上位穴帯縁有 下邊ヘリ削り 内面ヘラナデ 底面多方向のヘリ削り	床面	60% PL23 外面縁付着
388	土師器	甕	21.6	(28.6)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘリ削り 内面ヘラナデ	床面	70% PL22
389	土師器	甕	19.0	(20.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にふい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部キザミ痕 体部外面ヘリ削り 内面ヘラナデ	床面	45% PL22
390	土師器	甕	27.9	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部内面からの穿孔有 体部外面ヘリ削り 内面ヘラナデ 指面圧痕	床面	20% PL23
391	土師器	小形甕	15.4	(10.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘリ削り 内面ヘラナデ 輪横痕	床面	60%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP108	伊勢台	(6.6)	(5.8)	(10.2)	(405)	長石・石英	ナデ 指頭痕 被熱痕有り	貯蔵穴内	PL24

第58号住居跡 (第33図)

位置 調査区中央部のB5区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 確認面において、貯蔵穴とピットを検出した。壁は残存していないが、一辺が6.80mほどの方形で、主軸方向はN-5°-Eと推定される。

床 ほほ平坦で、硬化面は認められない。

ピット 7か所。P1~P4は深さ20~28cmで、主柱穴である。P5・P6は深さ19・12cmで南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ14cmで、性格は不明である。

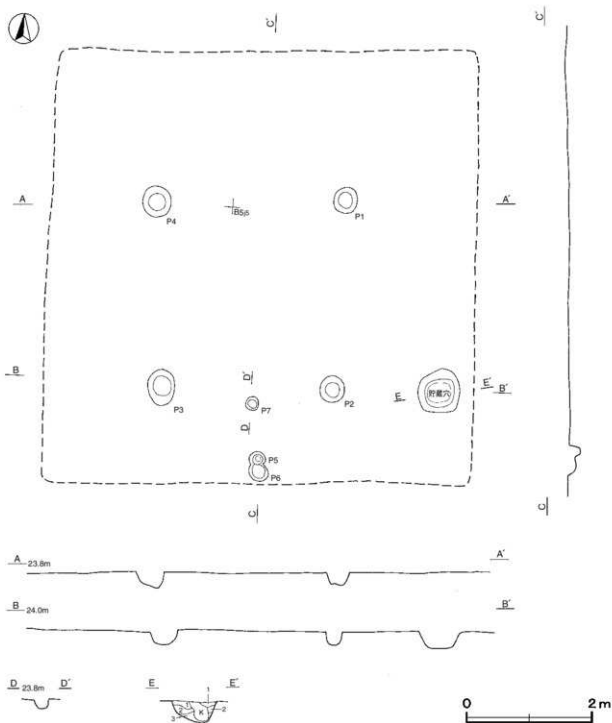
貯蔵穴 南東部に位置し、径68cmほどの円形で、深さは36cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層に分けられ、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片2点(坏)が出土している。また、混入した縄文土器片5点も出土している。

所見 土器の細片が数点しか出土していないため、時期は明確でないが、住居の形態や周囲の遺構などから古墳時代と考えられる。



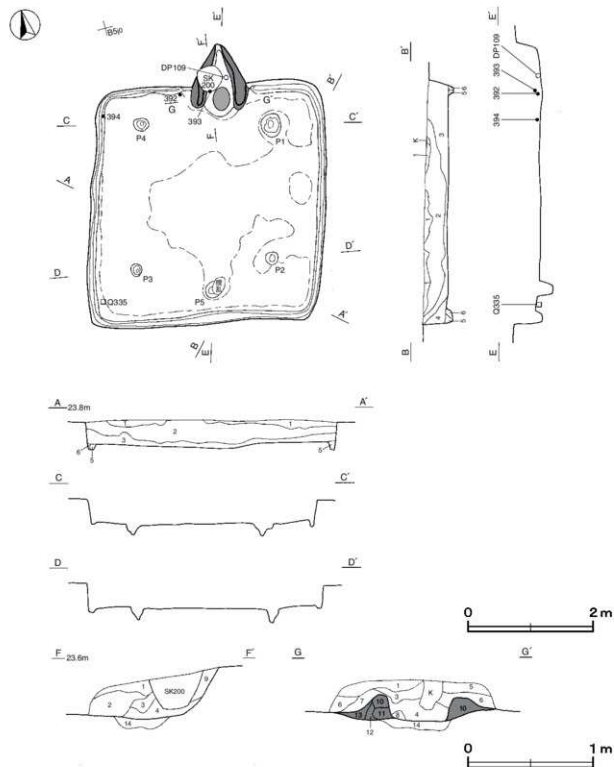
第33図 第58号住居跡実測図

第60号住居跡 (第34~36図)

位置 調査区東部のB 5 j0区, 標高23.6mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第200号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.80m, 短軸3.72mの方形で, 主軸方向はN-15°-Eである。壁高は32~40cmで, 外傾して立ち上がっている。



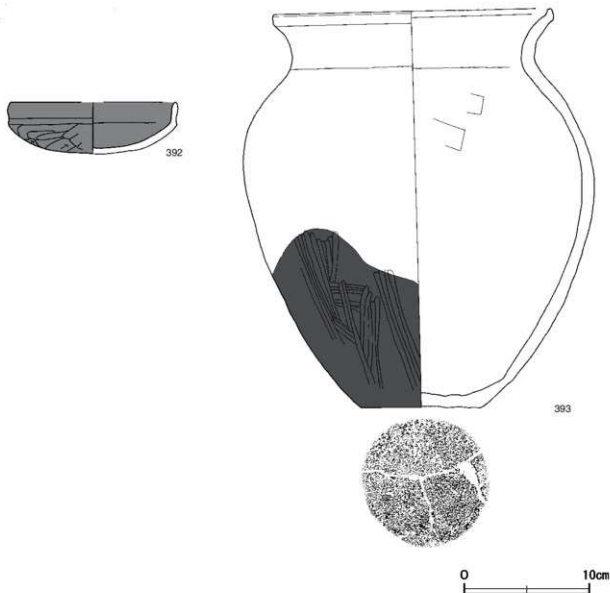
第34図 第60号住居跡実測図

床 平坦で、中央部から東部を除いてほぼ全体が踏み固められている。壁下には、幅10~18cm、深さ8~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

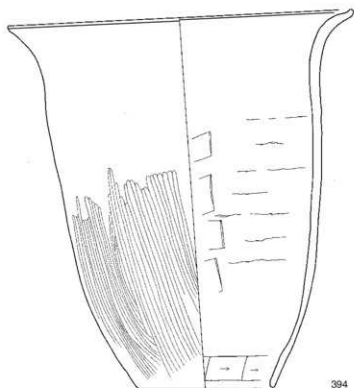
竈 北壁中央部に付設されている。第200号土坑に左袖中央部を掘り込まれており、確認された規模は、焚口部から煙道部まで121cm、袖部幅90cmである。袖部は砂質粘土混じりの土を主体とする第10~13層で構築されており、内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に65cmほど掘り込まれていることが確認された。

竈土層解説

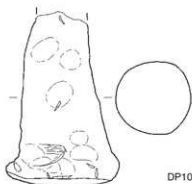
- | | | | |
|---------|--------------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 11 暗灰黄色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量 |
| 7 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | | |



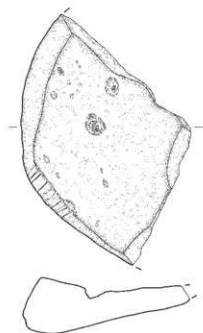
第35図 第60号住居跡出土遺物実測図 (1)



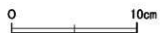
394



DP109



Q335



第36図 第60号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 5か所。P1～P4は深さ13～23cmで、支柱穴である。P5は深さ22cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	明褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量	5	極暗褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック中量	6	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片162点(坏5, 碗3, 埴2, 高坏2, 甕類150), 須恵器片2点(甕類), 土製品1点(支脚), 石器1点(石皿)が出土している。392は竈左袖脇, 393・DP109は竈内部, 394は北西部, Q335は南西部のそれぞれ床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第60号住居跡出土遺物観察表(第35・36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
392	土師器	坏	[13.2]	4.2	—	長石・雲母・赤色 粒子	灰黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘケ削り	床面	80% PL17
393	土師器	甕	22.0	31.9	9.4	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘケ削り 内面ヘケ削り	竈火床面	60% PL23 外面煤付者
394	土師器	瓶	27.4	29.8	10.7	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘケ削り 内面ヘケ削り 内面下縁ヘケ削り	床面	90% PL21

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP109	支脚	(13.9)	(4.2)	9.0	(624)	長石・石英	ナデ 基部ヘケ削り 指頭痕	竈火床面	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q335	石皿	(19.9)	(13.3)	4.3	(1010)	安山岩	片面に凹部2か所	床面	PL24 砥石転用

第62号住居跡(第37・38図)

位置 調査区南部のC5f6区, 標高23.6mほどの平坦な台地上に位置している。

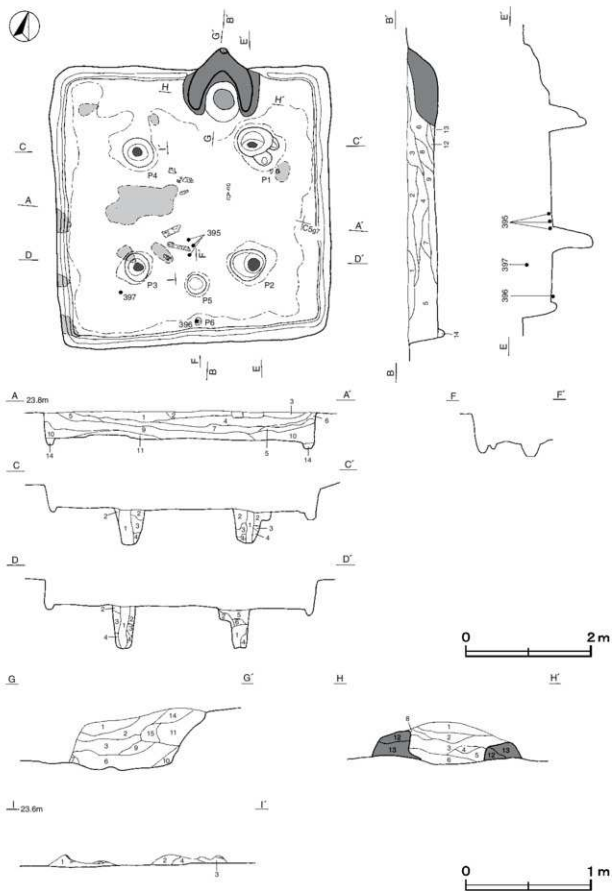
規模と形状 長軸4.50m, 短軸4.36mの方形で, 主軸方向はN-8°-Wである。壁高は40～46cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 竈左右部を除いてほぼ全体が踏み固められている。壁下には, 幅12～18cm, 深さ10～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面から炭化材と焼土塊を検出した。

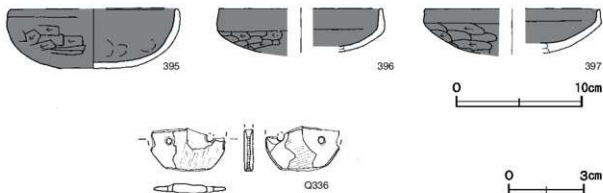
竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで117cm, 袖部幅121cmである。袖部は砂質粘土混じりの土を主体とする第12・13層で構築されており, 内側は火を受けて赤変している。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめて使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

遺物解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック・炭化物中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	にぶい褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ロームブロック少量	13	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
6	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	14	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
7	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子少量	15	オレンジ褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量
8	暗褐色	ロームブロック少量			



第37图 第62号住居跡実測図



第38図 第62号住居跡出土遺物実測図

ビット 6か所。P1～P4は深さ59～72cmで、主柱穴である。P5は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P6は深さ9cmで、性格は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |

覆土 14層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 13 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量 | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |
| 8 におい褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量 | | |

焼土土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 | 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片291点（坏51、高坏2、甕類238）、石製品1点（双孔円板）が出土している。また、混入した縄文土器片5点も出土している。Q336は覆土中、397は南西部の覆土上層、395は中央部、396は南部の床面からそれぞれ出土している。いずれも細片が接合したものであり、住居廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第62号住居跡出土遺物観察表（第38図）

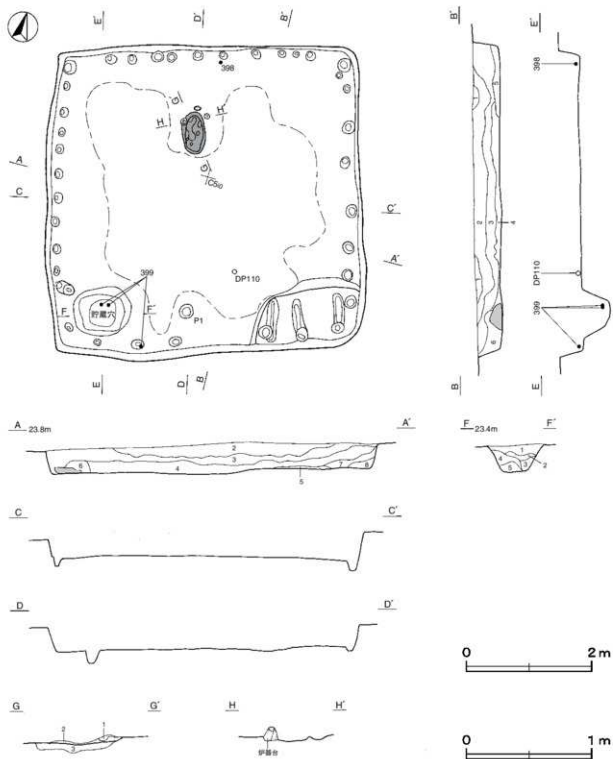
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
									口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ割り		
395	土師器	坏	[13.2]	4.8	-	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ割り	床面	40%
396	土師器	坏	[13.0]	(3.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	におい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ割り	床面	60%
397	土師器	坏	[13.8]	(3.6)	-	長石・雲母・赤色粒子	暗褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ	体部外面ヘラ割り	覆土上層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q336	双孔円板	(1.7)	2.9	0.35	(2.48)	滑石	一部欠損 両面研磨 両面ヤスリ痕有	覆土中	

第63号住居跡 (第39~41図)

位置 調査区南部のC 5 i9区, 標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.06m, 短軸5.00mの方形で, 主軸方向はN-20°-Wである。壁高は26~42cmで, 外傾して立ち上がっている。



第39図 第63号住居跡実測図 (1)

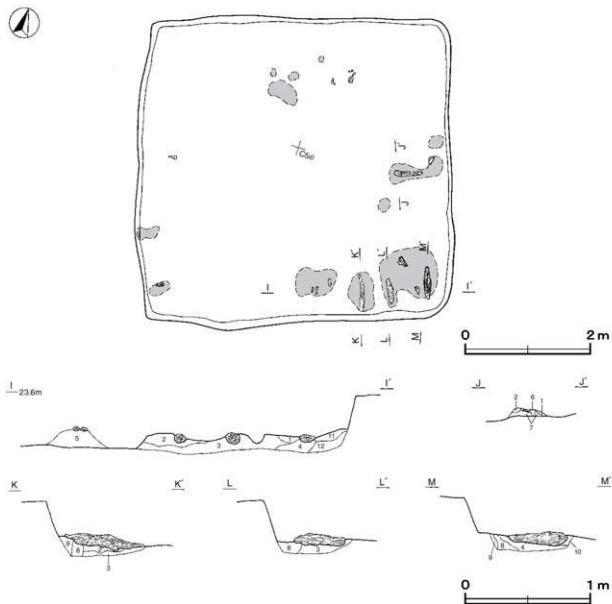
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、壁柱穴と考えられるピットを多数確認した。また、南東部床面の高まりに南北方向にはほぼ等間隔で幅14~20cm、長さ40~66cm、深さ10cmほどの溝を3条確認した。床面全体から炭化材や焼土塊を検出した。炭化材は、径6~13cmの丸材〔付章〕参照〕で、溝に掘付けたように出土している。

炉 中央部北側に位置している。長径62cm、短径26cmの楕円形で、床面を掘りくぼめた炉である。火床面は3層上面であり、皿状を呈し、赤変している。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
2 暗赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
3 暗赤褐色 焼土粒子少量

ピット 38か所。P 1は深さ22cmで、南壁際のほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットは、深さ4~16cmで、ほぼ等間隔で四方の壁下を巡っていることから壁柱穴と考えられる。



第40図 第63号住居跡実測図(2)

覆土 8層に分けられる。第1・2層は、周囲からの流入による自然堆積層で、第3層以下は不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量・焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量	8 褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量

根太部および焼土塊土層解説

1 赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子中量	7 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子中量	8 暗褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量	11 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 黒褐色	炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック少量

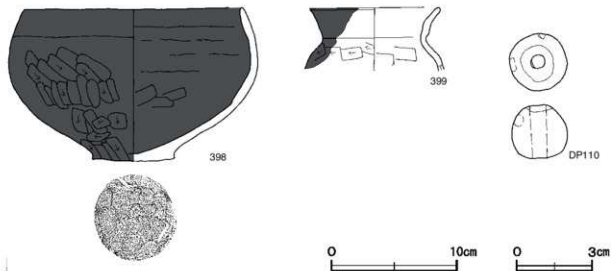
貯蔵穴 南西コーナー部に位置し、長径92cm、短径78cmの楕円形で、深さは43cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層に分けられ、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2 極暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片364点(坏53, 埴27, 高坏70, 甕頸214), 土製品4点(球状土錘1, 炬器台1, 不明2)が出土している。また、混入した縄文土器片2点も出土している。398は北壁際の覆土下層, 399は貯蔵穴内の覆土下層から出土した細片と南西部南壁際から出土した細片が接合したものである。DP110は中央部南寄りの床面から出土している。いずれも住居廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。炬器台は、炬の北側に設置されたような状態で出土しているが、脆弱であるため掲載することはできなかった。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。南東部南壁際から出土した3本の丸材の炭化材については、第55号住居跡で検出した炭化材と同様に根太として使用していた可能性が高い。出土した炭化材を加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を実施した結果、暦年較正用年代1,728±31(AD241~393)という年代値が測定された。時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられるが、分析結果とは時間差がある。



第41図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
398	土師器	鉢	17.4	12.2	6.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	75% PL21 内・外面保存着
399	土師器	小形甕	10.2	(5.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	貯蔵穴内	30% 外面煤付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP110	球状土錘	2.3	2.2	0.6	11.5	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 一方向からの穿孔	床面	PL25

第64号住居跡 (第42・43図)

位置 調査区南東部のC6c2区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第201・254号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.42m、短軸5.88mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は50~62cmほどで、外積して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部から壁際まで踏み固められている。壁下には、幅10~15cm、深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。床面から炭化材と焼土塊を検出した。

炉 中央部北側に位置している。長径60cm、短径52cmの隅丸長方形で、床面をやや掘りくぼめた炉である。火床面は皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 10か所。P1~P4は深さ40~54cmで、主柱穴である。P5は深さ10cmで、南壁際のほほ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6~P10は深さ10~49cmで、性格は不明である。

覆土 17層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

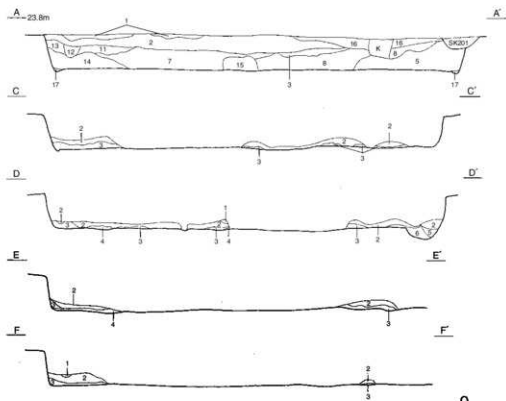
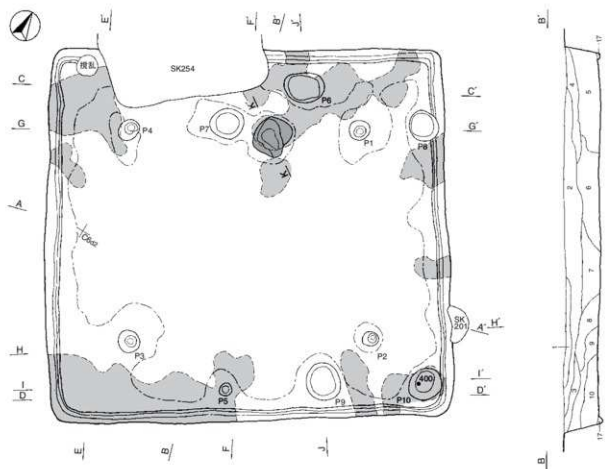
- | | | | |
|--------|------------------|---------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 極暗褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 15 褐色 | ローム粒子中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子少量 | 17 褐色 | ローム粒子多量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | | |

焼土塊土層解説

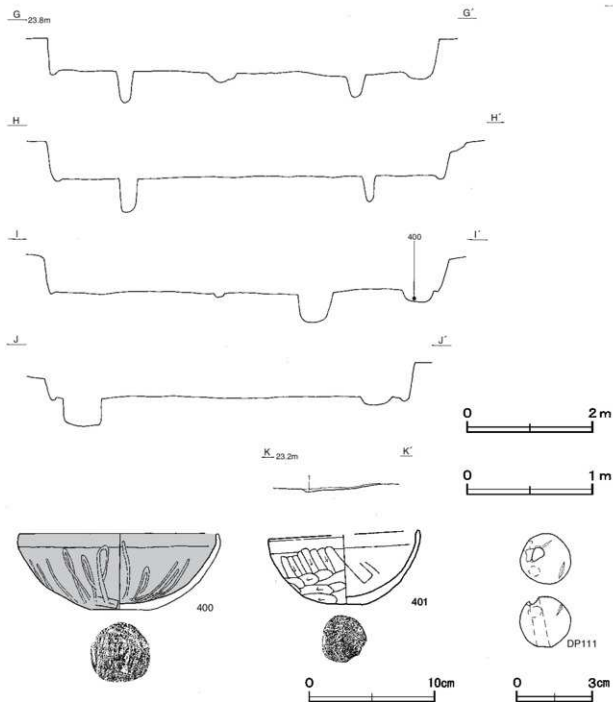
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片467点(坏108, 碗12, 埴12, 高坏15, 甕類320), 土製品1点(球状土錘)が出土している。また、混入した縄文土器片4点も出土している。ほとんどが細片である。401・DP111は覆土中、400はP10の底面から出土している。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第42图 第64号住居跡实测图



第43図 第64号住居跡・出土遺物実測図

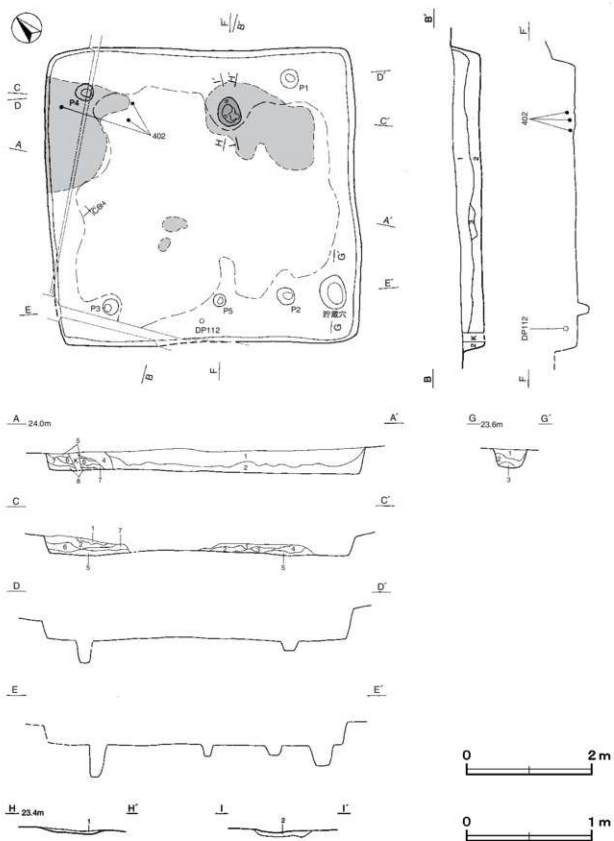
第64号住居跡出土遺物観察表 (第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
400	土師器	椀	15.8	6.1	4.7	長石・石英・雲母	赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラ磨き	P10内	60% PL18
401	土師器	椀	[12.0]	5.7	3.3	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨り 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ磨り	覆土中	65%

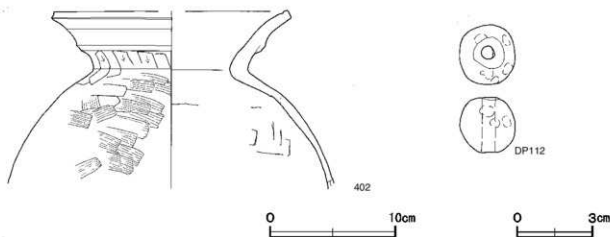
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP111	縄状土織	2.0	2.0	0.5	6.7	長石・石英	ナデ 一方からの穿孔	覆土中	PL25

第65号住居跡 (第44・45図)

位置 調査区南東部のC 6 4区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。



第44図 第65号住居跡実測図



第45図 第65号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 長軸4.86m、短軸4.68mの方形で、主軸方向はN-51°-Eである。壁高は28~45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から西部が踏み固められている。床面に炭化材と焼土塊を検出した。

炉 中央部東側に位置している。長径46cm、短径34cmの楕円形で、床面をやや掘りくぼめた炉である。火床面は2層上面であり、皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

- 1 濃い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 暗赤褐色 焼土粒子少量

ピット 5か所。P1~P4は深さ17~54cmで、主柱穴である。P5は深さ19cmで、南西壁際のほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 | 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

焼土塊土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | |

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径53cm、短径40cmの楕円形で、深さは34cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層に分けられ、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片703点（坏34、碗25、埴49、高坏63、甕類532）、土製品1点（球状土錘）が出土している。また、混入した縄文土器片2点も出土している。出土遺物のほとんどが細片である。DP112は南西部の覆土中層、402は北部の覆土下層から出土している。いずれも住居焼失後に投棄されたものと考えられる。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。

第65号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
402	土師器	壺	[18.7]	(14.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部外面ヘラ削り 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪襷痕	覆土下層	70% PL22

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP112	埴土土師	2.2	2.2	0.6	12.2	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 一方方向からの穿孔	覆土中層	PL25

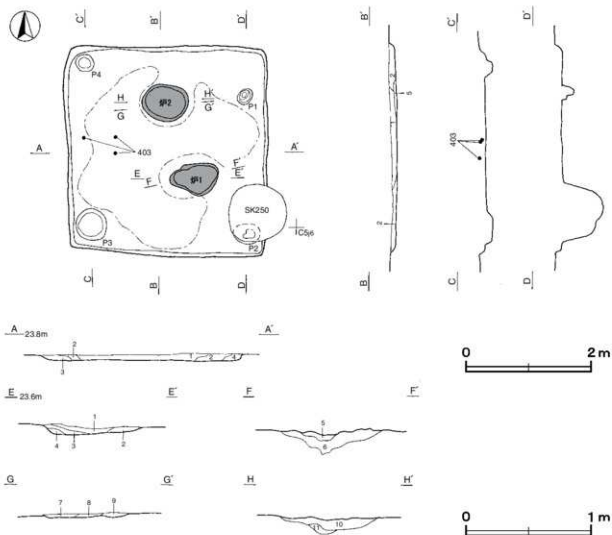
第69号住居跡 (第46・47図)

位置 調査区南部のC 5 i5区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第250号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸3.15mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は10~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部および南部が踏み固められている。



第46図 第69号住居跡実測図

炉 2か所。炉1は中央部やや南東側、炉2は中央部北側に位置している。炉1は、長径80cm、短径54cm、炉2は、長径77cm、短径60cmのいずれも楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は炉1が5層上面、炉2が10層上面であり、いずれも皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|-----------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量 | 7 極暗赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子微量、ローム粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 6 赤褐色 | 焼土粒子中量 | | |

ピット 4か所。P1～P4は深さ12～47cmで、主柱穴である。P2は第250号土坑に掘り込まれている。

覆土 5層に分けられる。第1～4層は、周囲からの流入による自然堆積層で、第5層は人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|----------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片235点(坏30, 高坏10, 甕類195)が出土している。出土遺物のほとんどが細片である。403は西部の覆土中層から出土した3点が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第47図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
403	土師器	甕	[17.4]	(4.2)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	覆土中層	外面保付着

第70号住居跡 (第48・49図)

位置 調査区南東部のC6j1区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第251号土坑に掘り込まれている。

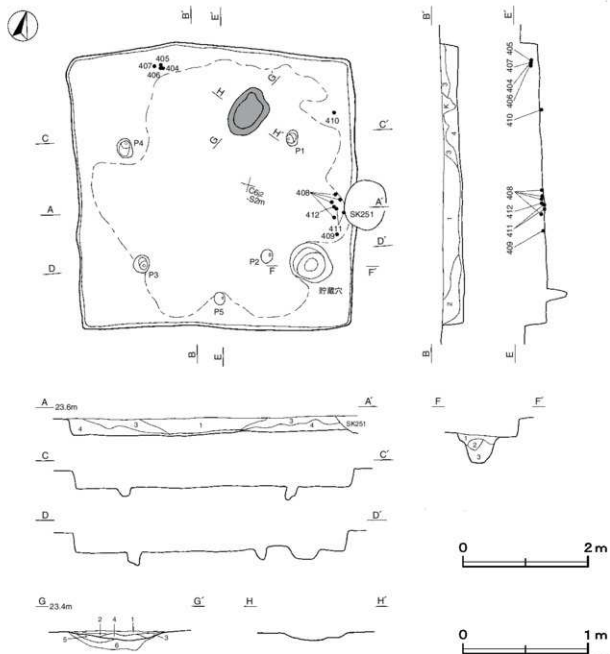
規模と形状 長軸4.42m、短軸4.28mの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は26～30cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部から各壁近くまで踏み固められている。

炉 中央部北側に位置している。長径82cm、短径51cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は5・6層上面であり、皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |



第48図 第70号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ13～21cmで、主柱穴である。P5は深さ33cmで、南壁際のはほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

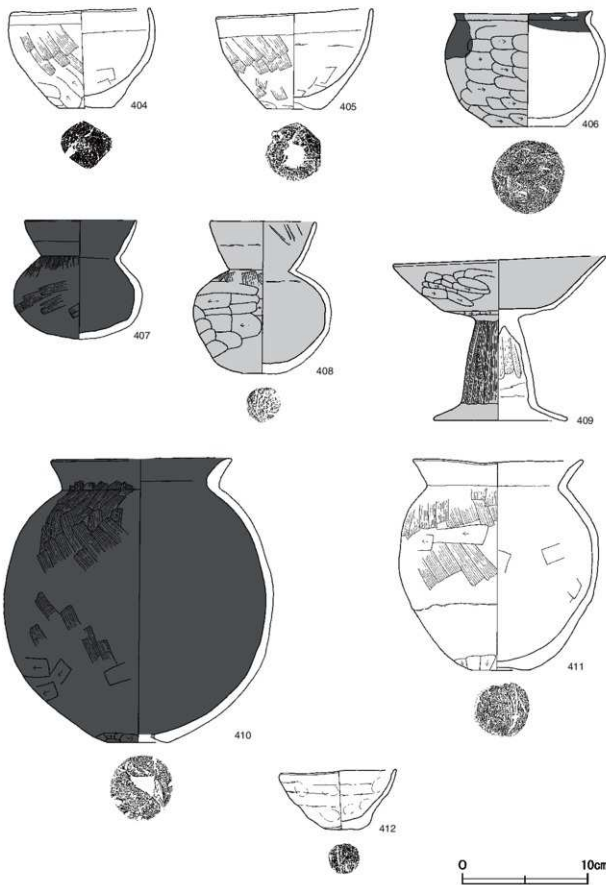
土層解説

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1 棕褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 棕褐色 ローム粒子中量 | 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |

貯蔵穴 南東部に位置し、長径70cm、短径58cmの楕円形で、深さは48cmである。底面は皿状で、壁は中位までは直立し、上位は外傾して立ち上がっている。覆土は3層に分けられ、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量 | |



第49図 第70号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片709点(埴34, 椀12, 埴150, 高坏133, 甕類379, 手捏土器1)が出土している。また、混入した縄文土器片1点も出土している。404~407は北西部北壁寄りの覆土下層, 408・409・411・412は東部, 410は北東部の床面からそれぞれ出土している。404~406は正位, 412は逆位で出土しており, 住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から5世紀前葉と考えられる。

第70号住居跡出土遺物観察表(第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
404	土師器	椀	11.0	8.0	4.0	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目 下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	95% PL18
405	土師器	椀	12.3	8.1	4.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目後ナデ 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	95% PL21
406	土師器	鉢	11.0	9.3	6.0	長石・石英・雲母	赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	100% PL21 内・外面塚付着
407	土師器	埴	8.8	9.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目	覆土下層	90% PL19 内・外面塚付着
408	土師器	埴	8.3	12.3	2.7	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目後ヘラ削り 輪積痕	床面	70% PL19
409	土師器	高坏	16.8	13.2	10.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部外面ヘラ削り 脚部外面ハケ目 内面上部指面擦痕 輪積痕	床面	75% PL20
410	土師器	甕	[14.3]	22.9	[5.0]	長石・石英・小礫	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目後ヘラ削り 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	80% 内・外面塚付着
411	土師器	小形甕	13.5	16.8	4.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目後ヘラ削り 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	床面	90% PL21 内・外面塚付着
412	土師器	手捏土器	9.1	4.9	2.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 下端ヘラ削り 指頭圧痕 輪積痕	床面	100% PL18

第72号住居跡(第50図)

位置 調査区南東部のC5h8区, 標高23.5mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.10m, 短軸2.65mの長方形で, 主軸方向はN-68°-Eである。壁高は16~25cmで, ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で, 中央部から各壁近くまで踏み固められている。攪乱を受け床の中央部が失われている。

炉 中央部北側に存在したと推定される。床の中央部が攪乱を受けており, 南北径は33cm, 東西径が20cmだけが確認された。わずかな焼土の広がりだけで, 掘り込みや土層は確認できなかつた。

ピット 深さ44cmで, 性格は不明である。

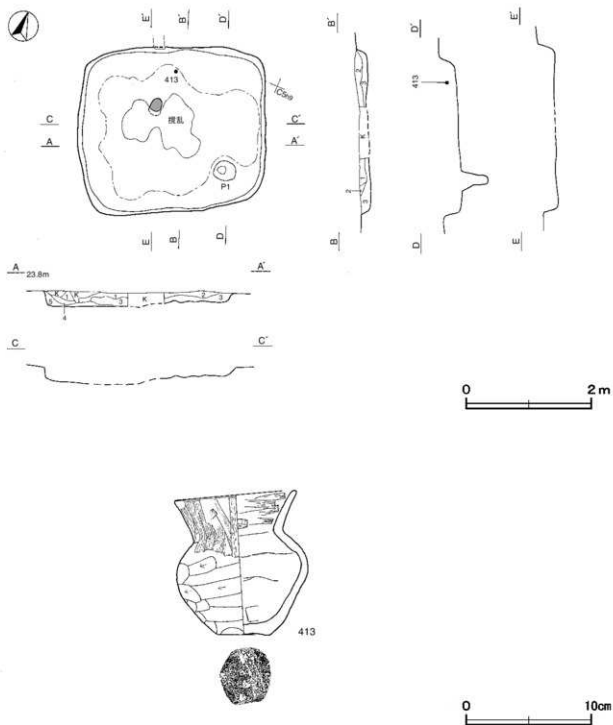
覆土 5層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片154点(坏51, 埴1, 高坏25, 甕類77)が出土している。413は北部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀前葉と考えられる。



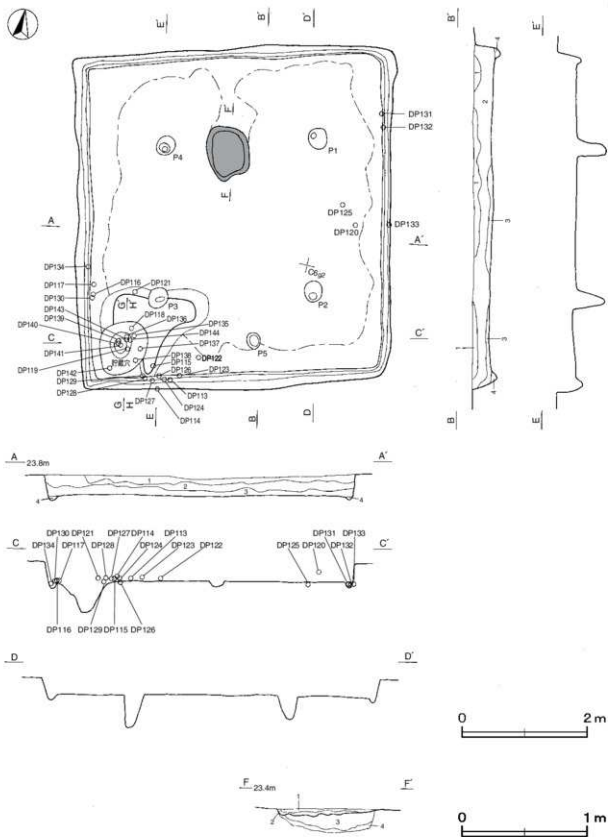
第50図 第72号住居跡・出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表 (第50図)

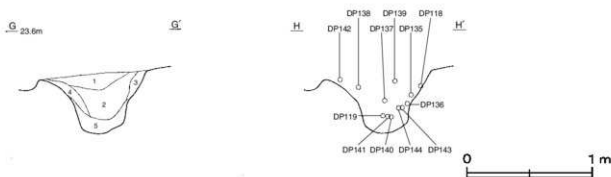
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
413	土師器	埴	9.6	11.6	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 胴部内・外面ハナ目 体部外面ヘラ磨り 内面ヘラナデ 輪轆直	覆土中層	90% PL19

第73号住居跡 (第51~53頁)

位置 調査区南東部のC 6 f1区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。



第51図 第73号住居跡実測図 (1)



第52図 第73号住居跡実測図(2)

規模と形状 長軸5.40m, 短軸4.88mの長方形で, 主軸方向はN-21°-Wである。壁高は30~33cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部から壁際まで踏み固められている。壁下には, 幅6~10cm, 深さ8~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南西コーナー部にある貯蔵穴からP3にかけて床面の高まりが確認された。

炉 中央部北側に位置している。長径86cm, 短径66cmの楕円形で, 床面をやや掘りくぼめた炉である。火床面は3層上面であり, 皿状を呈し, 赤変している。

伊土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 赤色 焼土粒子中量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 濃い赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |

ビット 5か所。P1~P4は深さ36~52cmで, 主柱穴である。P5は深さ8cmで, 南壁際のほぼ中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うビットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 炭化粒子・黒色粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

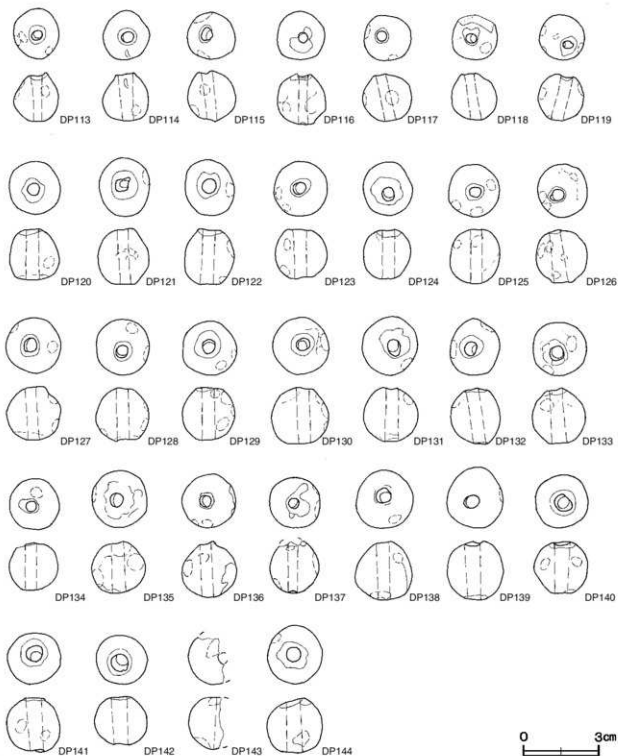
貯蔵穴 南西コーナー部に位置し, 長径90cm, 短径73cmの楕円形で, 深さは48cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層に分けられ, 周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片371点(坏93, 埴10, 高坏54, 甕類214), 土製品32点(土玉7, 球状土錘25)が出土している。また, 混入した縄文土器片1点も出土している。出土土器のほとんどが細片である。DP120は東部の覆土中層から, DP125は東部, DP115・121~123・126・129は西部, DP116・117・130は西部のそれぞれ床面から, DP131~133は東部, DP113・114・124・127・128は西部, DP134は西部のそれぞれ壁溝から, DP118・119・135~144は貯蔵穴内から出土している。いずれも住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第53図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP113	土玉	1.8	2.0	0.4~ 0.5	5.8	長石・石英	ナテ 一方向からの穿孔	壁溝内	PL26
DP114	土玉	1.8	2.0	0.5	6.0	長石・石英	ナテ 一方向からの穿孔	壁溝内	PL26

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP115	土玉	1.9	2.0	0.5	6.3	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP116	土玉	1.9	2.1	0.4	6.8	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP117	土玉	1.9	1.9	0.5	6.1	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP118	土玉	1.8	1.9	0.4	5.7	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP119	土玉	1.8	1.9	0.5	5.0	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP120	球状土鉢	2.0	2.0	0.5	8.6	長石・石英	ナテ 端部へう割り 一方からの穿孔	覆土中層	PL26
DP121	球状土鉢	2.0~ 2.3	2.2	0.4	8.9	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP122	球状土鉢	2.0	2.2	0.5	9.4	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP123	球状土鉢	2.1	2.0	0.5	8.8	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP124	球状土鉢	1.9~ 2.1	2.0	0.5	7.6	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	壁溝内	PL26
DP125	球状土鉢	2.0	2.1	0.5	8.5	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP126	球状土鉢	2.0	2.1	0.6	8.4	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP127	球状土鉢	2.2	2.1	0.5	9.1	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	壁溝内	PL26
DP128	球状土鉢	2.1	2.1	0.5	9.1	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	壁溝内	PL26
DP129	球状土鉢	2.1	2.2	0.5	9.5	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP130	球状土鉢	2.3	2.3	0.5	11.2	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	床面	PL26
DP131	球状土鉢	2.2	2.2	0.5	10.6	長石・石英	ナテ 端部へう割り 一方からの穿孔	壁溝内	PL26
DP132	球状土鉢	2.0~ 2.2	2.2	0.5	8.9	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	壁溝内	PL26
DP133	球状土鉢	2.1	2.1	0.6	10.0	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	壁溝内	PL26
DP134	球状土鉢	2.0	2.0	0.5	7.3	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	壁溝内	PL26
DP135	球状土鉢	2.2	2.1	0.5	9.8	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP136	球状土鉢	2.2	2.2	0.4	8.2	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP137	球状土鉢	(2.0)	2.0	0.4	(7.7)	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP138	球状土鉢	2.2	2.3	0.5	11.5	長石・石英	ナテ 端部へう割り 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP139	球状土鉢	2.3	2.3	0.5	10.8	長石・石英	ナテ 端部へう割り 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP140	球状土鉢	2.1	2.0	0.5~ 0.6	8.3	長石・石英	ナテ 端部へう割り 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP141	球状土鉢	2.1~ 2.2	2.2	0.5~ 0.6	8.3	長石・石英	ナテ 端部へう割り 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP142	球状土鉢	1.9~ 2.1	1.9	0.5~ 0.7	6.7	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP143	球状土鉢	(1.4)	2.1	-	(4.1)	長石・石英	ナテ 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26
DP144	球状土鉢	2.2	2.2	0.6	9.1	長石・石英	ナテ 端部へう割り 一方からの穿孔	貯蔵穴内	PL26

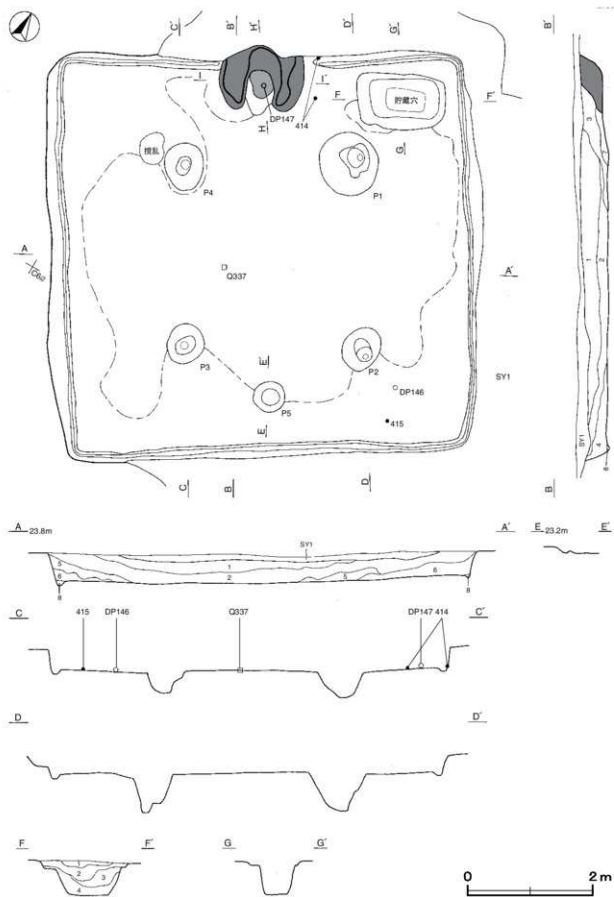
第74号住居跡 (第54~56図)

位置 調査区南東部のC 6 h2区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。

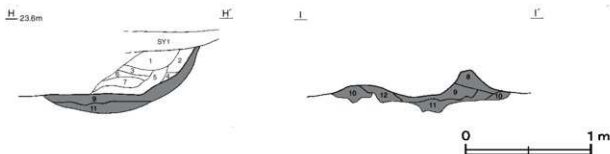
重複関係 第291号土坑を掘り込み、第1号炭焼窯に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.94m、短軸6.32mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は25~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から北東部が踏み固められている。壁下には、幅10~20cm、深さ6~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第54图 第74号住居跡实测图(1)



第55図 第74号住居跡実測図(2)

壁 北壁中央部に付設されている。第1号炭焼窯によって中央部から竈左袖部にかけて削平されており、確認された規模は、焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅132cmである。袖部と火床部は砂質粘土混じりの土を主体とする第8～12層で形成されており、内側は火を受け赤変している。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受け赤変している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 にい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 にい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 にい赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 にい赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ34～60cmで、主柱穴である。P5は深さ14cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

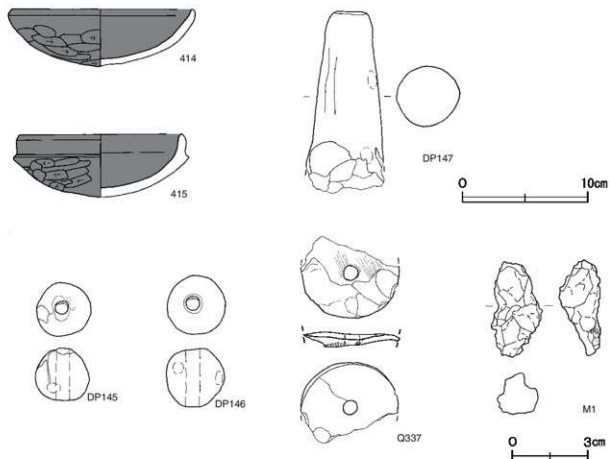
貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長軸138cm、短軸88cmの長方形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。上位に棚状の部分を確認した。覆土は4層に分けられ、周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片525点(坏74, 高坏14, 甕類437), 土製品3点(球状土錘2, 支脚1), 石製品1点(紡錘車), 鉄滓1点が出土している。DP145・M1は覆土中, 414は北壁際, 415・DP146は東部, Q337は中央部の床面, DP147は竈火床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第56図 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
414	土師器	坏	14.3	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	80% PL17
415	土師器	坏	12.7	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	70% PL17

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・粘土	特徴	出土位置	備考
DP146	球状土埴	2.1	2.1	0.6	8.7	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL25
DP146	球状土埴	2.3	2.4	0.6	12.0	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL25

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質・粘土	特徴	出土位置	備考
DP147	支脚	14.5	2.8	(6.2)	(437)	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	ナデ 指頭痕 被熱痕有り	竈火床面	PL24

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q337	紡錘車	3.9	(0.6)	0.7	(4.1)	滑石	上・下面欠損	床面	PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鉄滓	3.8	2.1	1.6	11.5	鉄	炭化材付着	覆土中	PL27

第75号住居跡 (第57・58図)

位置 調査区東部のB 6g1区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 中央部から東部は調査区域外であり、南北軸4.32m、東西軸は3.24mだけが確認された。遺存する西壁から、主軸方向N-22°-Wの方形または長方形と推定される。壁高は22~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

炉 中央部に位置している。東部は調査区域外であり、南北径36cm、東西径は46cmだけが確認された。床面を掘りくぼめた炉で、火床面は皿状を呈し、赤変している。

炉土層解説

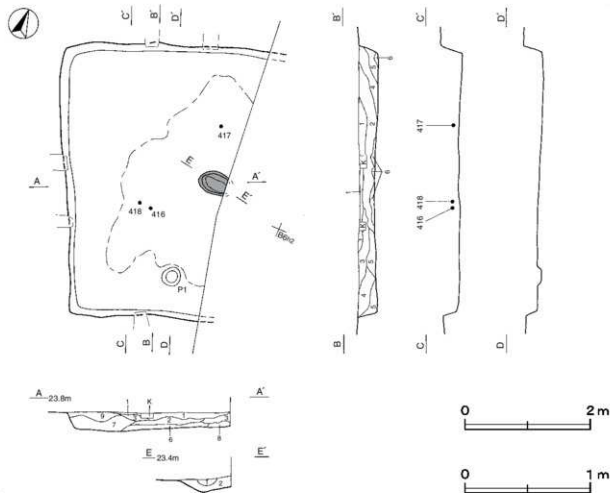
- 1 濃い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 明褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 深さ7cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

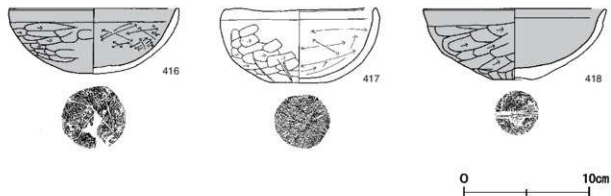
- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、黒色粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量、黒色粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、黒色粒子微量 | 8 赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、黒色粒子微量 |
| 4 黒暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量 | | |



第57図 第75号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片17点(坏3, 碗2, 高坏2, 甕類10)が出土している。416・418は西部, 417は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第58図 第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表 (第58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
416	土師器	坏	13.3	5.2	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き 底部に焼成前の十字状の圧痕	覆土下層	90% PL17
417	土師器	碗	12.0	6.0	4.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き 底部多方向のへラ削り 底部から 体部に焼成前の多方向の圧痕	覆土下層	100% PL16
418	土師器	碗	14.6	5.6	3.4	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナテ 体部外面へラ 削り 底部に焼成前の一方向の圧痕	覆土下層	95% PL16

第76号住居跡 (第59図)

位置 調査区北西部のA4j7区, 標高23.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.31m, 短軸2.86mの長方形で, 主軸方向はN-79°-Wである。壁高は10~15cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。

炉 2か所。炉1は東部, 炉2は中央部やや西側に位置している。炉1は, 長径39cm, 短径35cm, 炉2は, 長径35cm, 短径28cmのいずれも楕円形で, 床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は皿状を呈し, 赤変している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子中量 | |

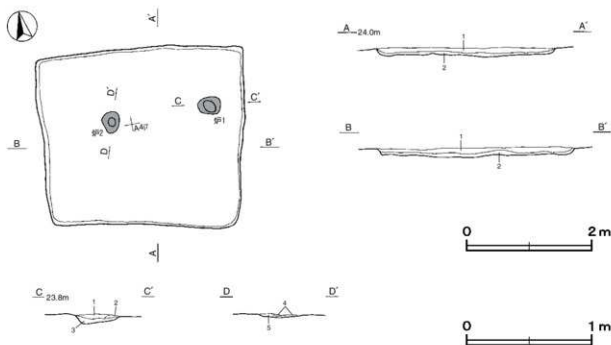
覆土 2層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, 炭化粒子微量 | 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・黒色粒子微量 |
|----------------------------|---------------------------|

遺物出土状況 土師器片110点(坏16, 高坏9, 甕類85)が出土している。土器のほとんどが細片である。

所見 時期は, 出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第59図 第76号住居跡実測図

第77号住居跡 (第60～62区)

位置 調査区北西部のB 4 a5区、標高23.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.76m、短軸7.56mの方形で、主軸方向はN-37°-Wである。壁高は25～38cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部から壁際まで踏み固められている。壁下には、幅10～14cm、深さ8～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北コーナー部に高さ8cmほどの棚状の高まりを確認した。また、床面に炭化材と焼土塊を検出した。

焼土層解説

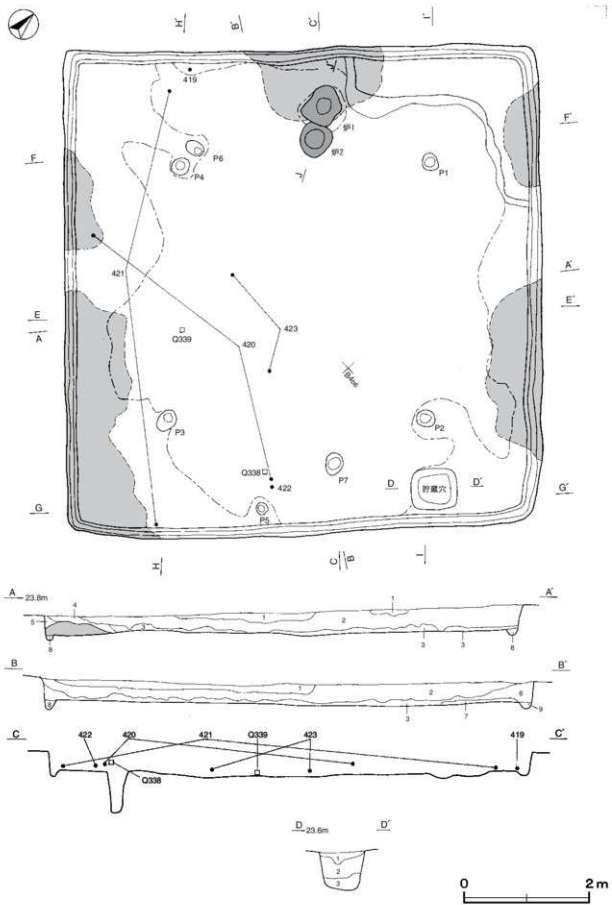
- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |

炉 2か所。炉2は中央部北西寄りに、炉1はさらに北寄りに位置している。炉1は長径62cm、短径48cmの不定形、炉2は北部を炉1に掘り込まれており、南北径は55cm、東西径52cmのみを確認した。いずれも床面をわずかに掘りくぼめた炉であり、火床面は皿状を呈し、赤変している。炉1が炉2を掘り返していることや焼土の色などから、炉2から炉1へ作り替えられたものと推定される。

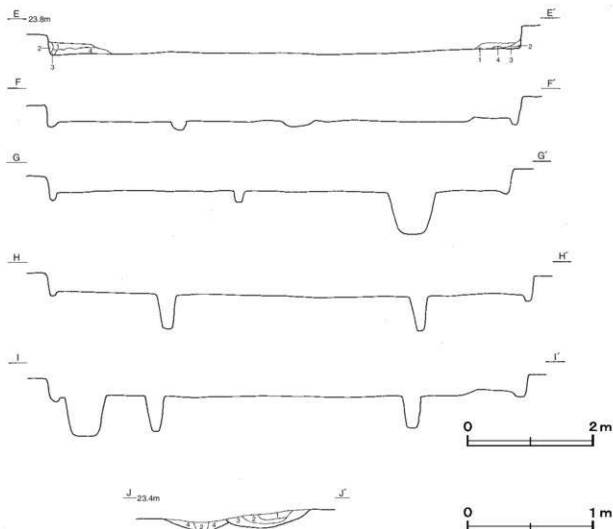
炉土層解説

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 明赤褐色 焼土粒子多量 | 3 極暗赤褐色 焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化物微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ52～57cmで、支柱穴である。P 5は深さ21cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ15・69cmで、性格は不明である。



第60图 第77号住居跡实测图(1)



第61図 第77号住居跡実測図(2)

覆土 9層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 黒色粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック・黒色粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |

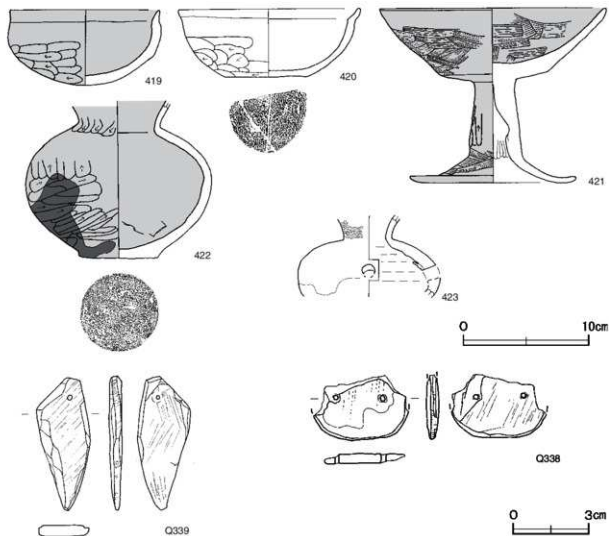
貯蔵穴 東部壁寄りに位置し、長軸75cm、短軸68cmの長方形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。覆土は3層に分けられ、周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片297点(坏81, 碗10, 増21, 高坏21, 壺1, 甕類163), 須恵器片2点(甕, 甕), 石製品2点(双孔円板, 石製模造品)が出土している。また、混入した縄文土器片2点, 石鏃1点も出土している。422・Q338は南東部, 423は中央部, 420は南西壁際と南東壁際から出土した細片が, 421は北西壁際と南壁際から出土した細片がそれぞれ接合したもので、いずれも覆土下層から、419は北西部壁際, Q339は南西部の床面からそれぞれ出土している。焼土や炭化材と伴出していることから、住居の廃絶時に廃棄したものと考えられる。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第62図 第77号住居跡出土遺物実測図

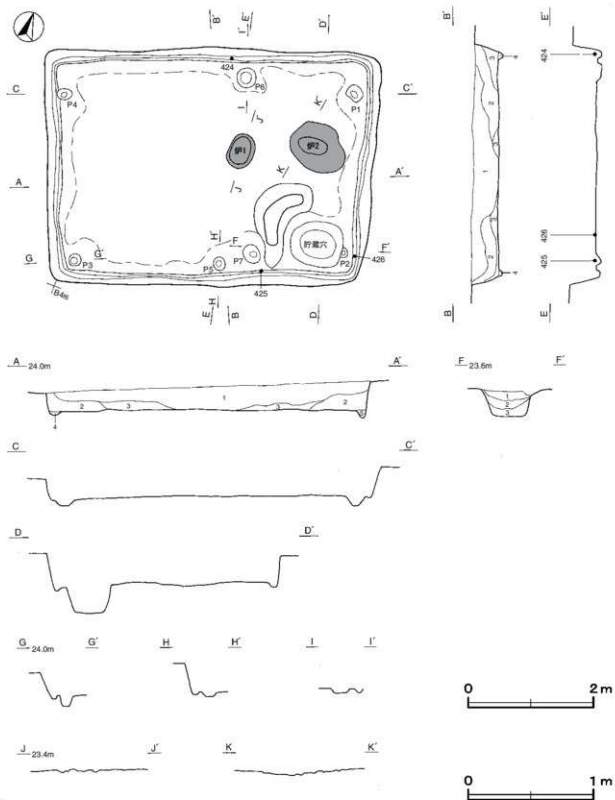
第77号住居跡出土遺物観察表 (第62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
419	土師器	椀	11.9	6.0	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	90% PL16
420	土師器	椀	14.2	5.5	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土下層	50% PL16
421	土師器	高坏	17.9	13.9	13.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ハケ目 脚部内・外面へラ削り 底部外面ハケ目 内面ナデ	覆土下層	100% PL20
422	土師器	壺	-	(12.5)	6.3	長石・石英・雲母	赤	普通	頸部から体部外面へラ削り 内面へラナデ	覆土下層	80% 外面係付着
423	須恵器	匙	-	(6.5)	-	長石	黄灰	普通	頸部掘歯状工具による波状文	覆土下層	30% PL18 自然軸

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q338	双孔円板	(2.5)	(3.7)	0.42	(6.2)	滑石	一部欠損 両面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL27
Q339	石製模造品	5.3	0.6	0.5	7.5	滑石	刷形 両面研磨 一方向からの穿孔 孔径0.2cm	床面	PL27

第78号住居跡 (第63・64図)

位置 調査区北西部のB4 e6区、標高23.7mの平坦な台地上に位置している。



第63図 第78号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.36m, 短軸3.82mの長方形で, 主軸方向はN-68°-Eである。壁高は42~54cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部から壁際まで踏み固められている。壁下には, 幅5~10cm, 深さ6~11cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南東コーナー部に位置する貯蔵穴と炉の間に高まりを確認した。

炉 2か所。炉1は中央部, 炉2は中央部東壁寄りに位置している。炉1は長径53cm, 短径42cm, 炉2は長径95cm, 短径74cmのいずれも楕円形で, 床面をわずかに掘りくぼめた形状が確認されたが, 掘り込みは非常に浅く, 薄く焼土が広がった範囲のみを確認した。

ピット 7か所。P1~P4・P6・P7は深さ10~19cmで主柱穴である。P5は深さ8cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分けられる。第1・2層は, 周囲からの流入による自然堆積層で, 第3層以下は人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・黒色粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | | |

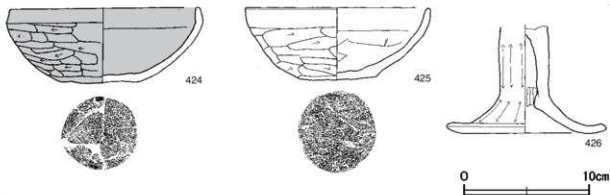
貯蔵穴 南東コーナー部に位置し, 長径84cm, 短径70cmの楕円形で, 深さは42cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層に分けられ, 周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 黒色粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片146点(坏29, 碗4, 埴2, 高坏9, 甕類102)が出土している。また, 混入した縄文土器片2点, 石器1点(剥片)も出土している。424は北壁際, 425は南壁際, 426は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀中葉と考えられる。



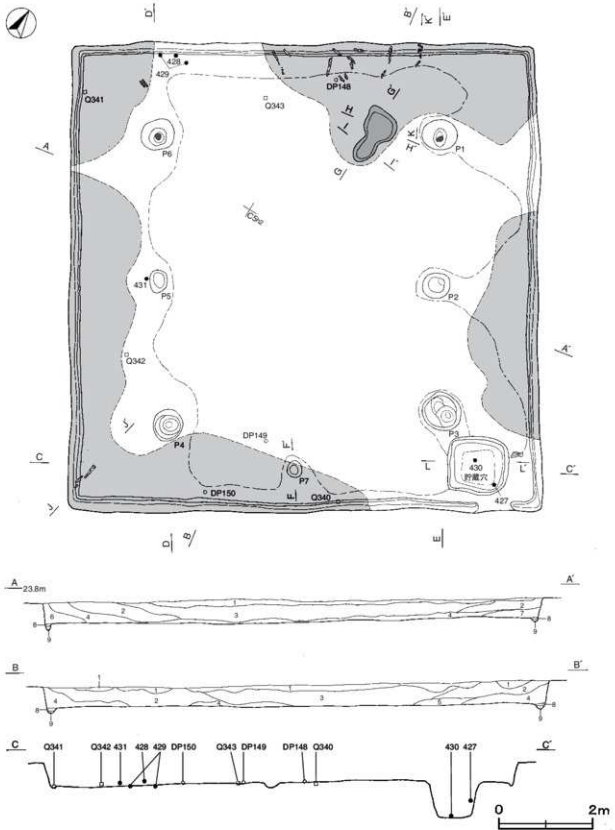
第64図 第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表(第64図)

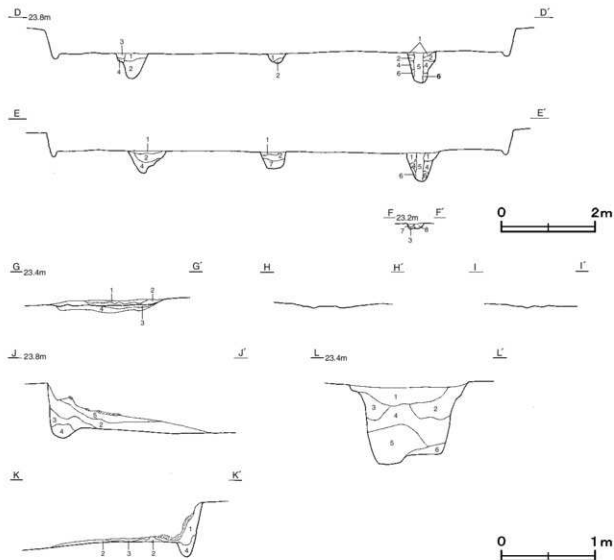
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
									口辺部内・外面横ナデ削り	底部多方向のヘラ削り		
424	土師器	碗	14.9	6.0	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ削り	体部外面ヘラ削り	床面	95% PL18
425	土師器	碗	14.5	5.8	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ削り	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナゲ	床面	90% PL16
426	土師器	高坏	-	(8.6)	12.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き	内面ヘラによる擦痕 裾部外面ヘラ磨き	床面	40%

第79号住居跡 (第65~68図)

位置 調査区南西部のC 5g1区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。



第65図 第79号住居跡実測図 (1)



第66図 第79号住居跡実測図(2)

規模と形状 長軸9.94m, 短軸9.92mの方形で, 主軸方向はN-29°-Wである。壁高は43~51cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 西部と北東部を除いて壁際まで踏み固められている。壁下には, 幅13~15cm, 深さ10~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また, 床面に炭化材と焼土塊を検出した。

炉 中央部北寄りに位置している。長径124cm, 短径34cmの不定形で, 床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は第3・4層上面であり, 皿状を呈し, 赤変している。

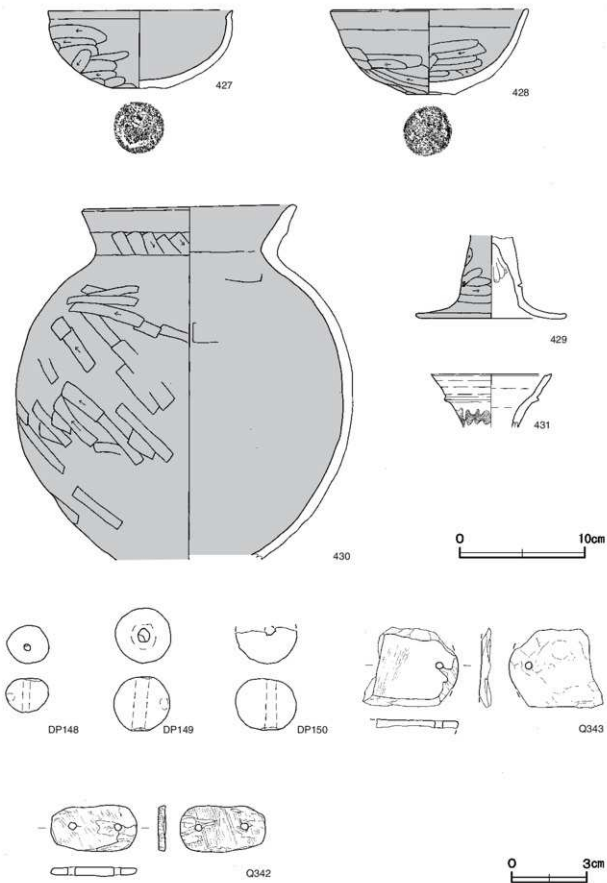
伊土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 3 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 4 に近い赤褐色 焼土粒子少量 |

ピット 7か所。P1~P6は深さ19~67cmで, 主柱穴である。P7は深さ11cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・黒色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 明褐色 ローム粒子中量 | 7 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量 | 8 褐色 ロームブロック少量 |



第67図 第79号住居跡出土遺物実測図(1)

覆土 9層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・黒色粒子微量 | 6 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子・黒色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、黒色粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック・黒色粒子中量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、黒色粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、黒色粒子少量 | | |

焼土土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化材少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

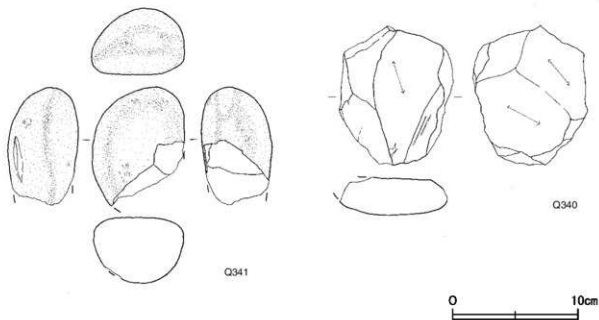
貯蔵穴 東コーナー部に位置し、一辺が128cmほどの方形で、深さは80cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は6層に分けられ、第1～3層は、周囲からの流入による自然堆積層で、第4層以下は人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1,365点（坏411, 碗4, 増82, 高坏56, 甕類812）、須恵器片6点（坏5, 甕1）、土製品3点（土玉1, 球状土錘2）、石器2点（砥石、磨石）、石製品2点（双孔円板）が出土している。また、混入した縄文土器片12点も出土している。428・429・Q341は西部、DP148・Q343は北部、431・Q342は南西部、DP149・DP150・Q340は南部の床面から、427は貯蔵穴内の覆土中層、430は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。当遺跡の中で、規模は最大である。時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第68図 第79号住居跡出土遺物実測図(2)

第79号住居跡出土土物観察表 (第67・68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
427	土師器	椀	14.6	6.3	4.0	長石・石英・雲母	赤	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう割り	貯蔵穴内	90% PL18
428	土師器	椀	15.5	6.8	3.7	長石・石英・赤色粒子	にふい登	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へう割り 内面へう割り後ナデ	床面	80%
429	土師器	高坏	-	(6.5)	12.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい登	普通	脚部外面へう割り後ナデ 径0.3cmの刺突2か所 内面指頭推痕 頸部内・外面ナデ	床面	40% PL20
430	土師器	壺	16.5	(28.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部から体部外面へう割り 内面へうナデ	貯蔵穴内	80% PL22
431	須恵器	甕	9.6	(4.2)	-	長石	黄灰	良好	頸部8本の鋸齒状工具による波状文	床面	20% PL18 自然軸

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP148	土玉	1.5~1.7	1.4	0.2~0.3	3.2	長石・石英	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL25
DP149	球状土師	2.2	2.1	0.45~0.50	9.9	長石・石英	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL25
DP150	球状土師	(2.5)	2.1	(0.3~0.4)	(5.4)	長石・石英	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q340	砥石	(11.7)	(9.1)	3.0	(410.0)	砂岩	砥面3面 他は破断面	床面	PL24
Q341	磨石	(9.3)	7.4	5.3	(470.0)	安山岩	下部欠損 前面・側面・上端に織打痕	床面	
Q342	瓦孔円板	1.8	3.4	0.3	3.72	滑石	両面研磨 一方からの穿孔 孔径0.3cm	床面	PL27
Q343	瓦孔円板	(3.1)	(3.7)	(0.5)	(4.72)	滑石	一部欠損 孔径0.3cm	床面	PL27

第80号住居跡 (第69~71図)

位置 調査区西部のB4区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 一辺が7.55mの方形で、主軸方向はN-55°-Wである。壁高は20~28cmで、外傾して立ち上がっている。

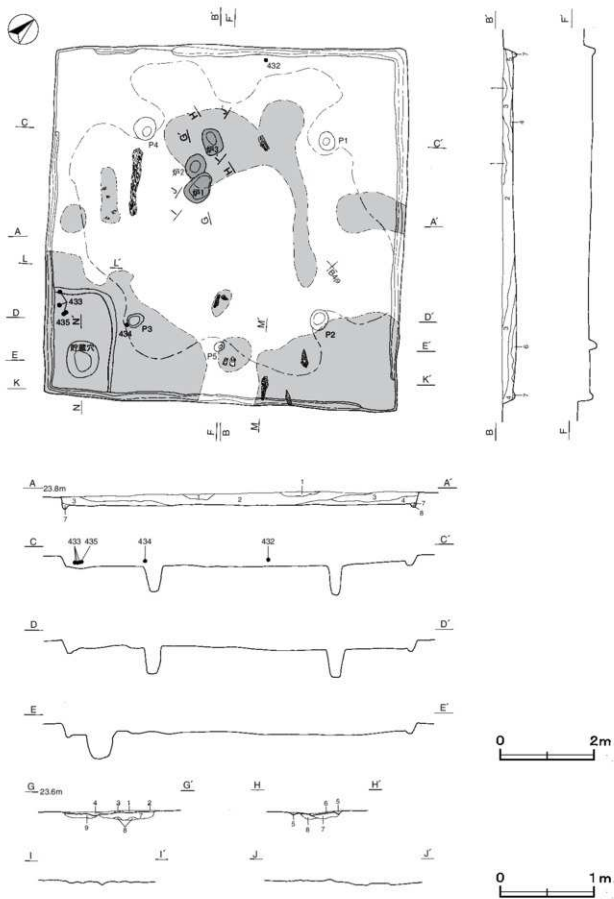
床 ほほ平坦で、壁際まで踏み固められている。壁下には、幅12~18cm、深さ6~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南コーナー部に位置する貯蔵穴を囲むように高さ8cmで長方形の高まりを確認した。また、床面に炭化材と焼土塊を検出した。

炉 3か所。炉1は中央部やや西寄りに、炉2はその西側に、炉3はその北側に位置している。炉1は、長径70cm、短径48cm、炉2は東部を炉1に掘り込まれており、南北径50cm、東西径は38cmのみが確認された。炉3は、長径55cm、短径35cmである。いずれも床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は炉1が9層上面、炉2・3が7層上面である。火床面は皿状を呈し、赤変している。炉1が炉2を掘り込んでいることや土層断面などから、炉3から炉2、そして炉1へ作り替えられたものと推定される。

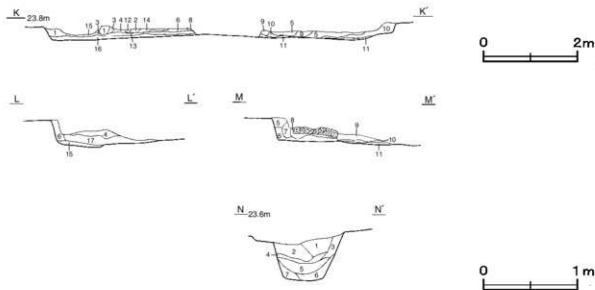
炉土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 にふい赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 7 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック、炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子中量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ60~72cmで、主柱穴である。P5は深さ16cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第69图 第80号住居跡实测图(1)



第70図 第80号住居跡実測図(2)

覆土 8層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

焼土土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 灰白色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子微量 | 9 明赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 灰白色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 明褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 11 明褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 明赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量、粘土ブロック微量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 15 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 17 極暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

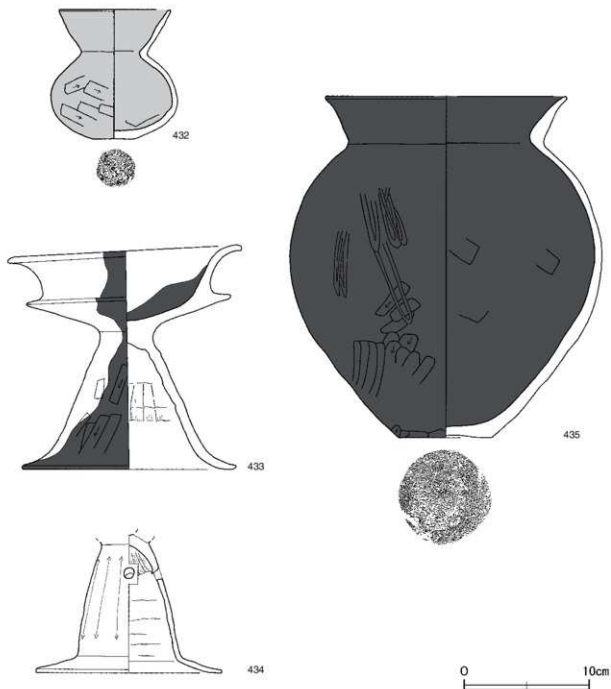
貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径78cm、短径66cmの楕円形で、深さは52cmである。底面は皿状で、壁はほぼ直立している。覆土は7層に分けられ、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 明赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片288点(環11, 椀21, 増23, 高坏76, 甕類157)が出土している。また、混入した縄文土器片4点も出土している。432は北壁際の覆土中層から、434は南部の覆土下層、433・435は南部壁際の高まりのある床面からそれぞれ出土している。

所見 床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失家屋と考えられる。出土した炭化材を加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を実施した結果、暦年較正年代 $1,764 \pm 33$ (AD365~381)という年代値が測定された。時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられるが、分析結果とは時間差がある。



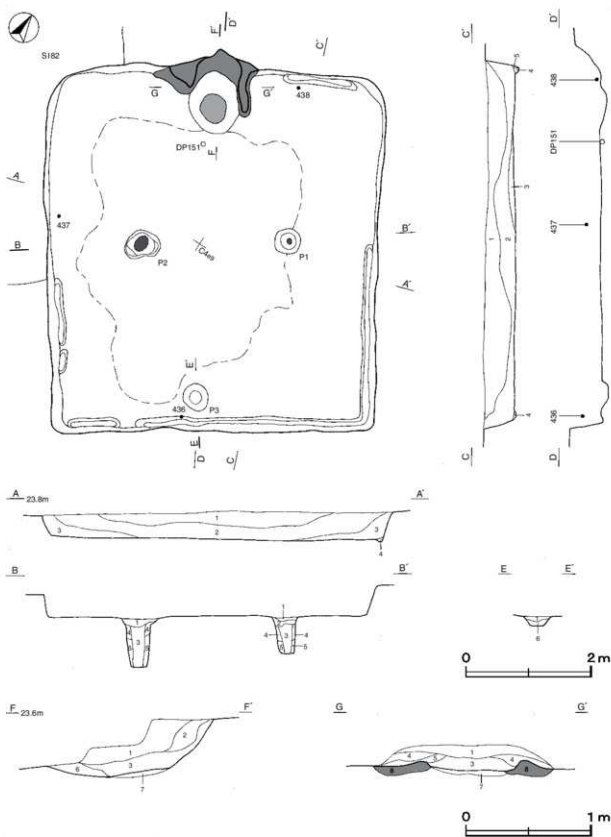
第71図 第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
432	土師器	埴	8.7	10.4	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部から頸部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面へラナデ	覆土中層	95% PL19
433	土師器	高坏	18.6	17.9	16.9	長石・石英・雲母	にぶい黄世	普通	口辺部内・外面横ナデ 脚部外面へラ削り後ナデ 内面指頭擦痕 輪轍痕	床面	85% PL20 内・外面塚付着
434	土師器	高坏	—	(11.0)	14.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面へラ磨き 内面上位指頭擦痕 輪轍痕 1.0cmの透し孔1か所	覆土下層	45% PL20
435	土師器	甕	18.8	27.2	7.4	長石・石英	にぶい黄世	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り後へラ磨き 内面へラナデ	床面	50% 内・外面塚付着

第81号住居跡 (第72・73図)

位置 調査区南西部のC4d8区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

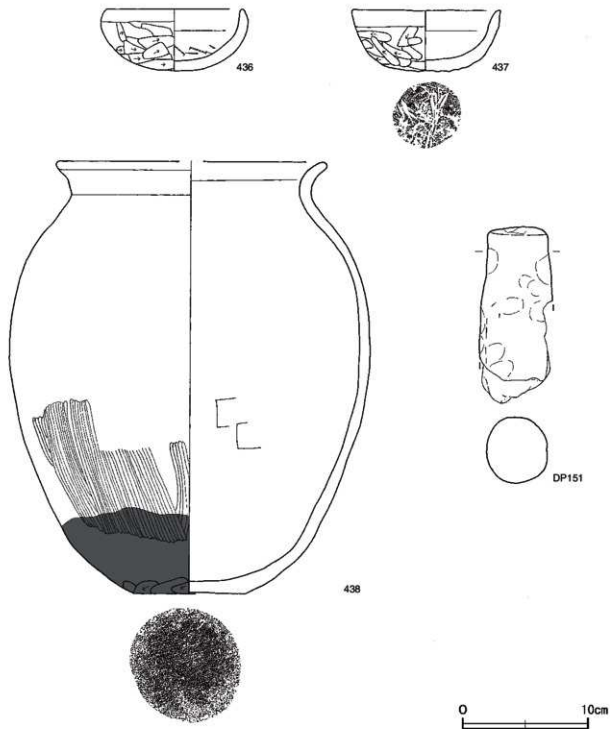


第72図 第81号住居跡実測図

重複関係 第82号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.88m，短軸5.32mの長方形で，主軸方向はN-28°-Wである。壁高は46~50cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部から西部が踏み固められている。壁下には，幅11~15cm，深さ7~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が部分的に確認されている。



第73図 第81号住居跡出土遺物実測図

観 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで134cm、袖部幅165cmである。袖部は砂質粘土混じりの土を主体とする第8層で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に28cmほど掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量	6 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	7 暗赤褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 にいり赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量	8 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量		
5 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量		

ピット 3か所。P1・P2は深さ56・78cmで、主柱穴である。P3は深さ10cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	5 褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ローム粒子少量	6 褐色	ローム粒子多量

覆土 5層に分けられる。周囲からの流入による堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒暗褐色	ロームブロック中量、黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 褐色	ローム粒子少量
2 黒暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子少量
		5 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片327点（坏43，増12，高坏8，甕類264），土製品1点（支脚）が出土している。436は南部，437は西部の覆土中層から，438は北部，DP151は竈前面の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。

第81号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
									口辺部内・外面横ナデ 削り	体部外面ヘラ 削り		
436	土師器	坏	10.6	4.9	—	長石・石英	にいり黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 削り	体部外面ヘラ 削り	覆土中層	100% PL17
437	土師器	坏	11.6	4.9	—	長石・石英・赤色粒子	にいり黄褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 削り	体部外面ヘラ 削り	覆土中層	95% PL17
438	土師器	甕	[20.8]	34.5	8.6	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 削り	体部外面下部ヘラ 削り	床面	50% 外面保付着

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質・胎土	特徴		出土位置	備考
DP151	支脚	(14.1)	4.6	(6.5)	(445.0)	長石・石英	ナデ	指頭痕 被熱痕有り	床面	PL24

第82号住居跡（第74～76図）

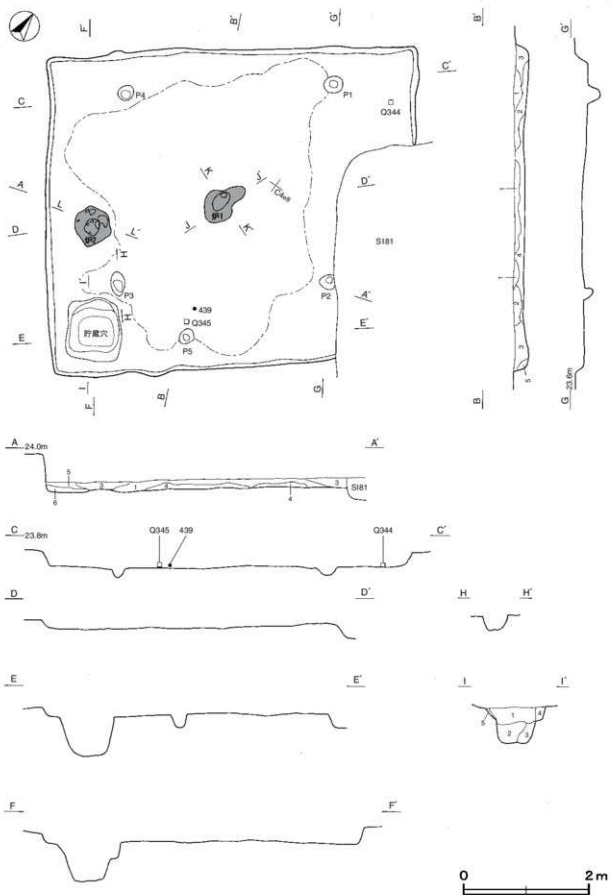
位置 調査区南西部のC4e7区、標高23.5mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第81号住居に掘り込まれている。

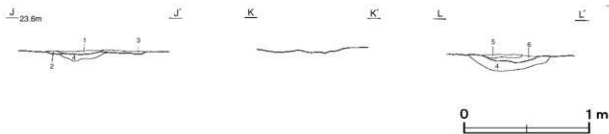
規模と形状 長軸5.86m、短軸5.10mの長方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は20～26cmで、外傾して立ち上がっている。東部が第81号住居に掘り込まれている。

床 ほぼ平坦で、残存部分の中央部から各壁近くまで踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部、炉2は南西壁寄りに位置している。炉1は、長径78cm、短径52cm、炉2は、長径



第74图 第82号住居跡实测图(1)



第75図 第82号住居跡実測図(2)

65cm, 短径55cmのいずれも不定形で、床面をわずかに掘りくぼめた炉である。火床面は炉1・2とも4層上面であり、いずれも皿状を呈し、赤変している。

炉1・2土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量 | 4 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 赤褐色 焼土ブロック中量、黒色粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 6 濃い赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ15～27cmで、主柱穴である。P5は深さ21cmで、南東壁際のほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

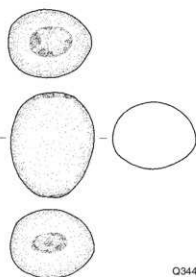
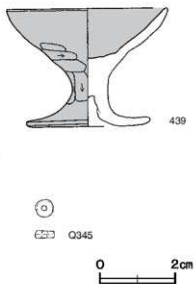
土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 黒色粒子少量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子中量、黒色粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量 | 5 極暗褐色 黒色粒子中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 黒色粒子中量、ローム粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長軸103cm、短軸88cmの長方形で、深さは60cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層に分けられ、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・黒色粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、黒色粒子微量 | |



第76図 第82号住居跡出土物実測図

遺物出土状況 土師器片132点(坏8, 埴9, 高坏8, 甕類107), 石器1点(磨石), 石製品1点(白玉)が出土している。また, 混入した縄文土器片7点も出土している。439・Q345は南部, Q344は北部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀後葉と考えられる。

第82号住居跡出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
439	土師器	高坏	12.7	9.4	9.8	長石・石英・小礫	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 坏部から脚部外面へラ削り後ナデ	床面	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q344	磨石	8.4	6.7	5.5	423.0	石英	両端に磨打痕		床面	PL24

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q345	白玉	0.47	0.16	0.21	0.07	滑石	円筒状 両面研磨 一方からの穿孔		床面	

(2) 土坑

第237号土坑(第77・78図)

位置 調査区西南部のC 5 e3区, 標高23.7mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 擾乱によって北部が壊されており, 南北軸は0.68m, 東西軸は1.08mの不定形と推定される。深さは20cmで, 長軸方向はN-75°-Wである。底面は皿状で, 壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 2層からなり, 周囲からの流入による堆積状況を示す自然堆積である。

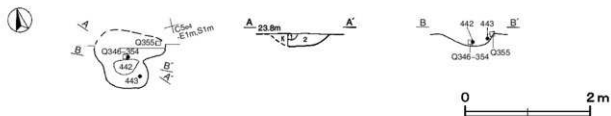
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

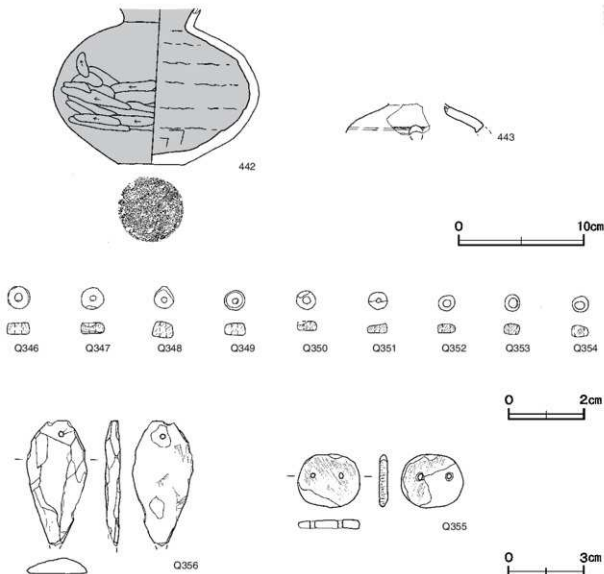
2 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器片66点(坏58, 高坏7, 壺1), 須恵器1点(甌), 石製品12点(白玉9, 双孔円板2, 石製模造品1)が出土している。Q355は覆土上層から, 443は覆土中層から, 442は中にQ346~Q354が入った状態で覆土下層から出土しており, 埋納されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第77図 第237号土坑実測図



第78図 第237号土坑出土遺物実測図

第237号土坑出土遺物観察表 (第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
442	土師器	壺	-	(12.5)	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ 輪積痕	覆土下層	80%
443	須恵器	甃	-	(2.3)	-	長石・黒色粒子	灰	良好	体部中位一条の沈線	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q346	白玉	0.60	0.30	0.20	0.18	滑石	円筒状	両面研磨 一方方向からの穿孔	覆土下層	PL27
Q347	白玉	0.55~0.60	0.30	0.20	0.15	滑石	一部欠損 円筒状	両面研磨 一方方向からの穿孔	覆土下層	PL27
Q348	白玉	0.55~0.60	0.45	0.20	0.17	滑石	円筒状	両面研磨 一方方向からの穿孔	覆土下層	PL27
Q349	白玉	0.50~0.55	0.30	0.15	0.12	滑石	円筒状	両面研磨 一方方向からの穿孔	覆土下層	PL27
Q350	白玉	0.50	0.25	0.20	0.08	滑石	一部欠損 円筒状	両面研磨 一方方向からの穿孔	覆土下層	PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q351	白玉	0.45~0.50	0.25	0.10	0.07	滑石	一部欠損 円筒状 両面研磨 一方からの穿孔	覆土下層	PL27
Q352	白玉	0.40~0.45	0.25	0.20	0.04	滑石	円筒状 両面研磨 一方からの穿孔	覆土下層	PL27
Q353	白玉	0.40~0.45	0.25	0.25	0.06	滑石	円筒状 両面研磨 一方からの穿孔	覆土下層	PL27
Q354	白玉	0.45	0.30	0.25	0.06	滑石	円筒状 両面研磨 一方からの穿孔	覆土下層	PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q355	反孔円板	2.45	2.1	0.36	2.86	滑石	一部欠損 全面研磨 一方からの穿孔 孔径0.2cm	覆土上層	PL27
Q356	石製模造品	(5.0)	2.4	6.0	(9.3)	滑石	刷形 一部欠損 両面研磨 一方からの穿孔 孔径0.2cm	覆土中層	PL27

第250号土坑 (第79図)

位置 調査区南部のC 515区、標高23.5mの平坦な台地上に位置している。

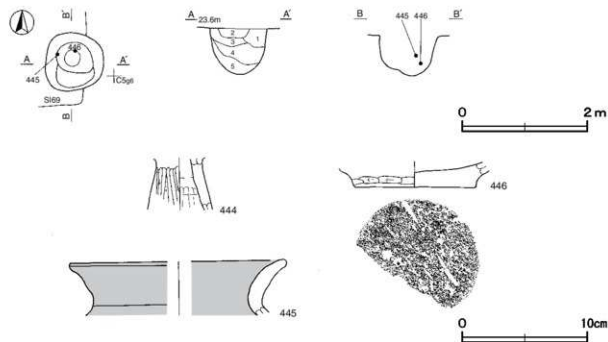
重複関係 第69号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.10m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-48°-Eである。深さは70cmで、底面は皿状で、壁は直立している。

覆土 5層からなり、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |



第79図 第250号土坑・出土遺物実測図

第290号土坑 (第81図)

位置 調査区南西部のC 4c7区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.36m、短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。深さは24cmで、底面は凹凸で、壁は緩斜して立ち上がっている。

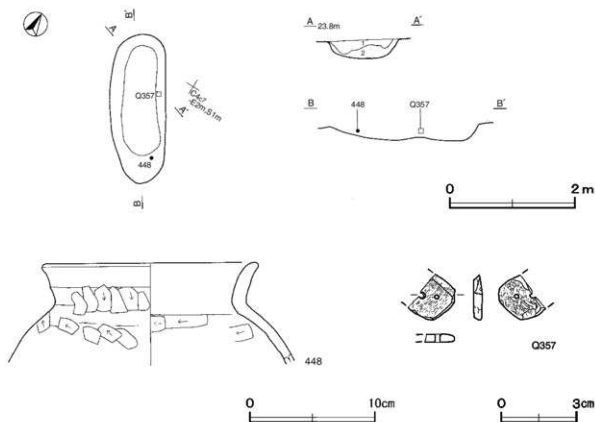
覆土 2層からなり、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片57点(高坏4, 堿類53), 石製品1点(双孔円板)が出土している。448・Q357は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第81図 第290号土坑・出土遺物実測図

第290号土坑出土遺物観察表 (第81図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
448	土師器	堿	16.8	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナテ 頸部から体部 外面へラ削り 体部内面へラ削り	覆土下層	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考
Q357	双孔円板	(1.8)	(1.9)	0.4	(1.4)	滑石	一部欠損	全面研磨	一方からの穿孔 孔径0.2cm	覆土下層	

第291号土坑 (第82図)

位置 調査区南東部のC 6 h2区、標高22.9mの平坦な台地上、第74号住居床面のほぼ中央部に位置している。

重複関係 第74号住居、第1号炭焼窯に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.05m、短径1.94mの円形で、長径方向はN-0°である。深さは26cmで、底面は平坦で、壁は緩斜して立ち上がっている。

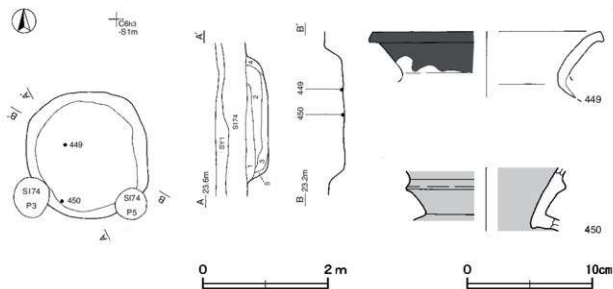
覆土 5層からなり、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・黒色粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片12点(坏8, 壳類4)が出土している。449・450はそれぞれ底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第82図 第291号土坑・出土遺物実測図

第291号土坑出土遺物観察表 (第82図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
449	土師器	羹	[18.0]	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	底面	外面塚付着
450	土師器	羹	-	(5.1)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	頸部内・外面横ナデ	底面	

表3 竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考 (時期)	新旧関係 (旧→新)	
								主柱穴	出入口	ビット	炉・竈					貯蔵穴
35	C5 ㊦	N-27°-W	方形	6.68×6.62	25~30	平坦	全周	4	1	1	伊2	1	自然 人為	土師器(坏・筒・苺・高坏・壺類)、土製高(土玉)、石製高(白土)	5世紀前半	本跡-S353
51	A4 ㊦	N-42°-W	方形	6.40×6.31	20~32	平坦	-	壁前 4 1	-	-	伊1	-	人為	土師器(坏・筒・壺・高坏・壺類)	5世紀前半	
53	C5 b6	N-6°-W	長方形	5.23×4.02	34	平坦	全周	4	1	1	伊1	1	人為	土師器(坏・高坏・壺類)	5世紀中葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)	新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	伊・重	行蔵穴				
55	B 5 f6	N-21°-W	方形	9.46×9.46	52	平坦	全周	4	1	1	炉1	—	人為	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、埴器器 (坏・甕)、石製品 (均玉)	5世紀中葉	SI66→本跡
56	B 5 g5	N-0°	方形	3.52×3.46	32~38	平坦	—	—	—	1	炉1	—	人為	土師器 (高坏・甕類、土器子ユ、土器)、石製品 (白土)	5世紀中葉	
57	B 5 h3	N-5°-W	長方形	4.22×3.00	14~24	平坦	—	—	1	2	炉1	1	人為	土師器 (坏・埴・高坏・甕類)、土製品 (半切石)	5世紀中葉	
58	B 5 j5	N-5°-E	[方形]	(6.80)×(6.80)	—	平坦	—	4	2	1	—	1	—	土師器 (坏)	古墳時代	
60	B 5 j0	N-15°-E	方形	3.80×3.72	32~40	平坦	全周	4	1	—	竈1	—	自然	土器器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、埴器器 (坏・甕)、土製品 (文土)	6世紀後半	本跡→SK20
62	C 5 f6	N-8°-W	方形	4.30×4.36	40~46	平坦	全周	4	1	1	竈1	—	人為	土師器 (坏・高坏・甕類)、石製品 (瓦片、内板)	6世紀後半	
63	C 5 i9	N-20°-W	方形	5.06×5.00	26~42	平坦	—	—	1	37	炉1	1	自然	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、土製品 (球状土器、砂器)	5世紀中葉	
64	C 6 e2	N-30°-W	方形	6.42×5.88	50~62	平坦	全周	4	1	5	炉1	—	人為	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、土製品 (段状土器)	5世紀中葉	本跡→SK201・254
65	C 6 f4	N-51°-E	方形	4.86×4.88	28~45	平坦	—	4	1	—	炉1	1	人為	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、土製品 (球状土器)	5世紀中葉	
69	C 5 i5	N-0°	方形	3.30×3.15	10~16	平坦	—	4	—	—	炉2	—	自然 人為	土師器 (坏・高坏・甕類)	5世紀中葉	本跡→SK250
70	C 6 j1	N-4°-W	方形	4.42×4.28	26~30	平坦	—	4	1	—	炉1	1	自然	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類、手控土器)	5世紀前半	本跡→SK251
72	C 5 h8	N-68°-E	長方形	3.10×2.65	16~25	平坦	—	—	—	1	炉1	—	自然	土師器 (坏・埴・高坏・甕類)	5世紀前半	
73	C 6 f1	N-21°-W	長方形	5.40×4.88	30~33	平坦	全周	4	1	—	炉1	1	自然	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、土製品 (土土・段状土器)	5世紀中葉	
74	C 6 b2	N-30°-W	方形	6.94×6.32	25~40	平坦	全周	4	1	—	竈1	1	自然	土師器 (坏・高坏・甕類)、土製品 (段状土器・文土、石製品 (須石)、赤漆)	6世紀後半	SK291→ 本跡→SY1
75	B 6 g1	N-22°-W	[方形、 長方形]	4.32×(3.34)	22~35	平坦	—	—	—	—	炉1	—	人為	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)	5世紀中葉	
76	A 4 j7	N-79°-W	長方形	3.31×2.86	10~15	平坦	—	—	—	—	炉2	—	自然	土師器 (坏・高坏・甕類)	5世紀中葉	
77	B 4 a5	N-37°-W	方形	7.76×7.36	25~38	平坦	全周	4	1	2	炉2	1	自然	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類、埴器器 (坏・甕)、土製品 (瓦片、瓦、石製品 (瓦片、石製品 (文土))	5世紀中葉	
78	B 4 e6	N-68°-E	長方形	5.36×3.82	42~54	平坦	全周	6	1	—	炉2	1	自然 人為	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)	5世紀中葉	
79	C 5 g1	N-29°-W	方形	9.94×9.92	43~51	平坦	全周	6	1	—	炉1	1	自然	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、埴器器 (坏・甕)、土製品 (土土)	5世紀後半	
80	B 4 j8	N-55°-W	方形	7.55×7.55	20~28	平坦	ほぼ 全周	4	1	—	炉3	1	自然	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)	5世紀前半	
81	C 4 d8	N-28°-W	長方形	5.88×5.32	46~50	平坦	一部	2	1	—	竈1	—	自然	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、土製品 (文土)	6世紀中葉	SI82→本跡
82	C 4 e7	N-18°-W	長方形	5.86×5.10	20~26	平坦	—	4	1	—	炉2	1	人為	土師器 (坏・埴・埴・高坏・甕類)、石器 (磨石)、石製品 (白土)	5世紀後半	本跡→SI83

表4 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)	新旧関係 (旧→新)
				距離/埋深 (m)	深さ (cm)						
237	C 5 e3	N-75°-W	(不定形)	1.08×(0.68)	20	緩斜	皿状	自然	土師器 (坏・高坏・甕)、埴器器 (甕)、石製品 (白土・瓦片、内板)、石製品 (造品)	5世紀中葉	
250	C 5 i5	N-48°-E	楕円形	1.10×1.00	70	直立	皿状	人為	土師器 (坏・高坏・甕類)	5世紀中葉	SI69→本跡
266	B 4 j6	N-40°-W	楕円形	1.28×1.04	34	外傾	平坦	自然	土師器 (高坏・甕類)	5世紀中葉	
290	C 4 c7	N-31°-W	楕円形	2.36×0.88	24	緩斜	凹凸	人為	土師器 (高坏・甕類)、石製品 (瓦片、内板)	5世紀中葉	
291	C 6 h2	N-0°	円形	2.05×1.94	26	緩斜	平坦	人為	土師器 (坏・甕類)	5世紀中葉	本跡→SI74 →SY1

3 近世の遺構と遺物

近世の遺構では、炭焼窯跡1基が確認されている。

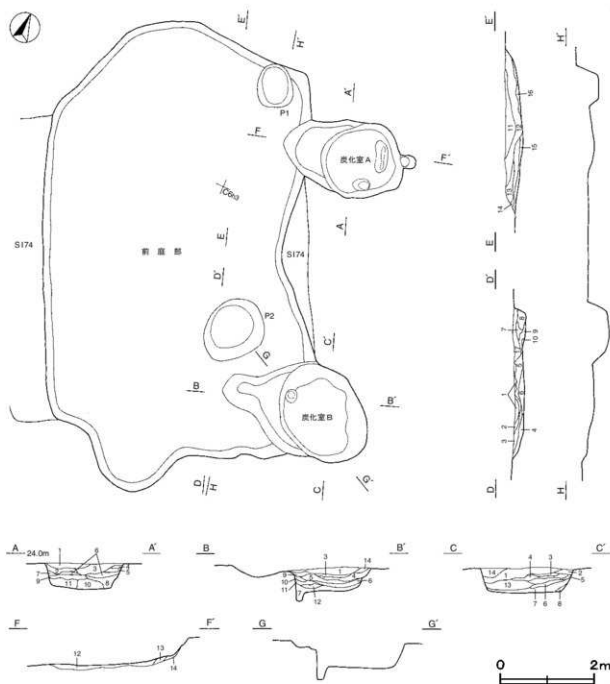
炭焼窯跡

第1号炭焼窯跡（第83・84頁）

位置 調査区南東部のC 6 g2区、標高23.6mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第291号土坑、第74号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸10.04m、短軸7.84mの不定形で、長軸方向はN-20°-Wである。



第83図 第1号炭焼窯跡実測図

前庭部 長軸10.04m, 短軸5.78mほどの不定形である。底面は平坦で、炭化室A・Bの北西部にそれぞれP1・P2を確認している。

炭化室A 長径2.82m, 短径1.64mほどの楕円形で、遺存する壁高は34cmである。長径方向はN-75°-Eである。焚口部付近の窯の底面は火により赤変硬化している。

炭化室B 長径3.22m, 短径2.02mの楕円形で、壁高は52cmである。長径方向はN-89°-Wである。底面から壁面は火により赤変硬化している。

煙道部 炭化室奥壁中央部に位置している。

ピット 2か所。性格については不明である。

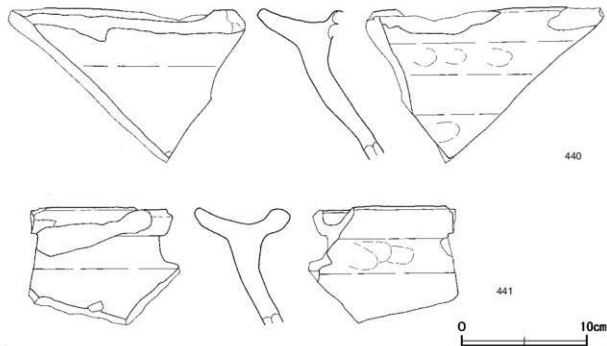
炭化室覆土 炭化室A・Bとも14層からなる。どちらも不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

炭化室A土層解説

1 黒褐色	炭化物・焼土粒子中量	8 明赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子・白粘土粒子少量
2 黒褐色	焼土ブロック・炭化物中量	9 明赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, 白粘土粒子微量
3 褐色	焼土ブロック・炭化物・ロームブロック少量	10 明赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化物中量, 白粘土粒子少量
4 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量	11 赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化物中量, 白粘土粒子微量
5 赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化物少量, ローム粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量
6 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量	13 黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量
7 黒褐色	炭化物中量, 焼土ブロック少量	14 極暗赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量

炭化室B土層解説

1 赤色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量	8 赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
2 赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9 赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 赤色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック多量, ローム粒子微量	10 にふい赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子微量
4 赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量	11 にふい赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5 赤色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量	12 暗赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量
6 赤色	ロームブロック多量, 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量	13 赤色	焼土ブロック・炭化物多量, 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子微量
7 赤色	焼土ブロック多量, 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量	14 暗赤色	焼土粒子多量, 炭化物・砂質粘土粒子・黒色粒子少量



第84図 第1号炭焼窯跡出土遺物実測図

前庭部土層解説

1 黒褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量	10 極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
2 赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ロームブロック・小礫微量	11 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
3 黄褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
4 黒色	炭化粒子多量、砂質粘土粒子少量	13 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量
5 黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、炭化物微量
6 オリーブ褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量	15 赤色	焼土粒子多量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量
7 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	16 赤色	焼土粒子多量、焼土粒子微量
8 赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子微量	17 赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量
9 オリーブ褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量		

遺物出土状況 陶器3点(常滑)、自然石55点、瓦片36点が出土している。自然石、瓦片は室の構築材である。また、混入した土師器片21点も出土している。440・441は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から18世紀以降と考えられる。

第1号炭焼窯跡出土遺物観察表(第84図)

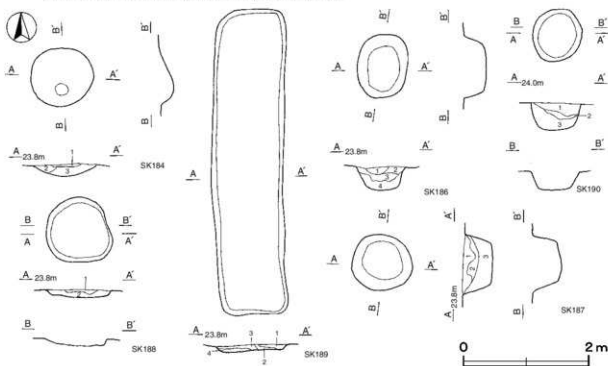
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
440	常滑	壺	-	(11.8)	-	長石・石英	明赤褐色	焼締	ロクロ成形 指頭圧痕	口縁部断面Y字状 内面	覆土中	自然軸
441	常滑	壺	-	(9.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	焼締	ロクロ成形 指頭圧痕	口縁部断面Y字状 内面	覆土中	自然軸

4 その他の遺構と遺物

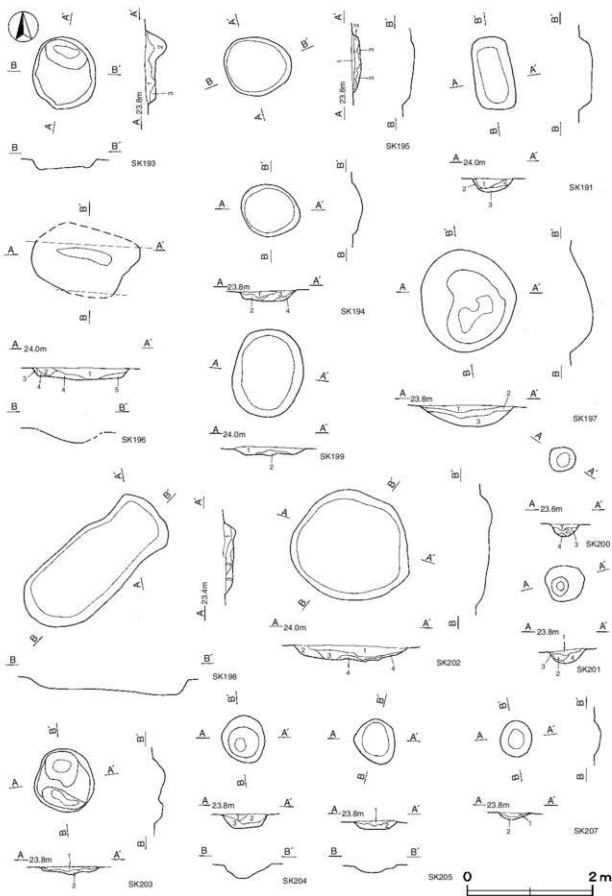
今回の調査で時期や性格が明確でない土坑100基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑(第85～92図)

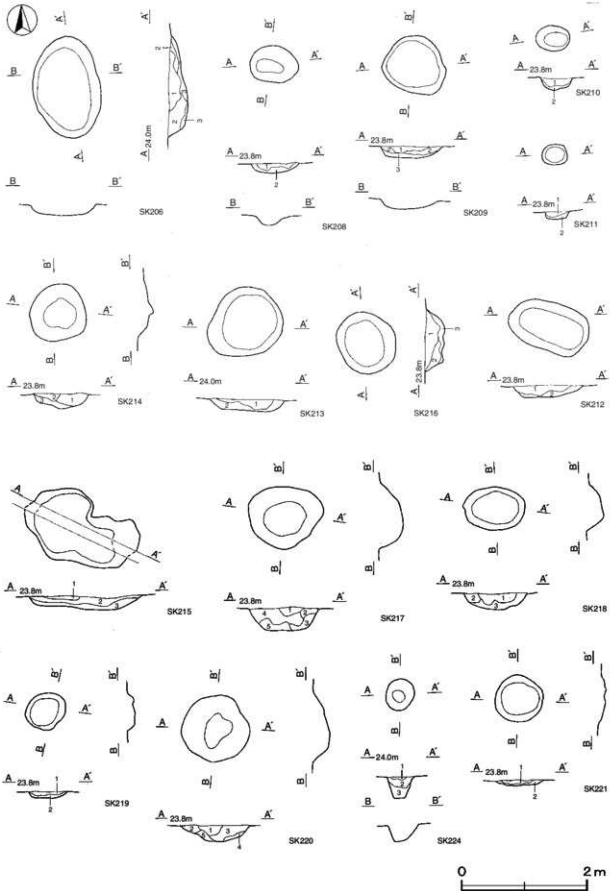
以下、確認された遺構の実測図と土層解説を記載する。



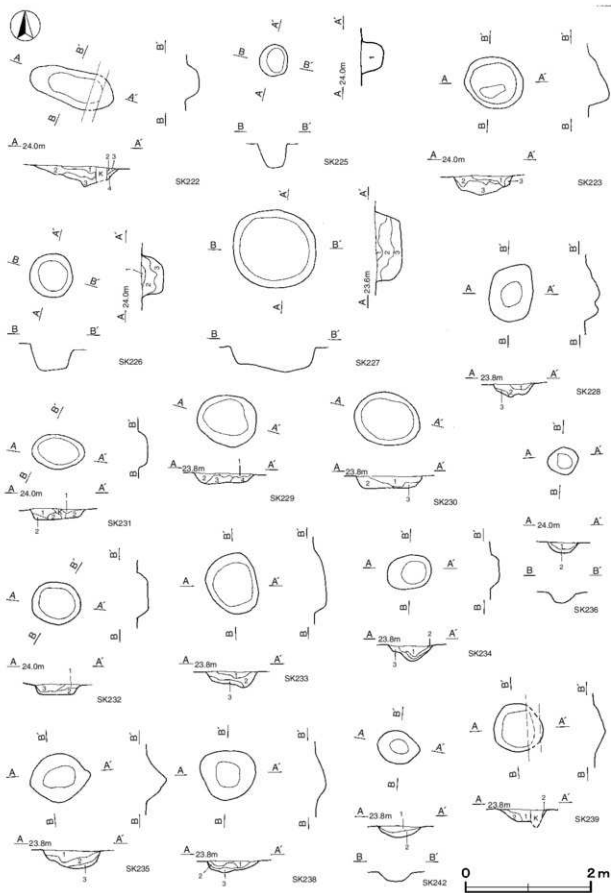
第85図 その他の土坑実測図(1)



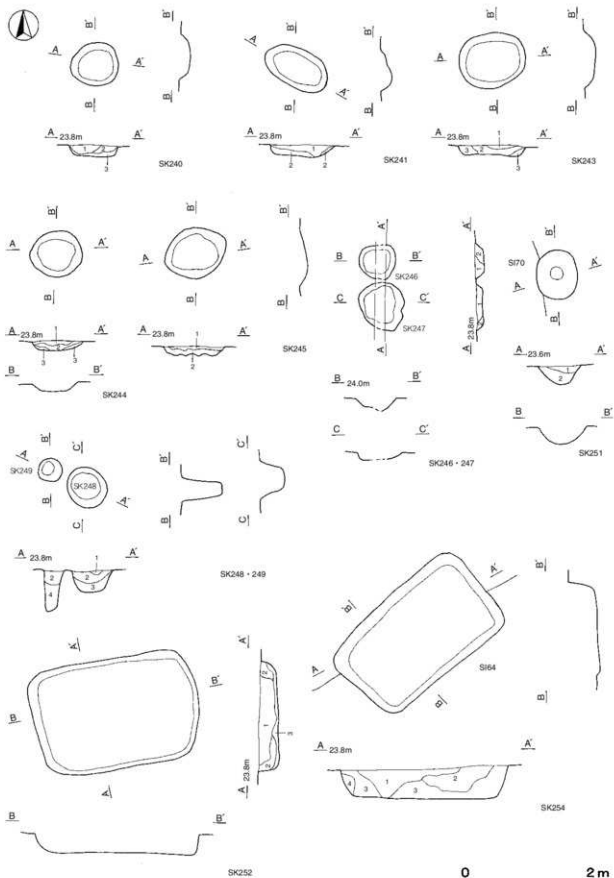
第86図 その他の土坑実測図 (2)



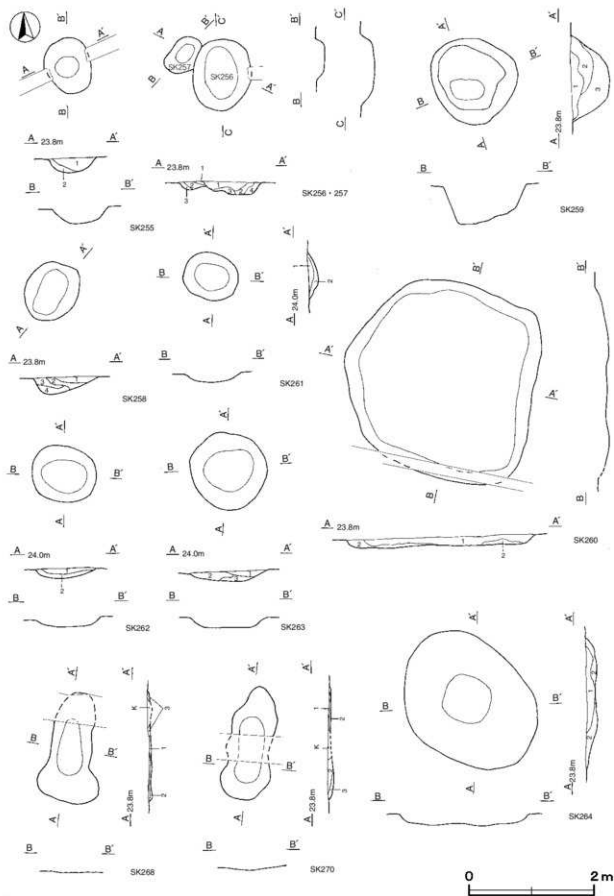
第87図 その他の土坑実測図 (3)



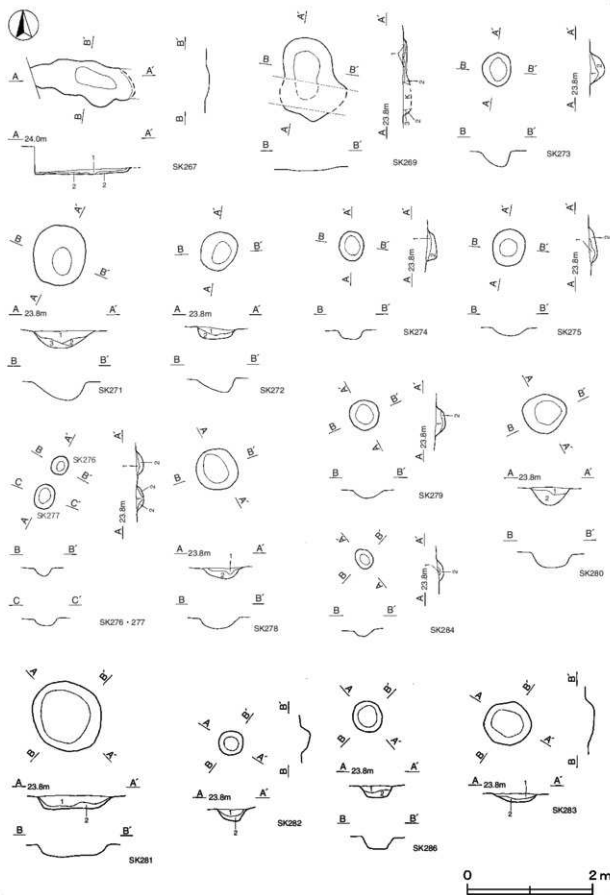
第88図 その他の土坑実測図(4)



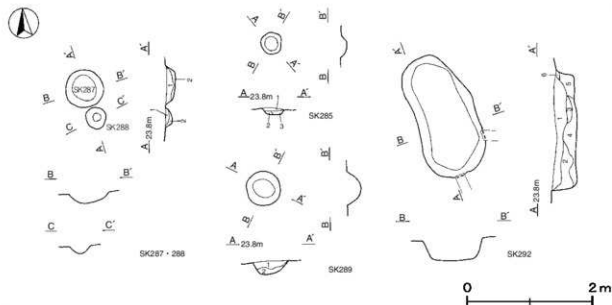
第89図 その他の土坑実測図 (5)



第90図 その他の土坑実測図(6)



第91図 その他の土坑実測図 (7)



第92図 その他の土坑実測図 (8)

第184号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子中量

第186号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第187号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第188号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第189号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第190号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第191号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第193号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第194号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第195号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第196号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第197号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第198号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第199号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック中量

第200号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第201号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第202号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第203号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック中量

第204号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第205号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第206号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第207号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第208号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第209号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第210号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第211号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第212号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第213号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第214号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第215号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第216号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第217号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 棕暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第218号土坑土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第219号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第220号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第221号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第222号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第223号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 棕暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第224号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 棕暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第225号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第226号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第227号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第228号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第229号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第230号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第231号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第232号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 棕暗褐色 ロームブロック微量

第233号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第234号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第235号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第236号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第238号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

第239号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第240号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

第241号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第242号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第243号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第244号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第245号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第246号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第247号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第248・249号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第251号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第252号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、黒色粒子少量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

第254号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第255号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第256号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第257号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第258号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第259号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第260号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・黒色粒子中量
- 2 明褐色 ローム粒子少量、黒色粒子微量

第261号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第262号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第263号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量、黒色粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、黒色粒子微量

第264号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、黒色粒子微量

第267号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物多量、黒色粒子中量、焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子少量

第268号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物多量、焼土粒子・黒色粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、黒色粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第269号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物多量、焼土粒子・黒色粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、黒色粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第270号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物多量、焼土粒子・黒色粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、黒色粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第271号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、黒色粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量、黒色粒子微量

第272号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第273号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第274号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第275号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第276号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第277号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第278号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第279号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第280号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第281号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第282号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第283号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第284号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第285号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第286号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第287号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第288号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第289号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 明褐色 ローム粒子中量

第292号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・黒色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 明褐色 ロームブロック少量
- 5 明褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・黒色粒子微量

表5 その他の土坑一覧表

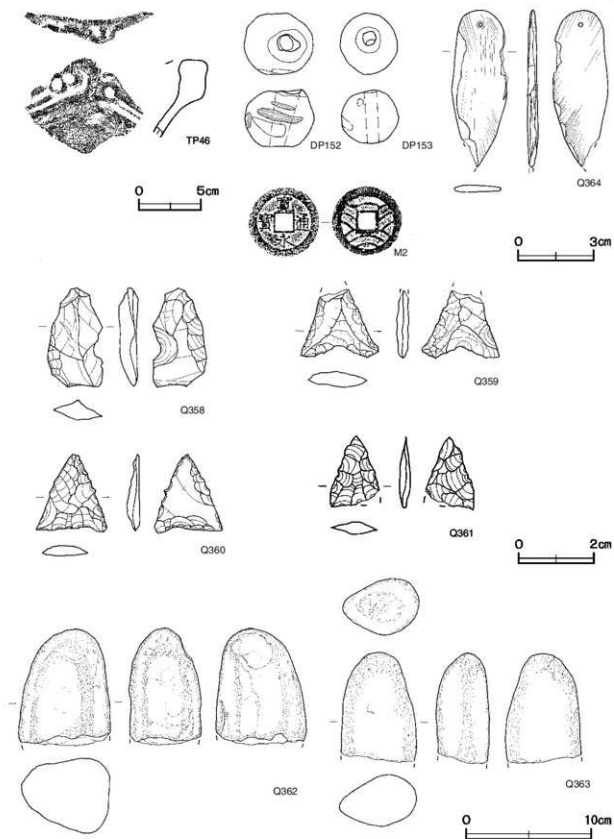
番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ(cm)					
184	B 5 c4	N-48°-W	円形	0.98×0.96	19	緩斜	皿状	人為	土師器片(坏・甕類)	
186	A 5 j7	N-8°-E	楕円形	1.00×0.78	40	外傾	平坦	自然		
187	B 5 g1	N-38°-W	円形	0.98×0.96	46	外傾	平坦	人為		
188	B 5 f2	N-60°-W	不整形	1.12×1.08	10	緩斜	平坦	自然		
189	B 5 d4	N-0°	長方形	4.82×1.10	8	外傾	平坦	人為	土師器片(甕類)	S168→本跡
190	B 5 g1	N-18°-E	円形	0.88×0.80	39	垂直 外傾	平坦	自然		
191	B 5 h3	N-7°-W	不整形 長方形	1.12×0.62	21	外傾	皿状	自然		
193	B 5 i3	N-26°-W	不整形	1.12×1.03	30	外傾	平坦 皿状	人為		
194	B 5 h2	N-60°-W	楕円形	0.95×0.81	17	外傾	皿状	人為		
195	B 5 e3	N-58°-W	円形	1.04×0.96	14	外傾	平坦	人為	土師器片(坏)	
196	B 5 e3	N-78°-E	[不定形]	1.84×[1.12]	20	外傾	平坦 皿状	人為	土師器片(坏)	
197	B 5 b4	N-42°-W	円形	1.58×1.48	32	緩斜	皿状	自然		
198	D 5 a8	N-49°-E	楕長方形	2.60×1.06	24	緩斜	平坦	人為		S135→本跡
199	B 5 a1	N-9°-E	楕円形	1.38×1.09	11	緩斜	凹凸	人為	土師器片(甕類)	
200	B 5 j0	N-0°	円形	0.43×0.40	18	外傾	皿状	人為	土師器片(坏・甕類)	S160→本跡
201	C 6 c3	N-76°-E	楕円形	0.60×0.48	10	緩斜	皿状	人為		S164→本跡
202	B 5 i2	N-65°-E	不整形	1.84×1.80	20	緩斜	凹凸	人為		
203	B 5 i1	N-6°-W	楕円形	1.02×0.90	20	緩斜	凹凸	自然	土師器片(甕類)	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
204	B 5 j1	N-28°-W	楕円形	0.75×0.66	22	外傾	皿状	人為		
205	B 5 j1	N-25°-W	不定形	0.70×0.69	11	外傾	皿状	自然		
206	B 5 j1	N-6°-W	楕円形	1.60×1.08	30	外傾 縦斜	皿状	自然	土師器片(甕類)	
207	B 5 j1	N-18°-E	楕円形	0.58×0.50	10	縦斜	皿状	自然		
208	B 4 j0	N-68°-W	楕円形	0.72×0.56	14	縦斜	皿状	自然		
209	B 4 j0	N-35°-W	楕円形	1.02×0.92	15	縦斜	皿状	人為		
210	C 5 a1	N-66°-W	楕円形	0.53×0.42	19	外傾	皿状	自然		
211	C 4 a0	N-34°-E	楕円形	0.40×0.36	12	垂直	平坦	自然	土師器片(甕類)	
212	C 5 a2	N-70°-W	楕円形	1.25×0.72	18	縦斜	皿状	自然		
213	C 5 a2	N-41°-E	不定形	1.13×1.08	17	外傾	平坦	自然		
214	C 5 a3	N-10°-E	円形	0.98×0.90	25	外傾	凹凸	人為		
215	C 5 a4	N-65°-W	不定形	1.80×1.08	17	外傾	平坦	人為	土師器片(環・甕類)	
216	C 5 a2	N-46°-W	円形	0.97×0.90	30	外傾	凹凸	人為		
217	C 5 c2	N-85°-E	不定形	1.19×1.00	36	縦斜	皿状	人為	土師器片(環・甕類)	
218	C 5 c1	N-89°-E	不定形	0.96×0.68	26	縦斜	皿状	人為	土師器片(環)	
219	C 5 b1	N-51°-E	不定形	0.64×0.56	12	縦斜	凹凸	人為		
220	C 5 c1	N-18°-E	不定形	1.06×1.06	25	縦斜	皿状	人為	土師器片(環・甕類)	
221	C 4 c0	N-68°-W	円形	0.72×0.71	10	縦斜	凹凸	自然		
222	B 5 b2	N-73°-W	楕円形	1.65×0.58	19	縦斜	皿状	人為		
223	A 4 i0	N-71°-W	楕円形	0.92×0.81	29	外傾 縦斜	凹凸	人為		
224	A 4 i0	N-20°-E	楕円形	0.49×0.42	26	縦斜	皿状	人為		
225	A 4 j9	N-12°-E	楕円形	0.50×0.43	39	外傾	皿状	人為		
226	A 4 i9	N-50°-W	円形	0.68	38	外傾	平坦	人為		
227	C 5 j5	N-73°-W	楕円形	1.34×1.21	40	外傾	平坦	人為	土師器片(甕類)	
228	C 5 a3	N-11°-E	楕円形	0.90×0.68	22	縦斜	凹凸	人為		
229	C 5 b3	N-89°-E	不定形	0.92×0.78	13	縦斜	平坦	人為		
230	C 5 a2	N-75°-W	楕円形	1.04×0.82	16	縦斜	平坦	人為		
231	C 5 b3	N-77°-W	楕円形	0.81×0.55	14	外傾 縦斜	平坦	人為		
232	C 5 b2	N-70°-W	楕円形	0.76×0.56	16	縦斜	平坦	人為		
233	C 5 d2	N-25°-W	楕円形	0.94×0.79	18	縦斜	平坦	人為		
234	C 5 d1	N-78°-E	楕円形	0.70×0.52	14	縦斜	平坦	人為		
235	C 5 e2	N-43°-E	不定形	0.80×0.73	24	縦斜	皿状	人為		
236	C 5 b4	N-41°-E	楕円形	0.44×0.40	16	縦斜	皿状	人為		
238	C 5 e3	N-65°-E	楕円形	0.82×0.80	14	縦斜	皿状	人為		
239	C 5 e2	N-4°-W	不定形	0.76×0.76	18	縦斜	凹凸	人為		
240	C 5 e2	N-84°-W	不定形	0.74×0.70	16	縦斜	平坦	人為		
241	C 5 f3	N-59°-W	楕円形	1.06×0.56	16	外傾	平坦	人為		
242	C 5 f3	N-81°-W	不定形	0.68×0.52	12	縦斜	平坦	人為		
243	C 5 f3	N-1°-W	楕円形	1.04×0.88	16	縦斜	平坦	人為	土師器片(甕類)	
244	C 5 f2	N-70°-E	楕円形	0.80×0.72	14	縦斜	皿状	自然		
245	C 5 f2	N-66°-E	不定形	1.00×0.80	16	縦斜	皿状	人為	土師器片(甕類)	
246	C 5 c3	N-73°-W	不定形	0.58×0.52	16	縦斜	平坦	人為		
247	C 5 d3	N-1°-W	不定形	0.72×0.72	12	縦斜	平坦	人為		
248	A 5 j4	N-39°-W	楕円形	0.66×0.58	66	直立	皿状	自然	土師器片(環・甕類)	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
249	A 5 j4	N-20°-E	円形	0.38	36	外傾	皿状	自然		
251	C 6 j2	N-2°-E	楕円形	0.76×0.64	26	緩斜	皿状	人為		S170→本跡
252	B 5 i8	N-80°-E	楕円長方形	2.62×1.76	28	外傾	平坦	人為	土師器片(甕類)	
254	C 6 c1	N-50°-E	楕円長方形	2.62×1.54	46	緩斜	平坦	人為	土師器片(坏・甕類)	S164→本跡
255	B 5 h0	N-23°-W	不整形円形	0.88×0.72	24	緩斜	皿状	人為		
256	C 6 e1	N-2°-W	楕円形	1.14×0.94	24	緩斜	皿状	人為		SK257→本跡
257	C 6 e1	N-44°-E	[楕円形]	0.66×(0.48)	14	緩斜	平坦	自然		本跡→SK256
258	C 5 g9	N-24°-E	不整形円形	0.98×0.84	26	緩斜	皿状	人為		
259	B 4 f5	N-55°-W	楕円台形	1.40×1.32	52	外傾	皿状	人為		
260	B 4 h5	N-78°-W	楕円台形	3.08×3.04	14	緩斜	平坦	人為		
261	B 4 f3	N-70°-W	楕円形	0.88×0.74	14	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕類)	
262	B 4 f3	N-71°-W	楕円形	1.03×0.90	14	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕類)	
263	B 4 h7	N-48°-E	不整形円形	1.20×1.18	16	緩斜	平坦	人為		
264	B 4 i6	N-41°-W	楕円形	2.42×1.86	16	緩斜	凹凸	自然		
267	C 4 a6	N-7°-W	不定形	(1.44)×0.68	6	緩斜	平坦	人為		
268	C 4 a6	N-8°-E	不定形	1.75×0.96	4	緩斜	凹凸	人為		
269	C 4 d6	N-2°-W	不定形	1.26×0.80	22	緩斜	凹凸	人為		
270	C 4 b6	N-8°-E	不定形	1.82×0.71	9	外傾 緩斜	皿状	人為		
271	C 4 c7	N-2°-W	楕円形	0.96×0.82	28	緩斜	皿状	自然		
272	C 4 b7	N-27°-E	楕円形	0.62×0.55	20	外傾 緩斜	皿状	自然		
273	C 4 b7	N-0°	楕円形	0.52×0.46	24	外傾 緩斜	皿状	自然		
274	C 4 b7	N-15°-W	楕円形	0.48×0.39	14	外傾	平坦	自然		
275	C 4 b8	N-9°-E	楕円形	0.58×0.50	12	緩斜	皿状	自然		
276	C 4 b8	N-25°-E	楕円形	0.30×0.26	12	外傾 緩斜	皿状	自然		
277	C 4 b8	N-18°-E	楕円形	0.40×0.34	10	緩斜	平坦	自然		
278	C 4 b2	N-37°-W	円形	0.66×0.65	8	緩斜	平坦	自然		
279	C 4 b2	N-0°	円形	0.47	12	緩斜	皿状	人為		
280	C 4 b8	N-47°-E	円形	0.64×0.60	12	緩斜	皿状	自然		
281	C 4 c9	N-43°-W	楕円形	1.20×1.07	20	緩斜	平坦	人為	土師器片(坏・甕類)	
282	C 4 c9	N-0°	円形	0.40	15	外傾 緩斜	平坦	自然		
283	C 4 c9	N-0°	円形	0.70	12	緩斜	平坦	自然		
284	C 4 c8	N-40°-W	楕円形	0.32×0.24	10	緩斜	皿状	自然		
285	C 4 c8	N-26°-W	円形	0.32×0.31	9	緩斜	平坦	自然		
286	C 4 c8	N-4°-W	円形	0.50×0.46	19	外傾	平坦	自然		
287	C 4 c8	N-0°	円形	0.60	15	外傾 緩斜	平坦	自然		
288	C 4 c8	N-0°	円形	0.32×0.31	12	緩斜	皿状	自然		
289	C 4 c8	N-70°-W	円形	0.57×0.53	12	緩斜	皿状	人為		
292	C 4 f8	N-21°-W	不整形円形	1.96×0.96	34	外傾	平坦	人為	土師器片(埴・甕類)	

(2) 遺構外出土遺物 (第93図)

当遺跡から出土した遺構に伴わない遺物について、実測図及び出土遺物観察表に記載する。



第93図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP46	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英	明黄褐色	普通	液状口縁 棒状工具による沈線2条 口辺部に凹形貼付文 刺突文	S1-70 覆土中	PL25
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特徴		出土位置	備考	
DP152	球状土器	2.5~ 2.8	2.3	0.6~ 0.9	13.8	長石・石英	ナデ ヘツ削り 一方からの穿孔		D5 b8区 表土	PL25	
DP153	球状土器	2.3~ 2.4	2.1	0.45~ 0.50	10.6	長石・石英	ナデ 一方からの穿孔		B4 g7区 表土	PL25	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q358	二次加工 剥片	2.6	1.4	0.5	1.70	チャート	断面三角状の履長剥片 腹面中央部に腹方向の稜を持つ		C5 h4区 表土		
Q359	石鏃	(1.8)	2.1	0.3	(0.91)	安山岩	先端部欠損 凹基無茎鏃 両面潤離調整により三稜を有する		S1-35 覆土中	PL27	
Q360	石鏃	2.1	1.9	0.25	0.86	チャート	凹基無茎鏃 両面潤離調整により三稜を有する		S1-77 覆土中	PL27	
Q361	石鏃	(1.9)	(1.3)	0.3	(0.32)	黒曜石	一部欠損 凹基無茎鏃 両面潤離調整により三稜を有する		C5 f1区 表土	神津島産 黒曜石 PL27	
Q362	磨石	(9.3)	7.3	5.8	(533.0)	花崗岩	下部欠損 側面に敲打痕		B5 f5区 表土		
Q363	磨石	(8.75)	6.1	4.1	(311.0)	砂岩	下部欠損 全面に敲打痕		B4 c8区 表土	PL24	
Q364	石製 横道具	(6.8)	(2.2)	0.3	(7.4)	滑石	剣形 一部欠損 両面研磨 一方からの穿孔 孔径0.15cm		C5 f8区 表土	PL27	
番号	銭名	孔径	孔幅	厚さ	重量	材質	初铸年	特徴	出土位置	備考	
M2	寛永通寶	2.84	0.62	0.11	4.4	銅	1636	背面波紋文様	B5 a6区 表土	PL27	

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査では、縄文時代の堅穴住居跡7軒、陥し穴1基、土坑1基、古墳時代の堅穴住居跡25軒、土坑5基、近世の炭焼窯跡1基、その他の土坑100基を確認した。

縄文時代の堅穴住居跡は、中期1軒、後期2軒で、その他の4軒については、炉及びピットは確認できたものの、遺物が出土しなかったため時期については特定できなかった。縄文時代の堅穴住居跡7軒はすべて調査区の北東部に集中しているが、縄文土器片や石鏃などは北東部以外の遺構外からも数点確認されている。平成17年度の調査結果¹⁾(以下1区とする。)を考慮すると、当遺跡全体で縄文時代における痕跡が確認されたことになる。

古墳時代の西谷田川沿いには、中期から後期にかけて数多くの遺跡が確認されている。当遺跡においても、前回の調査区と合わせると、5世紀前葉から7世紀前葉にかけての集落が営まれていたことが判明している。特に今回の調査区では、5世紀前葉から6世紀前葉にかけての集落が確認され、堅穴住居跡25軒はすべてが中期と後期であり、なかでも中期の住居跡は20軒で80%を占めている。さらに、それら中期の住居跡は、半数11軒が焼失または焼失の可能性がある住居跡である。

近世では、炭焼窯跡1基が確認され、平地林における木炭生産が行われていたことを知ることができる。当節では、集落の変遷や住居の構造や役割、また、出土土器について若干の考察を加えてまとめとする。

2 集落の変遷について

(1) 縄文時代

1区では、早期の炉穴や後期前葉から晩期前葉にかけて断続的に集落が営まれていたことが報告されている。

今回の調査では、第52号住居跡、第185号土坑が中期後葉、第61・66号住居跡が後期後葉に位置付けられ、さらに生活の時期が広がったことになる。また、遺構外から出土した石鏃のなかに草創期の形状を示すもの(Q359)も確認され、縄文時代の全期にわたってこの地での生活の痕跡を確認できる。遺構のあり方を見ると、近隣の島名ツバタ遺跡、元宮本前山遺跡、および当遺跡の前回調査区では、西谷田川を望む台地縁辺部に位置していたが、今回の調査区は、縁辺部から100mほど東部へ入り込んだ区域に位置している。

(2) 古墳時代

1区では、遺構の変遷を第1期(5世紀前葉)・第2期(5世紀中葉・後葉)・第3期(6世紀前葉)・第4期(6世紀中葉)・第5期(6世紀後葉)・第6期(7世紀前葉)に分類¹⁾している。今回の調査区は1区の隣接部であるため、同様な基準で遺構の分類を行った。なお、第3期と第6期については、今回該当した住居跡がなかったため、それらについては省略した。

第1期（5世紀前葉）

第35・51・70・72・80号住居跡の5軒が該当する。

本期の集落は、大半の住居跡が南部に集中しており、第51号住居跡は、それらの集団から北西へ90mほど離れた所に位置している。また、第80号住居跡はその中間部に位置している。なお、第51・80号住居跡の位置は調査区北西部の端部に近く、さらに北部または西部に集団を構成する住居跡が存在していた可能性がある。規模については、第80号住居跡が大形住居、第35・51号住居跡が中型住居、第70・72号住居跡が小形住居である。²⁾

第2期（5世紀中葉・後葉）

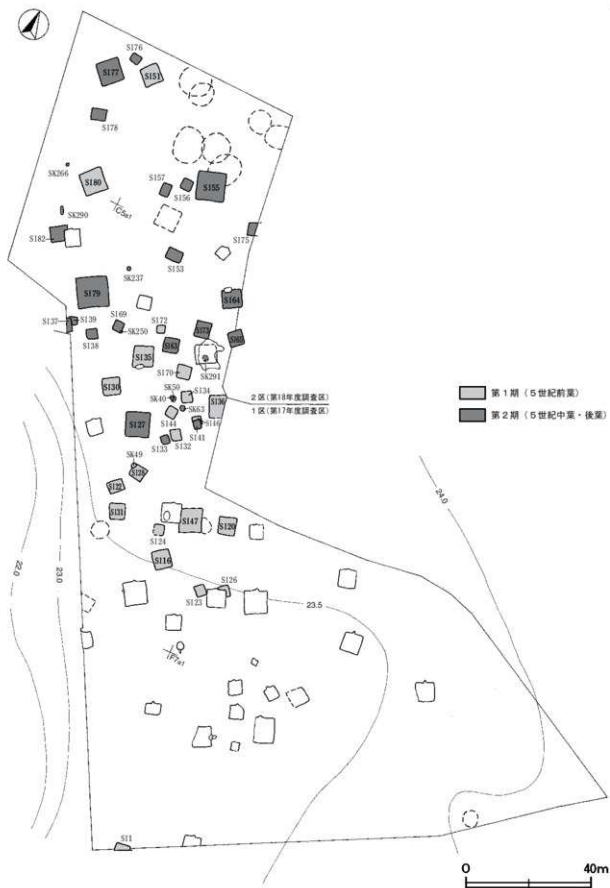
第53・55～57・63～65・69・73・75～79・82号住居跡の15軒、及び第237・250・266・290・291号土坑が該当し、今回調査した遺構の50%が本期に分類される。

本期の集落は、第55号住居跡を中心とした中央部、第63号住居跡を中心とした南東部、第79号住居跡を中心とした南西部、そして第77号住居跡を中心とした北西部の4集団に分けられる。規模については、第55・77・79号住居跡が大形住居、第53・63～65・73・78・82号住居跡が中型住居、第56・57・69・75・76号住居跡が小形住居である。

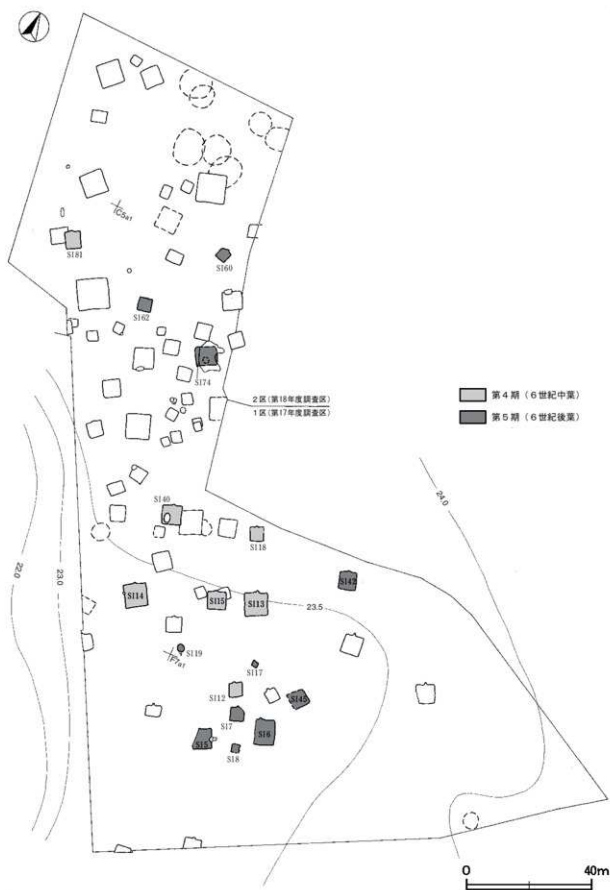
表6 第2期の住居跡一覧表

	番号	位置	主軸方向	平面形	果積 (m) (長軸×短軸)	面積 (㎡)	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	時期	備考
											主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
中央部	SI-55	B5f6	N-21°-W	方形	9.46×9.46	89.49	大形	52	平坦	全周	4	1	1	炉1	—	人為	5世紀中葉	焼失住居
	SI-56	B5g5	N-0°	方形	3.32×3.46	12.18	小形	32~38	平坦	—	—	—	1	炉1	—	人為	5世紀中葉	焼失住居
	SI-57	B5h3	N-5°-W	長方形	4.23×3.00	12.69	小形	14~24	平坦	—	—	1	2	炉1	1	人為	5世紀中葉	
	SI-75	B6g1	N-22°-W	[方形・長方形]	4.32×(3.24)	(14.00)	小形	22~35	平坦	—	—	1	—	炉1	—	人為	5世紀中葉	
南東部	SI-53	C5b6	N-6°-W	長方形	5.23×4.02	21.02	中形	34	平坦	全周	4	1	1	炉1	1	人為	5世紀中葉	
	SI-63	C5i9	N-20°-W	方形	5.06×5.00	25.30	中形	26~42	平坦	—	—	1	37	炉1	1	自然 人為	5世紀中葉	焼失住居
	SI-64	C6c2	N-30°-W	方形	6.42×5.88	37.75	中形	30~62	平坦	全周	4	1	5	炉1	—	人為	5世紀中葉	焼失住居
	SI-65	C6f4	N-51°-E	方形	4.86×4.68	22.74	中形	28~45	平坦	—	4	1	—	炉1	1	人為	5世紀中葉	焼失住居
	SI-69	C5i5	N-0°	方形	3.30×3.15	10.40	小形	10~16	平坦	—	4	—	—	炉2	—	自然 人為	5世紀中葉	
SI-73	C6f1	N-21°-W	長方形	5.40×4.88	26.35	中形	30~33	平坦	全周	4	1	—	炉1	1	自然	5世紀中葉		
南西部	SI-79	C5g1	N-29°-W	方形	9.94×9.92	98.60	大形	43~51	平坦	全周	6	1	—	炉1	1	自然	5世紀後葉	焼失住居
	SI-82	C4e7	N-18°-W	長方形	5.86×5.10	29.89	中形	20~26	平坦	—	4	1	—	炉2	1	人為	5世紀後葉	
北西部	SI-76	A4j7	N-79°-W	長方形	3.31×2.86	9.47	小形	10~15	平坦	—	—	—	—	炉2	—	自然	5世紀中葉	
	SI-77	B4a5	N-37°-W	方形	7.26×7.56	56.67	大形	25~38	平坦	全周	4	1	2	炉2	1	自然	5世紀中葉	焼失住居
	SI-78	B4e6	N-68°-E	長方形	5.26×3.82	20.48	中形	42~54	平坦	全周	6	1	—	炉2	1	自然 人為	5世紀中葉	

表6からもわかるように、南西部に位置する第79・82号住居跡を除くすべてが5世紀中葉と確認された。5世紀中葉には、大きく3集団（中央部・南東部・北西部）が存在していたと考えられる。また、それぞれの集団ごとに大形の住居が位置し（南東部は中形の住居が主体）、各集団のなかでの中心的な存在であったことが推測できる。



第94図 古墳時代集落変遷図 (1)



第95図 古墳時代集落変遷図 (2)

第1期から第2期への変遷を見ると、集落が北部へ少し移動した傾向がある。また、主軸方向を見ると、距離をおいた位置であっても大形住居を中心として同一の集団を形成していたことも推測できる。さらに、第1期の第80号住居が第2期の第55・79号住居へ集団を広げていった可能性も考えられる。

第3期（6世紀前葉）

今回は該当遺構なし。

第4期（6世紀中葉）

第81号住居跡の1軒のみが該当する。

北西部に位置しており、さらに西部及び南西部に本期の住居跡が拡大する可能性が考えられる。規模は中形である。

第5期（6世紀後葉）

第60・62・74号住居跡の3軒が該当する。

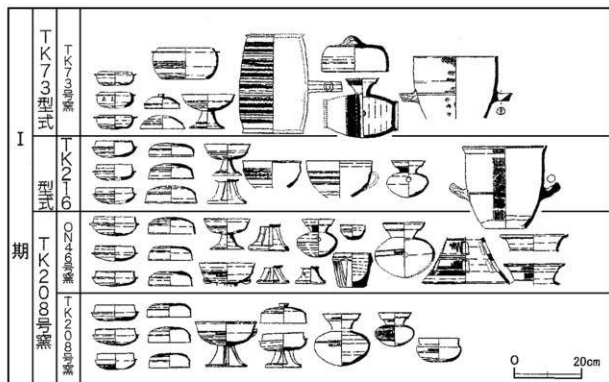
北東部に位置しており、一つの集団を形成していたと推定される。大形住居はなく、第74号住居跡が中形住居、第60・62号住居跡は小形住居である。

第6期（7世紀前葉）

今回は該当遺構なし。

3 初期須恵器について

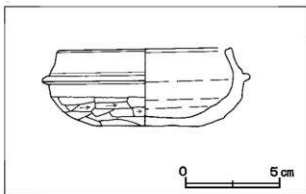
第55号住居跡のP6内（深さ97cmの底面）から完形の初期須恵器杯（P369）が出土した。口径9.1cm、器高4.1cmで、口縁部の立ち上がりはやや高く、内傾して端部に至り、端部の中央部はやや浅くくぼんでいる。



第96図 田辺氏による陶邑須恵器編年（註3文献より転載 I期一部抜粋）

底部は比較的平底に近く、3分の2前後に回転ヘラ削り調整が認められ、他は回転ナデ調整である。焼成は良好、堅緻であり、胎土は粗で白色砂粒を含んでいる。これらの特徴は、田辺昭三氏の陶呂須恵器編年³¹によると1-2段階(TK216型式)と想定される。他の出土土器や炭化材の年代測定からもその時期の正合性が認められる。

この資料の出土は、5世紀中葉から陶呂産の須恵器が流通していたことが確認できる。

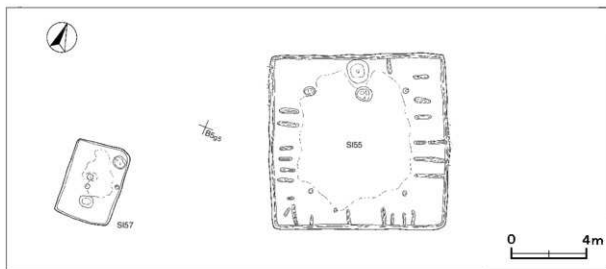


第97図 須恵器杯 (P369) 実測図

4 住居内の空間利用について

第55号住居跡(5世紀中葉)では、ほぼ等間隔に壁から中央に向かって幅10~26cm、長さ160cm、深さ6cmほどの根太(床板下に敷いた基礎材)を置いたと考えられる浅い溝を22条確認した。炭化材(8~17cmの丸材)がその溝上に遺存していた。

梁・桁・棟材が燃焼により床面に落下した場合、中央から放射状に炭化材が焼土とともにまたは焼土の上に検出されることが多い³¹。しかし、本跡の場合は、床に浅い溝状の掘り込みが確認され、その中に炭化材が埋め込まれた形で検出されたこと、炭化材は放射状ではなく壁から中央に向かってほぼ等間隔に複数検出されたことから、間仕切りの性格とは確実に異なると考えられ、根太の痕跡であると判断した。根太の用途であるが、根太の上に低い床を張り、寝所や居間など多目的な生活空間として使用されていた可能性が高い。類例としては群馬県黒井峯・西組遺跡³¹などが知られている。



第98図 第55・57号住居跡の位置関係

中央部に炉が検出された第55号住居跡が、単に居宅であったと仮定した場合、それに伴う物置的な利用をうかがわせる住居跡が第57号住居跡である。第55号住居跡と第57号住居跡は共に前述の第2期に該当している。

第57号住居跡は、小形の住居跡でありながら、出土土器の総破片数は1,493点にも及んでいる。また、出入り口が第55号住居跡側に設置されていたり、甕を置いたと考えられるくぼみも2か所確認され、物置または厨房的な用途をもつ住居と推測できる。

5 小結

今回の調査で、前回調査した区域の北部の様相が明らかになった。前回の調査で出土した県内初の琴柱形石製品や、今回の調査で確認された第55号住居跡の根太構造や初期須恵器の出土などから、5世紀中葉を中心としてこの地に有力者が存在していた可能性がさらに強まった。そのような有力者が存在していたにもかかわらず、7世紀以降、この地における集落自体が衰退していったのは、どのような要因があるのであろうか。当遺跡のさらなる詳細な分析と近隣の遺跡や古墳の関連などを検討しながら究明していくことが今後の課題である。

註

- 1) 高野裕繁「下河原崎谷中台遺跡 高名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
- 2) 菊地芳朗「東北地方の古墳時代集落—その構造と特質」『考古学研究』第47巻4号 2001年3月
この中で、菊地芳朗氏は堅穴住居跡の面積50㎡以上を「大形住居」、20㎡未満を「小形住居」、その間を「中形住居」に分類している。
- 3) 田辺昭三「須恵器大成」角川書店 1981年7月
『年代のものさし—陶色の須恵器—』大阪府立近つ飛鳥博物館図録40 大阪府立近つ飛鳥博物館 2006年1月
- 4) 石守晃「復元住居を用いた焼失実験の成果について」『研究紀要12』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995年3月
- 5) 石井克己「古墳時代後期の集落跡—群馬県黒井兼・西組遺跡」『季刊考古学』第16号 雄山閣 1986年7月

第4章 下河原崎高山古墳群

第1節 遺跡の概要

下河原崎高山古墳群は、つくば市西部を南流する西谷田川左岸の標高22~24mの台地端部に立地し、17基から成るとされており、昭和57年の第1・2号墳調査時には、前方後円墳1基・方墳3基・円墳5基（現存5基確認）、3基削平のみが確認されている。今回報告するのは、第5号墳の形状及びその東側周溝の一部である。

今回の調査で確認された遺構は、古墳時代の前方後円墳1基、周溝の一部、その他の土坑21基である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に1箱出土しており、遺物は古墳築造以前の縄文時代と古墳時代のものである。主な遺物は、縄文土器片（深鉢）、土師器片（坏・甕類）などである。

第2節 基本層序

調査区の東部（C3e5区）にテストピットを設定し、第99図に示すような土層堆積の状況を確認した。土層は9層に細分され、観察結果は以下のとおりである。

第1層は、極暗褐色の耕作土層で、ローム粒子を微量含み、層厚は30~50cmである。

第2層は、暗褐色のソフトローム層で、層厚は11~28cmである。

第3層は、褐色のソフトローム層で、層厚は5~13cmである。

第4層は、にぶい褐色のハードローム層で、層厚は20~30cmである。第I黒色帯に対比される。

第5層は、暗褐色のハードローム層で、白色粒子・黒色粒子を極めて微量含み、粘性が強く、硬く締まっており、層厚は18~30cmである。

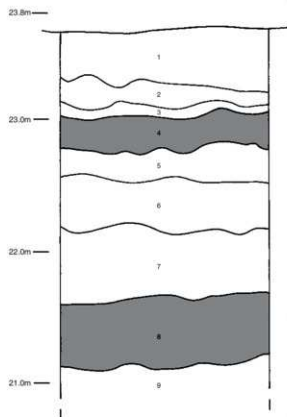
第6層は、褐色のハードローム層で、層厚は30~43cmである。白色粒子・ガラス質粒子・赤色粒子を微量含んでおり、始良Tn火山灰（AT）を含む層に対比される。

第7層は、褐色のハードローム層で、赤色粒子を微量含み、層厚は43~56cmである。

第8層は、暗褐色のハードローム層で、黒色粒子・赤色粒子・粘土粒子を微量含み、粘性・締まりとも強く、層厚は42~55cmである。第II黒色帯に対比される。

第9層は、オリーブ褐色のハードローム層で、明黄褐色の砂粒を少量含み、粘性・締まりとも特に強い。下部は未掘のため、本来の厚さは不明である。

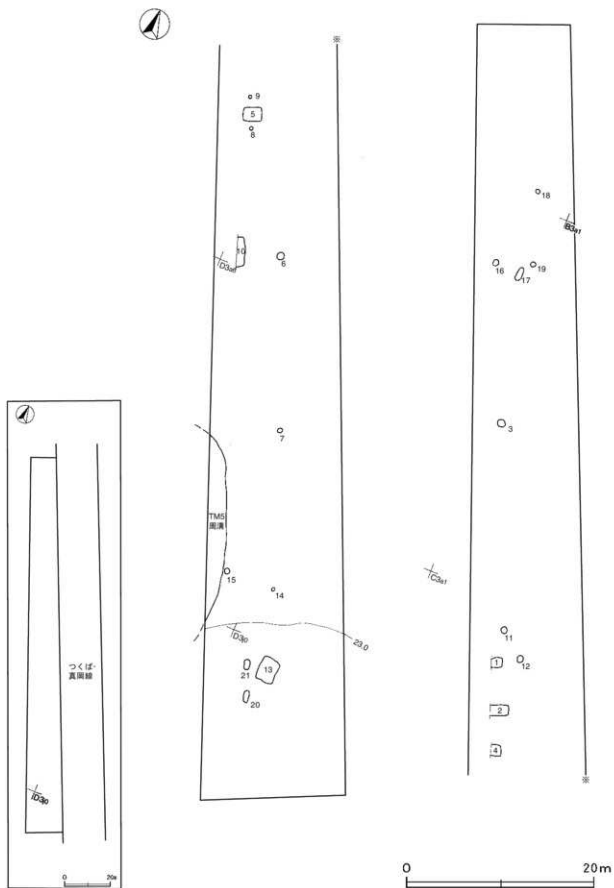
なお、周溝や土坑などの遺構は、第3層上面で確認した。



第99図 基本土層図



第100図 下河原崎高山古墳群調査区設定図



第101図 下河原崎高山古墳群遺構全体図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、第5号墳の周溝の一部を検出したが、調査区域外に延びているため、周溝全体の規模と形状を正確にとらえることはできなかった。また、第5号墳の墳丘部については、墳形の測量調査を実施した。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

古墳

第5号墳 (第102・103区)

位置 調査区西部のD3区、標高26mほどの台地の縁辺部に位置している。

確認状況 山林である。墳丘の高まりが確認でき、墳丘は場所により傾斜に違いがみられ、西側がやや急斜面になっている。

規模と形状 周溝外縁長約38m、墳丘長約32.5m、後円部の墳丘径約22mで、前方部の幅約19.5mで、ほとんどくびれない前方後円墳である。主軸方向は、N-104°-Eである。

墳丘 現丘の高さは約2.8mである。

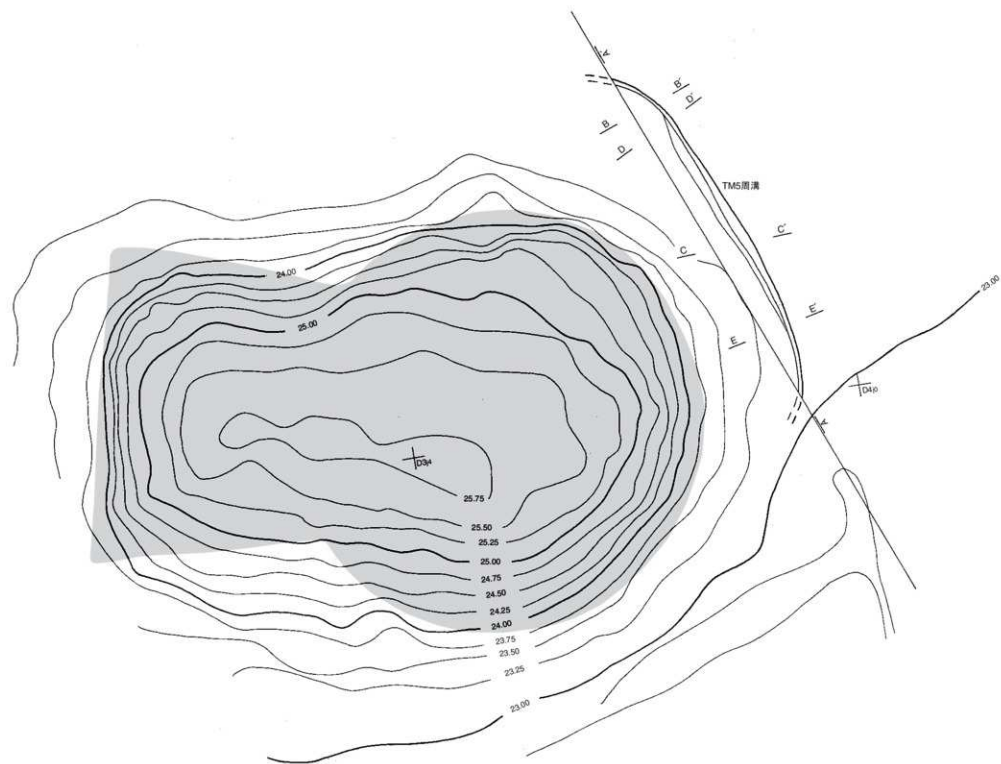
周溝 墳丘全体が調査区域外のため、後円部東側の周溝を調査した。規模は、上幅は1.7~2.5m、下幅1.3~1.6m、深さ0.3~0.6mである。断面は、確認した部分から逆台形状及びU字状であり、覆土13層の自然堆積である。

周溝土層解説

1 黒褐色	黒色粒子中量、ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
2 黒褐色	黒色粒子中量、ロームブロック微量	8 黒褐色	ロームブロック・黒色粒子少量
3 極暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子・黒色粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子中量、黒色粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、黒色粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	11 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量
		13 黒褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、炭化物・焼土粒子微量

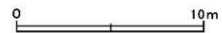
遺物 周溝部から、混入した縄文土器片3点(深鉢)が出土している。

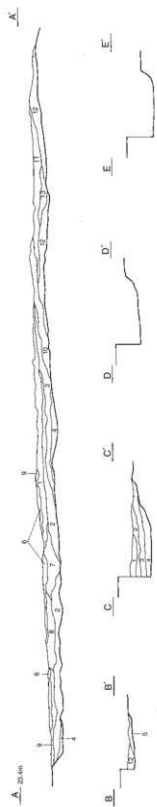
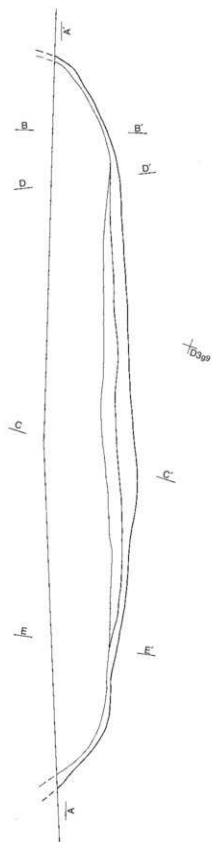
所見 時期は、前方部と後円部との間にくびれがほとんどない形状と埴輪が出土していないことから、古墳時代後期(7世紀初頭)と考えられる。



■ 推定される墳丘の形状

第102図 第5号墳測量図





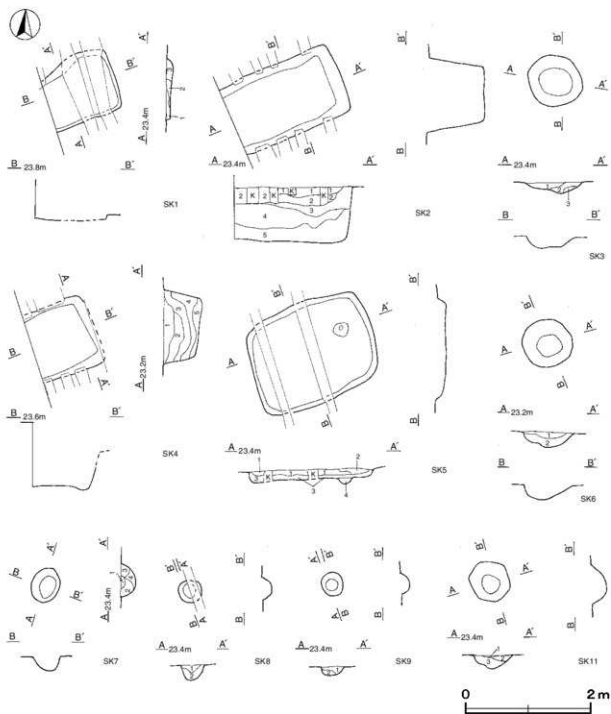
第103図 周溝実測図

2 その他の遺構

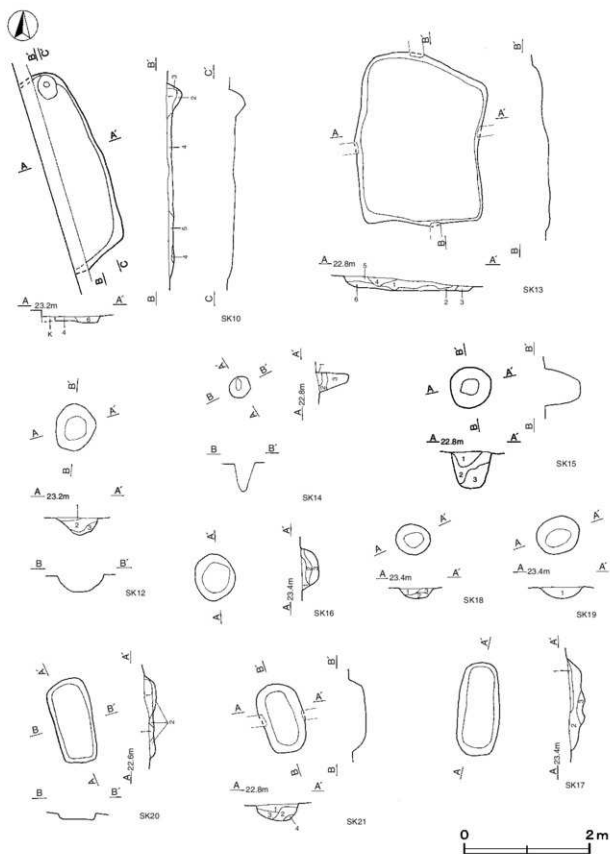
今回の調査で時期や性格が明確でない土坑21基を確認した。以下、遺構について記述する。

土坑（第104・105図）

以下、確認された遺構の実測図と土層解説を記載する。



第104図 土坑実測図 (1)



第105図 土坑実測図 (2)

第1号土坑土層解説

- 1 概暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 概暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 概暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第7号土坑土層解説

- 1 概暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、黒色粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第8号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第10号土坑土層解説

- 1 概暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子中量

第11号土坑土層解説

- 1 概暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 6 概暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第14号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 概暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 概暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 概暗褐色 ロームブロック少量

第17号土坑土層解説

- 1 概暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第19号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第20号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第21号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 概暗褐色 炭化物少量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

表7 土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	概 概		壁面	底面	覆土	出土遺物	新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
1	C 3 b3	N-66°-E	[長方形]	(1.14)×1.04	10	外傾	平坦	人為		
2	C 3 c3	N-66°-E	[長方形]	(1.88)×1.16	86	外傾	平坦	人為		
3	B 3 f1	N-32°-W	円形	0.82×0.80	18	縦斜	皿状	自然		
4	C 3 d4	N-22°-W	[長方形]	1.12×(1.00)	60	直立	平坦	人為		
5	C 3 g5	N-68°-E	長方形	2.02×1.60	26	外傾 縦斜	平坦	人為	土師器片(要類)	
6	C 3 j7	N-32°-W	円形	0.77×0.76	24	縦斜	皿状	人為		
7	D 3 d9	N-16°-E	楕円形	0.58×0.44	24	縦斜	皿状	人為	土師器片(要類)	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
8	C 3 g5	N-0°	円形	0.36	26	緩斜	皿状	人為		
9	C 3 f5	N-21°-W	円形	0.36×0.34	24	緩斜	皿状	人為		
10	C 3 j6	N-21°-W	[長方形]	3.06×(0.95)	12	外傾 緩斜	平坦	人為	土師器片(坏)	
11	C 3 a3	N-30°-W	楕円形	0.66×0.60	26	緩斜	皿状	人為		
12	C 3 b4	N-4°-E	楕円形	0.74×0.63	27	外傾 緩斜	皿状	人為		
13	D 4 j1	N-0°	不整形	2.68×1.98	17	緩斜	平坦	人為		
14	D 3 h0	N-40°-E	楕円形	0.34×0.30	45	外傾	皿状	人為		
15	D 3 h9	N-0°	円形	0.66	58	外傾	皿状	人為		TM 5 周溝→本跡
16	B 2 b9	N-19°-E	円形	0.70×0.65	28	緩斜	皿状	人為		
17	B 2 b0	N-5°-E	楕円形	1.49×0.66	24	緩斜	凹凸	人為		
18	A 2 j9	N-0°	円形	0.50	26	緩斜	皿状	人為		
19	B 2 b0	N-60°-E	楕円形	0.72×0.56	17	緩斜	皿状	人為		
20	E 3 a0	N-11°-W	長方形	1.30×0.62	8	外傾	平坦	人為		
21	D 3 j0	N-17°-W	楕円形	1.12×0.68	22	外傾 緩斜	平坦	人為		

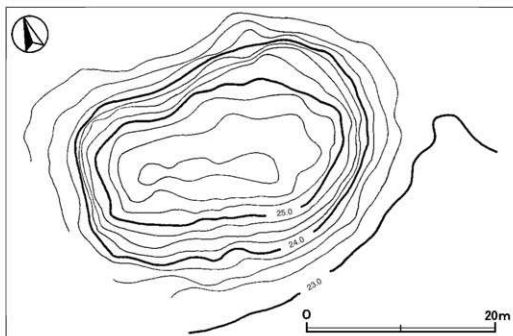
第4節 ま と め

1 はじめに

第5号墳は、17基で構成されている古墳群の中の1基で、つくば市立高山中学校東側の8基のグループに属している。調査の結果、当古墳は前方後円墳であることが確認され、その他時期不明の土坑21基が確認された。ここでは、調査結果の概略をまとめ、若干の考察を行う。

2 第5号墳の形状について

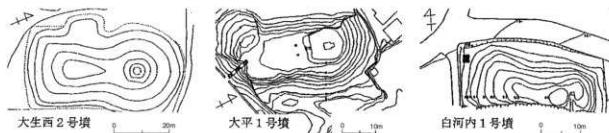
昭和57年には、第1・2号墳が調査¹⁾されているが、これらも前述した同じグループを構成している古墳である。第1号墳は、墳丘の外側に明瞭な周溝を有する「方墳」であるが、既に盗掘されていた。墳丘は小規模であるが、南側の低地を見下ろす台地先端部から傾斜面にかけて築造されている。第2号墳は、全長約28m、高さ約2.8m、3～4m幅の周溝を有する「帆立貝式古墳」と報告されている。また、この中で岩崎卓也氏は、これらの古墳の形成時期について形態がよく整った「方墳」であることや「横穴式石室」を有することなどから、茨城県から千葉県北部にかけて多く分布する「変則的古墳」と共通する時期に形成されたものと推測し、古墳時代終末期に近い時期に築造されたものと想定している。²⁾



第106図 下河原崎高山古墳群第5号墳測量図

今回調査した第5号墳は、西谷田川左岸に張り出した台地の南端部に位置している。墳丘は台地斜面の上部に構築されており、盛土されている。現在、東部は南北に走る幹線道路が隣接している。墳丘の形状は、『つくば市遺跡地図』³⁾では「長方墳」と記載されているが、全長約38m、高さ約2.8m、1.7～2.5m幅の周溝を有する「前方後円墳」であることを確認した。

茨城県では、稲村繁氏の研究⁴⁾によると、北浦南部の大生西2号墳、那珂川下流域の大平1号墳と虎塚古墳、久慈川流域の白河内1号墳などが同時期と推測できる。いずれも、当古墳と同様にくびれ部がほとんど認められない墳形を呈しており、いずれも7世紀初頭と位置付けられる。



第107図 近隣の前方後円墳実測図 (註4文献より転載一部抜粋)

	北浦南部		親ヶ浦南部	北浦北部	桜川下流以南	筑波山周辺	那珂川下流域	久慈川流域	県北部
TK10 550 MT85	宮中野古墳群	大生西古墳群				八幡塚	神の宮1	神山10 四方5	
TK43		東 稲塚塚	観音寺1	● 塚本	山口2	三ツ塚2	上野	神原上3	
TK209 600	85-8 90-2 97-3	西3 西4 西5 西6 西7	観音寺1 日天月天塚 観音寺7	● 塚本 ● 内塚5 ● 内塚6	● 受堂山 ● 内塚7	● 山口1 ● 中台2 ● 中台5	● 神の宮2 ● 上野	● 神山10 ● 神山11 ● 神山12 ● 神山13 ● 神山14 ● 神山15 ● 神山16 ● 神山17 ● 神山18 ● 神山19 ● 神山20 ● 神山21 ● 神山22 ● 神山23 ● 神山24 ● 神山25 ● 神山26 ● 神山27 ● 神山28 ● 神山29 ● 神山30 ● 神山31 ● 神山32 ● 神山33 ● 神山34 ● 神山35 ● 神山36 ● 神山37 ● 神山38 ● 神山39 ● 神山40 ● 神山41 ● 神山42 ● 神山43 ● 神山44 ● 神山45 ● 神山46 ● 神山47 ● 神山48 ● 神山49 ● 神山50	
TK217 650	山崎大塚	東 塚塚	● 前山	● 塚本 ● 内塚5 ● 内塚6	● 受堂山 ● 内塚7	● 山口1 ● 中台2 ● 中台5	● 神の宮2 ● 上野	● 神山10 ● 神山11 ● 神山12 ● 神山13 ● 神山14 ● 神山15 ● 神山16 ● 神山17 ● 神山18 ● 神山19 ● 神山20 ● 神山21 ● 神山22 ● 神山23 ● 神山24 ● 神山25 ● 神山26 ● 神山27 ● 神山28 ● 神山29 ● 神山30 ● 神山31 ● 神山32 ● 神山33 ● 神山34 ● 神山35 ● 神山36 ● 神山37 ● 神山38 ● 神山39 ● 神山40 ● 神山41 ● 神山42 ● 神山43 ● 神山44 ● 神山45 ● 神山46 ● 神山47 ● 神山48 ● 神山49 ● 神山50	
TK46	112		● 前山	● 塚本 ● 内塚5 ● 内塚6	● 受堂山 ● 内塚7	● 山口1 ● 中台2 ● 中台5	● 神の宮2 ● 上野	● 神山10 ● 神山11 ● 神山12 ● 神山13 ● 神山14 ● 神山15 ● 神山16 ● 神山17 ● 神山18 ● 神山19 ● 神山20 ● 神山21 ● 神山22 ● 神山23 ● 神山24 ● 神山25 ● 神山26 ● 神山27 ● 神山28 ● 神山29 ● 神山30 ● 神山31 ● 神山32 ● 神山33 ● 神山34 ● 神山35 ● 神山36 ● 神山37 ● 神山38 ● 神山39 ● 神山40 ● 神山41 ● 神山42 ● 神山43 ● 神山44 ● 神山45 ● 神山46 ● 神山47 ● 神山48 ● 神山49 ● 神山50	
TK48 700 MI21	99-1		● 前山	● 塚本 ● 内塚5 ● 内塚6	● 受堂山 ● 内塚7	● 山口1 ● 中台2 ● 中台5	● 神の宮2 ● 上野	● 神山10 ● 神山11 ● 神山12 ● 神山13 ● 神山14 ● 神山15 ● 神山16 ● 神山17 ● 神山18 ● 神山19 ● 神山20 ● 神山21 ● 神山22 ● 神山23 ● 神山24 ● 神山25 ● 神山26 ● 神山27 ● 神山28 ● 神山29 ● 神山30 ● 神山31 ● 神山32 ● 神山33 ● 神山34 ● 神山35 ● 神山36 ● 神山37 ● 神山38 ● 神山39 ● 神山40 ● 神山41 ● 神山42 ● 神山43 ● 神山44 ● 神山45 ● 神山46 ● 神山47 ● 神山48 ● 神山49 ● 神山50	

第108図 稲村氏による茨城県内の古墳編年 (註4文献より転載)

また小室勉氏は、茨城県内の「小規模前方後円墳」は前方部に張りがあり、くびれも顕著なものに始まり、次第に張りを失った短小な長方形形状前方部へと移行した³⁾と指摘しているが、当古墳はその系譜とは別系統の古墳と考えられる。

3 小結

下河原崎高山古墳群の第5号墳は、今後埋蔵施設などの内部構造や出土土器などによって築造時期がより明確になると考えられるが、周辺の遺跡や古墳群との関連についても究明していくことが必要である。

註

- 1) 佐野正「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ遺跡 高山古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第22集 1983年3月
- 2) 註1)に同じ
- 3) つくば市教育委員会『つくば市遺跡地図』2001年7月
- 4) 稲村繁「茨城における前方後円墳の終焉とその後」『第5回東北・関東前方後円墳研究会大会 発表要旨資料』2000年1月
- 5) 小室勉「前方後円墳の終焉と方墳」『常陸国風土記と考古学』雄山閣 1985年9月

付 章

下河原崎谷中台遺跡の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

下河原崎谷中台遺跡は、西谷田川に面した台地上に位置しており、発掘調査により旧石器時代、縄文時代、古墳時代の遺構・遺物が検出されている。このうち、古墳時代中期の第55号住居跡と第63号住居跡では、豊原付近から径約8-12cm、長さ約1.2mの炭化材が50-60cm間隔で出土している。これらの炭化材は、屋根の部材の可能性もあるが、住居の中央部に炭化材が認められないこと、炭化材の中に床面よりも下部に潜り込んでいる部分もあること等から、床面に意図的に埋めた可能性もあると考えられている。また、第80号住居跡からも別な用途と思われる炭化材が出土している。

本報告では、これらの炭化材を対象として、住居の年代確認のための放射性炭素年代測定と、木材利用を明らかにするための樹種同定を実施する。

1 試料

試料は、第55号住居跡から出土した炭化材2点（試料番号1、2）と第63号住居跡から出土した炭化材1点（試料番号3）、第80号住居跡から出土した炭化材1点（試料番号4）の合計4点である。放射性炭素年代測定は、炭化材の保存状態や大きさを考慮して、試料番号2、3、4の3点について実施し、樹種同定は全点を対象とする。

2 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

(2) 樹種同定

木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東 (1982) および Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、木材組織の配列の特徴については、林 (1991)、伊東 (1995、1996、1997、1998、1999) や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3 結果

同位体効果による補正を行った測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。試料番号2は、1,570±30 BP、試料番号3は1,730±30 BP、試料番号4は1,760±30 BPを示す。

表1. 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

番号	遺構種別	遺物番号	種類	樹種	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
1	第55号住居跡	No.56	炭化材	コナラ 風クヌギ節	—	—	—	—	—
2	第55号住居跡	No.57	炭化材	コナラ 風クヌギ節	1,570±30	-30.68±0.93	1,680±30	9560-1	IAAA-62442
3	第63号住居跡	—	炭化材	コナラ 風クヌギ節	1,730±30	-27.19±0.83	1,760±30	9560-2	IAAA-62443
4	第80号住居跡	No.42	炭化材	ハンノキ属ハンノキ亜属	1,760±30	-24.37±0.97	1,750±30	9760-1	IAAA-71066

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表2. 暦年較正結果

番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)			相対比	Code No.
2	1,568±33	σ	cal AD 434 - cal AD 493	cal BP 1,516 - 1,457	0.638	9560-1
			cal AD 506 - cal AD 522	cal BP 1,444 - 1,428	0.179	
			cal AD 526 - cal AD 538	cal BP 1,424 - 1,412	0.138	
3	1,728±31	σ	cal AD 419 - cal AD 563	cal BP 1,531 - 1,387	1.000	9560-2
			cal AD 255 - cal AD 305	cal BP 1,695 - 1,645	0.565	
			cal AD 312 - cal AD 347	cal BP 1,638 - 1,603	0.365	
4	1,764±33	σ	cal AD 370 - cal AD 377	cal BP 1,580 - 1,573	0.071	9760-1
			cal AD 241 - cal AD 393	cal BP 1,709 - 1,557	1.000	
			cal AD 232 - cal AD 264	cal BP 1,718 - 1,686	0.369	
4	1,764±33	2σ	cal AD 275 - cal AD 333	cal BP 1,675 - 1,617	0.631	9760-1
			cal AD 139 - cal AD 160	cal BP 1,811 - 1,790	0.030	
			cal AD 165 - cal AD 195	cal BP 1,785 - 1,755	0.052	
4	1,764±33	2σ	cal AD 209 - cal AD 308	cal BP 1,741 - 1,592	0.891	9760-1
			cal AD 365 - cal AD 381	cal BP 1,585 - 1,569	0.027	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すがが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。測定誤差を σ として計算させた結果、試料番号2はcalAD 434-538、試料番号3はcalAD 255-377、試料番号4はcalAD 232-333である。

一方、試料番号1～3の炭化材は、3点とも落葉広葉樹のコナラ属クスギ節に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属クスギ節 (*Quercus sect. Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

また、試料4の炭化材は、落葉広葉樹のハンノキ属ハンノキ亜属に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

4 考察

第55・63号住居跡から出土した炭化材は、全て落葉広葉樹のクスギ節であり、住居による樹種の違いは認められなかった。日本のクスギ節には、クスギとアベマキの2種があるが、クスギが関東地方の二次林などに一般的な樹種であるのに対し、アベマキは西日本を中心に分布しており、現在の関東地方には分布していない。このような状況を考慮すれば、今回のクスギ節も関東地方に一般的なクスギの可能性が高い。クスギは、重硬で強度が高い材質を有している。

第55・63号住居跡から出土した炭化材は、床面に意図的に埋めた可能性もあるとされる。茨城県内では、同様の検出状況の炭化材について樹種同定を実施した例がない。しかし、茨城県における古墳時代の住居跡出土炭化材の樹種同定結果をみると、沿海地でアカガシ亜属等の常緑広葉樹林の構成種、内陸部でクスギ節・コナラ節が比較的多く利用される傾向がある。今回の結果は、茨城県の内陸部における住居構築材の樹種同定結果とも調和的であり、同様の木材が利用されていたことが推定される。

第80号住居跡では、南東壁沿いを中心に炭化材が出土している。No.2は、壁からやや離れた床面上から出土しており、炭化材の軸方向（繊維方向）は、壁と直交する方向となる。この炭化材の暦年較正結果は、calAD 232～333であり、推定されている住居の年代よりは古い年代を示している。

炭化材の樹種は落葉広葉樹のハンノキ亜属であった。ハンノキ亜属には、ハンノキ、サククラハンノキ、ケヤマハンノキ、ミヤマカワラハンノキ、カワラハンノキ、ヤハズハンノキ、サルクラハンノキがあり、水辺に生育する種類が多い。このうち、本遺跡周辺で最も一般的なのは湿地林を形成するハンノキであり、周

辺低地に生育していた樹木を構築材として利用したことが推定される。ハンノキの木材は、重硬で強度の高い部類に入るが、保存性は低いとされる。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
- 伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。
- 伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。
- 伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。
- 伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。
- 伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 1994, 高崎貝塚遺構内出土炭化材の樹種同定について, 『茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』, 財団法人茨城県教育財団, 318-320, PL 78。
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 1997, 神田道跡から出土した炭化材の樹種, 『(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』, 財団法人茨城県教育財団, 294-296。
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 1998 a, 南小淵道跡から出土した炭化材の樹種, 『茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書』, 茨城県教育財団, 149-152。
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 1998 b, 炭焼道跡から出土した炭化材の樹種, 『北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』, 茨城県教育財団, 276-278。
- 高地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176 p。
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語監修), 海青社, 122 p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

写真図版

下河原崎谷中台遺跡

下河原崎高山古墳群



下河原崎谷中台遺跡出土土器

第 52 号住居跡
完 掘 状 況



第 4 号陥し穴
完 掘 状 況



第 35 号住居跡
完 掘 状 況



下河原崎谷中台遺跡

PL 2



第 51 号住居跡
完 掘 状 況



第 51 号住居跡
遺物出土狀況



第 72 号住居跡
完 掘 状 況



第 80 号 住居 跡
完 掘 状 况



第 80 号 住居 跡
焼土・炭化材出土状況



第 53 号 住居 跡
完 掘 状 况

下河原崎谷中台遺跡

PL 4



第53号住居跡
遺物出土状況



第55号住居跡
完掘状況



第55号住居跡
遺物出土状況



第 55 号 住居 跡
炭化材出土状況



第 55 号 住居 跡
炭化材土層断面



第 55 号 住居 跡
ピット 6 遺物出土状況

下河原崎谷中台遺跡

PL 6



第 56 号住居跡
遺物出土状況



第 57 号住居跡
遺物出土状況



第 57 号住居跡
遺物出土状況



第 63 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 64 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 65 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

下河原崎谷中台遺跡

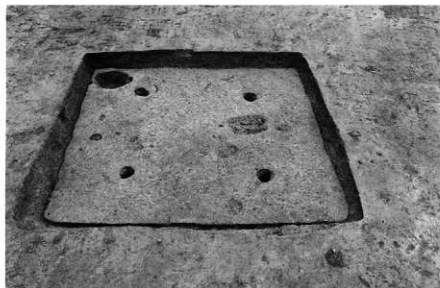
PL 8



第 69 号住居跡
完 掘 状 況



第 70 号住居跡
遺物出土狀況



第 73 号住居跡
完 掘 状 況

第 73 号 住居跡
貯藏穴遺物出土狀況



第 75 号 住居跡
遺物出土狀況



第 77 号 住居跡
遺物出土狀況



下河原崎谷中台遺跡

PL 10



第 78 号住居跡
遺物出土状況



第 79 号住居跡
貯藏穴遺物出土状況



第 81・82号住居跡
完掘状況



第81号住居跡
遺物出土状況



第60号住居跡
遺物出土状況



第60号住居跡
竈遺物出土状況



第 62 号住居跡
竈完掘状況



第 74 号住居跡
完掘状況



第 74 号住居跡
貯藏穴遺物出土状況

第 250 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 290 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 1 号 炭 烧 窑 跡
炭 化 室 B 完 掘 状 况



下河原崎谷中台遺跡

PL 14



第1号炭焼窯跡
炭化室A完掘状況



第1号炭焼窯跡
炭化室A完掘状況
(炭除去後)



2区全景(北東より)



第 5 号 墳 全 景



第 5 号 墳
周 溝 完 掘 状 況



第 5 号 墳
周 溝 土 層 断 面





第55・57・60・74・75・81号住居跡出土遺物

下河原崎谷中台遺跡

PL 18



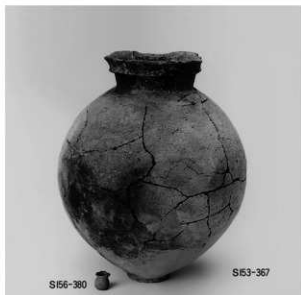
第56・64・70・77・78・79号住居跡出土遺物





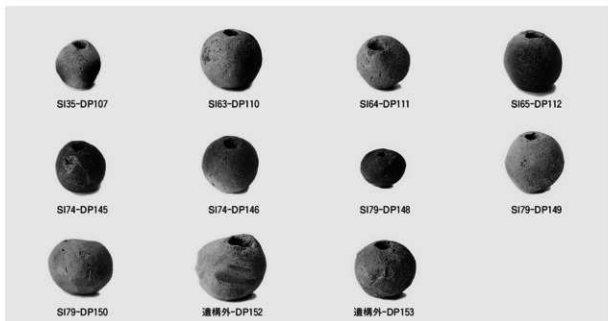
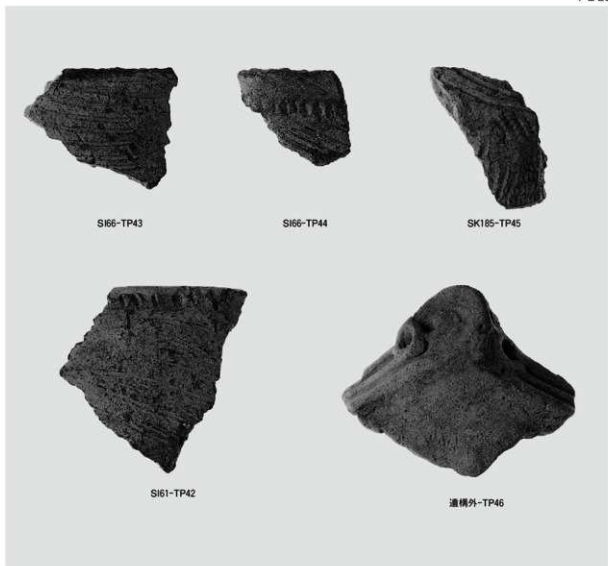






下河原崎谷中台遺跡
PL 24







DP113



DP114



DP115



DP116



DP117



DP118



DP119



DP120



DP121



DP122



DP123



DP124



DP125



DP126



DP127



DP128



DP129



DP130



DP131



DP132



DP133



DP134



DP135



DP136



DP137



DP138



DP139



DP140



DP141



DP142



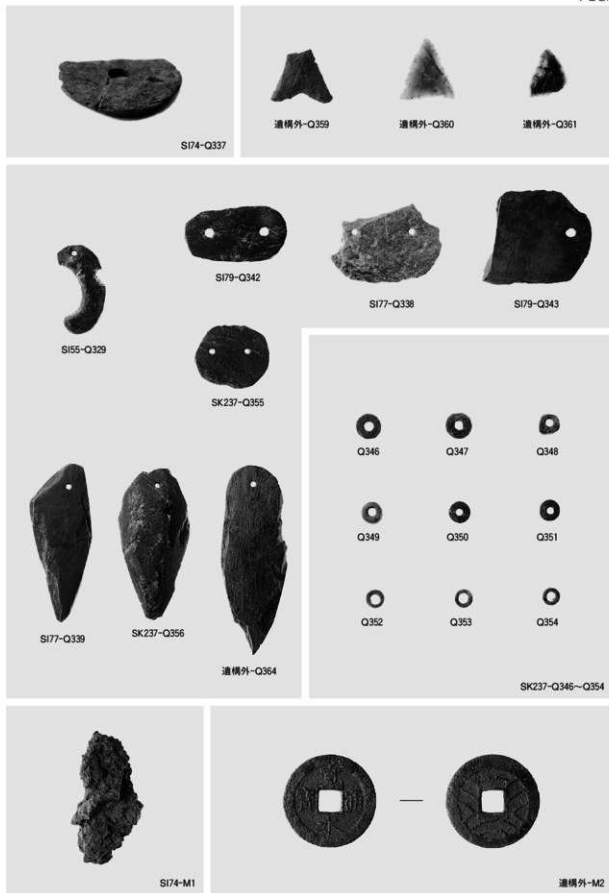
DP143



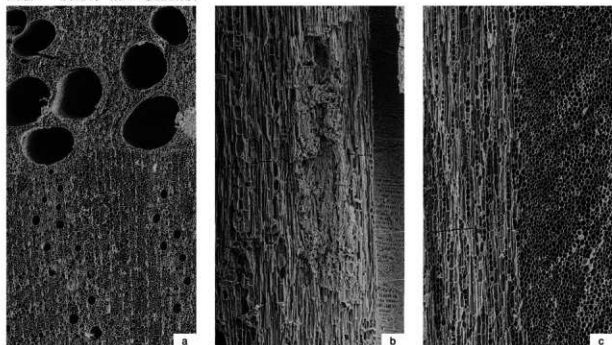
DP144

DP113~DP144





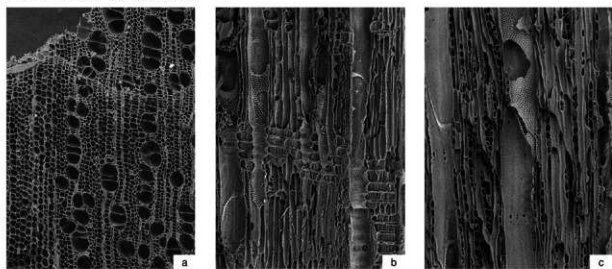
図版 1 炭化材 (第55号住居跡)



コナラ属クスギ節 (試料番号 1 ; No56)

200 μ m:a
200 μ m:b,c

図版 2 炭化材 (第80号住居跡)



ハンノキ属ハンノキ亜属 (試料番号 4 ; No42)

a : 木口, b : 柀目, c : 板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

茨城県教育財団文化財調査報告第292集

下河原崎谷中台遺跡
下河原崎高山古墳群

上河原崎・中西特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書4

平成20(2008)年 3月19日 印刷
平成20(2008)年 3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 いばらき印刷株式会社
〒319-1112 茨城県那珂郡東海村松字平原3115-3
T E L 029-282-0370